

富 田 細 田 遺 跡  
富 田 宮 下 遺 跡

一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

《遺物観察表編》

2006

国 土 交 通 省  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 富田細田遺跡 富田宮下遺跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

《遺物観察表編》

2006

国 土 交 通 省  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



## 例言

1. 本書は富田細田遺跡および富田宮下遺跡の発掘調査報告書の《遺物観察表編》である。

## 凡例

1. 遺物の一覧表は、遺構ごとに作成した。
2. 遺構は時期ごとに、発掘区の番号順で並べた。
3. 掲載頁・図番号は《本文・写真図版編》で報告した頁・図番号を、掲載写真は写真図版のP L番号を記載した。
4. 出土状態の項の①は遺構内の平面的位置を表す。②は床面比高を表し、床直は床面直上からの出土を、+6.5は床面から6.5cm遊離した上層の位置から出土したことを表す。
5. 法量の項の口は口径、底は底径を表し、( )のあるものは復元値を表す。高は器高を表し( )のあるものは残存値を表す。
6. 古銭の計測値のうち、銭径A・Cは方孔の左上～右下の対角線上で外径・内径を、銭径B・Dは右上～左下の対角線上で外径・内径をノギスで計測した。銭厚は①は方孔の上、②は右、③は下、④は左の位置で同じくノギスで計測した。

## 目次

1 富田細田遺跡と 富田宮下遺跡低地部分	C区19号住居……………12	C区57号住居……………29
(1)平安時代以前の 遺構出土遺物	C区26号住居……………12~14	A区5号住居……………29
細田C区洪水層下水田……………1	C区27号住居……………14	C区2号址……………29・30
細田C区10号溝……………1	C区53号住居……………15	A区1号址……………30
細田E区3号溝……………1	C区58号住居……………15	C区6号土坑……………30
細田E区5号溝……………1	C区59号住居……………15・16	C区1号倒木痕……………30
細田E区1号土坑……………1	C区73号住居……………16	古墳時代前・中期の 遺構外出土遺物……………31
富田細田遺跡遺構外出土遺物 (平安時代以前)……………1・2	C区77号住居……………17・18	(3)古墳時代後期の 遺構出土遺物
(2)近世以降の遺構出土遺物	C区80号住居……………18・19	A区1号住居……………31
細田C区1号掘立柱建物……………2・3	C区1号址……………19	B区2号住居……………31
細田C区1号溝……………3~5	(2)古墳時代前・中期の 遺構出土遺物	B区3号住居……………31~33
細田C区3号溝……………6	A区4号住居……………19	B区4号住居……………33・34
宮下A区1号溜井……………6	C区4号住居……………19・20	B区5号住居……………34
宮下A区1号溝……………6	C区6号住居……………21	B区10号住居……………34~36
宮下A区2号溝……………6	C区12号住居……………21~23	B区13号住居……………36
富田細田遺跡遺構外出土遺物 (近世以降)……………7・8	C区15号住居……………23・24	B区16号住居……………36
	C区17号住居……………25	C区3号住居……………36
	C区21号住居……………25	C区9号住居……………37
	C区24号住居……………25	C区13号住居……………37・38
	C区25号住居……………25・26	C区14号住居……………38~40
2 富田宮下遺跡台地部分	C区29号住居……………26・27	C区18号住居……………41
(1)弥生時代の遺構出土遺物	C区32号住居……………28	C区38号住居……………42
C区11号住居……………9・10	C区34号住居……………28	C区42号住居……………42
C区16号住居……………10・11	C区43号住居……………28・29	

C区44号住居	42	C区45号住居	65	A区3号井戸	90
C区55号住居	43~45	C区52号住居	65	A区6号井戸	90
C区62号住居	45	C区56号住居	65・66	B区1号井戸	90
C区65号住居	45	C区60号住居	66・67	B区2号井戸	91
A区6号住居	46	C区64号住居	67・68	B区3号井戸	91
B区12号住居	47	C区67号住居	68・69	C区1号井戸	92
C区7号住居	47	C区74号住居	70	C区3号井戸	92
C区23号住居	47・48	C区79号住居	71	C区4号井戸	93
C区41号住居	48・49	C区1号住居	72・73	A区12号溝	93・94
C区63号住居	49	C区22号住居	73・74	A区15号溝	94
C区71号住居	49	C区30号住居	74・75	A区18号溝	95
A区23号溝	50	C区35号住居	75・76	A区19号溝	95
古墳時代後期の遺構外出土遺物	50	C区36号住居	76・77	A区20号溝	95
		C区37号住居	77	A区22号溝	95
(4) 奈良・平安時代の		C区40号住居	77・78	A区28号溝	95
遺構出土遺物		C区46号住居	78・79	A区29号溝	95・96
A区2号住居	50・51	C区47号住居	79・80	B区1号溝	96
A区3号住居	51	C区49号住居	80	B区2号溝	97
A区7号住居	51・52	C区48号住居	80	B区3号溝	97
B区0号住居	52	C区51号住居	80・81	B区8号溝	97
B区1号住居	53	C区54号住居	81	C区1号溝	98
B区7号住居	53	C区61号住居	81・82	C区2号溝	98・99
B区8号住居	53・54	C区66号住居	82	C区5号溝	99
B区9号住居	54・55	C区68号住居	82・83	C区6号溝	99
B区11号住居	56	C区70号住居	83・84	C区7号溝	99
B区14号住居	56・57	C区72号住居	84・85	C区8号溝	99
B区15号住居	57	C区75号住居	85・86	C区9号溝	100
B区17号住居	57・58	C区76号住居	86・87	C区12号溝	100
C区5号住居	58・59	C区78号住居	87・88	B区3号土坑	100
C区8号住居	59	C区50号住居	88	B区8号土坑	100
C区10号住居	59	C区3号掘立柱建物	88	C区道状遺構	100
C区20号住居	60~62	C区4号掘立柱建物	88	C区3号址	101
C区28号住居	62・63	奈良・平安時代の遺構外出土遺物	88・89	中・近世の遺構外出土遺物	101~105
C区31号住居	63				
C区33号住居	64	(5) 中・近世の遺構出土遺物			
C区39号住居	64・65	A区2号井戸	90		

# 1 富田細田遺跡と富田宮下遺跡低地部分

## (1) 平安時代以前の遺構出土遺物

### 細田C区洪水層下水田 (第23図 PL16)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 杯	②洪水層下	口縁～底部破片 口・13.5 底・6.0 高・3.8	①透明鉍物粒 ②還元 ③灰白	ロクロ右回転成整形、底部回転糸切り。 器内面を黒色に燻す。	

### 細田C区10号溝 (第26図 PL16)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 杯	①②洪水層下埋 没土	1/2 口・12.4 底・4.5 高・4.0	①黒色鉍物粒 ②還元 ③にぶい橙	ロクロ成整形。底部外面ヘラケズリ。	

### 細田E区3号溝 (第29図 PL16)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 横瓶	①②埋没土	破片 厚・1.1	①白色鉍物粒 ②還元 ③灰	ロクロ成形。内面は擦り消し。	

### 細田E区5号溝 (第31図 PL16)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 杯	①②埋没土	ほぼ完形 口・11.7 底・6.0 高・3.3	①白色鉍物粒 ②還元 ③灰	ロクロ右回転成整形。内外面を黒色に 燻す。	

### 細田E区1号土坑 (第27図 PL16)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 碗	①②埋没土	完形 口・15.5 底・7.5 高・5.3	①小礫 ②還元 ③灰白	ロクロ右回転成整形。付高台。	

### 細田遺構外出土遺物 (平安時代以前) (第37図 PL16)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 壺	①②C区3面 34G-5	口縁部破片 口・(9.8) 高・(4.3)	①黒色鉍物粒 ②酸化・不良 ③橙	口縁部内外面、ヘラミガキ。	
2	土師器 高杯?	①②E区ⅩⅦ層上 層	杯部破片 高・(5.5)	①透明鉍物粒 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部内外面ヨコ位のヘラミガキ。	
3	土師器 壺	①②C区3面 34G-5	胴～底部1/2 底・5.2 高・(9.2)	①黒色鉍物粒 ②酸化・不良 ③橙	胴部外面全面にヘラミガキ。胴部内面 ヘラナデ。	

富田細田遺跡・富田宮下遺跡低地部分

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
4	土師器 高杯	①②E区Ⅶ層上層	脚部破片 底・6.0 高・8.3	①黒色鉍物粒 ②酸化・不良 ③にぶい橙	脚部外面ヘラナデ。脚部内面に3段の輪積み痕。	
5	土師器 杯	①②E区Ⅶ層	1/4 口径・(12.0) 高・(4.2)	①白色粒 ②酸化 ③にぶい橙	底部外面ヘラケズリ。	
6	土師器 小型甕	①②E区Ⅶ層上層	口縁～胴部 口・(14.4) 高・(7.8)	①透明鉍物粒・小礫 ②酸化 ③明赤褐	口縁部外面ヨコナデ、ヨコ位のヘラケズリ。内面ヘラミガキ後、ヘラナデ?	
7	土師器 小型甕	①②E区Ⅶ層上層	胴～底部 底・5.9 高・(5.9)	①透明鉍物粒・礫 ②酸化 ③明赤褐	底部外面ヘラケズリ後、ヘラミガキ。内面ナデ。	
8	須恵器 碗	①②E区34K-8	高台部欠損 口・13.0 高・(4.5)	①白色鉍物粒・小礫 ②還元・不良 ③黒褐	ロクロ右回転成整形。高台部欠損。	
9	須恵器 杯	①②E区Ⅶ層上層	底部1/3 高・(2.2) 底・6.0	①黒色粒 ②還元・不良 ③灰白	ロクロ右回転成整形。	
10	石製品 勾玉	①②E区排土中	完形 幅・2.0 厚・1.1 高・3.1 重・7.5g	石材 ようろう石	側縁の背や腹部分に面取りのような狭い幅の面がみられる。	
11	土師器 高杯	①宮下A区低地部 ②C混黒	2/3 口・(18.3) 高・(15.0)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	杯部は口縁部が外傾著しく、ナナメ上方に向けて立ち上がる。脚部は裾部が欠損するが、屈折脚であったと考えられる。杯部外面は口縁部下位にヘラケズリを施す他はヨコナデ・ナデ。ナデの上に棒状工具によるミガキを施す。脚部外面も同様。内面はナデ・ヨコ方向のヘラケズリ。	杯部と脚部の破片を図上復元。

(2) 近世以降の遺構外出土遺物

細田C区1号掘立柱建物(第39・40図 PL17)

挿図番号 P L No	種別 銭貨名	出土位置 ①平面②垂直	銭外径 (mm)	銭内径 (mm)	銭厚 (mm)	重さ (g)	初鑄年代 国名	備考
1	銅銭 開元通寶	①柱穴2 ②埋没土	A 24.17 B 24.42	C 17.85 D 18.42	① 0.96 ② 1.32 ③ 1.11 ④ 1.04	2.95	845・960年 唐・南唐	
2	銅銭 唐國通寶	①柱穴2 ②埋没土	A 24.14 B 24.11	C 18.21 D 18.23	① 1.13 ② 1.15 ③ 1.18 ④ 1.08	2.84	959年 南唐	
3	銅銭 景德通寶	①柱穴2 ②埋没土	A 24.62 B 24.41	C 19.94 D 19.63	① 1.03 ② 1.15 ③ 1.26 ④ 1.15	2.79	1004年 北宋	
4	銅銭 天禧通寶	①柱穴2 ②埋没土	A 24.29 B 24.38	C 18.69 D 18.60	① 1.46 ② 1.51 ③ 1.39 ④ 1.46	3.41	1017年 北宋	
5	銅銭 皇宋通寶	①柱穴2 ②埋没土	A 24.37 B 23.81	C 19.47 D 19.18	① 1.17 ② 1.24 ③ 1.55 ④ 1.16	2.80	1038年 北宋	
6	銅銭 政和通寶	①柱穴2 ②埋没土	A 23.88 B 24.26	C 20.12 D 20.74	① 1.10 ② 1.14 ③ 1.18 ④ 1.20	2.29	1111年 北宋	
7	銅銭 永樂通寶	①柱穴2 ②埋没土	A 24.96 B 25.09	C 20.26 D 20.29	① 1.23 ② 1.24 ③ 1.38 ④ 1.36	2.59	1408年 明	
8	銅銭 永樂通寶	①柱穴2 ②埋没土	A 24.84 B 24.90	C 20.70 D 20.23	① 1.23 ② 1.16 ③ 1.51 ④ 1.42	3.26	1408年 明	
9	銅銭 永樂通寶	①柱穴2 ②埋没土	A 24.33 B 25.24	C 20.24 D 20.36	① 1.37 ② 1.31 ③ 1.36 ④ 1.40	3.02	1408年 明	
10	銅銭 寛永通寶	①柱穴2 ②埋没土	A 23.73 B 23.71	C 19.05 D 18.66	① 1.30 ② 1.22 ③ 1.29 ④ 1.24	2.13	1636～ 1659年 日本	1期=古寛永

挿図番号 P L No.	種別 銭貨名	出土位置 ①平面②垂直	銭外径 (mm)	銭内径 (mm)	銭厚 (mm)	重さ (g)	初鑄年代 国名	備考
11	銅銭 寛永通寶	①柱穴2 ②埋没土	A 25.34 B 25.30	C 19.62 D 19.74	① 1.29 ② 1.31 ③ 1.25 ④ 1.46	2.88	1668～ 1683年 日本	2期=新寛永 (文銭)
12	銅銭 寛永通寶	①柱穴2 ②埋没土	A 23.16 B 23.14	C 18.06 D 18.47	① 1.29 ② 1.42 ③ 1.40 ④ 1.59	2.62	1697～ 1747年 1767～ 1781年	3期=新寛永

細田C区1号溝 (第47～50図 PL17～19)

挿図番号 P L No.	種別 種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	磁器 碗	①②埋没土	破片 口・(6.4) 底・(3.4) 高・5.0	①混入物なし ②還元 ③灰白	内外面に染付。	瀬戸・美濃。 江戸～明治 初期。
2	磁器 飯碗	①②埋没土	ほぼ完形 口・8.2 底・2.8 高・4.8	①混入物なし ②還元 ③灰白	ゴム印判。「岐303」の染付による生産 番号。	美濃。 昭和。
3	磁器 碗	①②埋没土	1/3 口・(9.0) 底・(3.8) 高・4.4	①混入物なし ②還元 ③灰白	外面に染付。	肥前。 波佐見系。 江戸。
4	陶器 碗	①②埋没土	1/4 底・(5.0) 高・(3.9)	①混入物なし ②還元 ③灰白	陶胎染付。	肥前。 江戸。
5	磁器 碗	①②埋没土	1/2 口・(8.2) 底・(3.4) 高・4.2	①混入物少量 ②還元 ③明緑灰	内外面に染付。	肥前。 江戸。
6	磁器 碗	①②埋没土	1/3 口・(11.4) 底・4.0 高・4.8	①混入物なし ②焼成不良 ③灰白	型紙摺。	製作地不詳。 近代。
7	陶器 碗	①②埋没土	1/4 口・(11.0) 高・(4.5)	①黒色物少量 ②還元 ③灰白	貫入の入る灰釉。	京・信楽系 陶器。江戸。
8	施釉陶器 灯明皿	①②埋没土	口縁～底部破片 口・(9.4) 底・(4.8) 高・1.7	①混入物少量 ②還元 ③赤褐	口縁部外面以下釉を拭い取る。錆釉。	瀬戸・美濃。
9	施釉陶器 皿	①②埋没土	口縁～底部 口・(14.0) 底・(3.5) 高・2.3	①混入物少量 ②還元 ③灰白	内面から高台部内まで施釉。灰釉?	瀬戸・美 濃? 陶器。 時期不詳。
10	磁器 皿	①②埋没土	口縁～底部破片 高・2.4	①混入物なし ②還元 ③灰白	内面に染付。高台部方形。	瀬戸・美 濃? 江戸～ 明治初期。
11	陶器 皿	①②埋没土	1/4 口・(10.5) 底・(5.9) 高・2.3	①混入物少量 ②還元 ③灰白	内面から高台部内灰釉。口縁部欠損 部に油付着。灯明皿として使用。	瀬戸・美濃。 江戸。
12	施釉陶器 土瓶	①②埋没土	口縁部破片 口・(7.8) 高・(2.2)	①黒色鉱物粒 ②還元 ③灰白	鉄絵。灰釉。	製作地不詳。 近・現代。
13	施釉陶器 猪口	①②埋没土	1/3 口・(8.0) 底・(3.6) 高・4.3	①黒色鉱物粒 ②還元 ③オリブ灰	八角形の猪口。内面から口縁部外面貫 入の入る灰釉。外面口縁部以下は錆色 の鉄釉。外面外型による施文。	相馬。 近・現代。

富田細田遺跡・富田宮下遺跡低地部分

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
14	施釉陶器 鉢	①②埋没土	1/3 底・(7.8) 高・(6.9)	①黒色鉱物粒少量 ②還元 ③灰白	内面から高台部脇透明釉薄く施す。内面目痕残る。	製作地不詳。 江戸～近代。
15	陶器 小壺	①②埋没土	1/4 口・(9.0) 高・(6.0)	①混入物少量 ②還元 ③暗赤褐	内外面柿釉。肩部に灰釉を施す。	製作地不詳。 江戸～近代。
16	陶器 手捏ね鉢	①②埋没土	口縁～胴部破片 口・(31.0) 高・(15.0)	①混入物少量 ②還元 ③灰白	内外面貫入の入る灰釉。	益子・笠間系陶器。 近・現代。
17	軟質陶器 焙烙	①②埋没土	破片 口・(33.9) 底・(30.0) 高・6.0	①細砂 ②還元 ③褐灰		在地系土器。 江戸。
18	軟質陶器 焙烙	①②埋没土	破片 口・(30.3) 底・(28.8) 高・5.4	①細砂 ②還元 ③褐灰		在地系土器。 江戸。
19	軟質陶器 片口鉢	①②埋没土	破片 厚・1.3	①白色鉱物粒 ②還元 ③灰白		在地系。 中世。
20	軟質陶器 片口鉢	①②埋没土	破片 厚・1.1	①細砂・粗砂 ②還元 ③灰黄褐		在地系。 中世。
21	軟質陶器 植木鉢?	①②埋没土	破片 口・(16.0) 高・(5.0)	①細砂・粗砂 ②還元 ③褐灰		在地系。 近・現代。
22-1	土器 不明	①②埋没土	口縁部破片 口・(10.0) 厚・1.2	①粗砂・細砂 ②還元 ③にぶい橙	器形不詳。焼成は軟質。	生産地不詳 土器。近・ 現代?
22-2	土器 不明	①②埋没土	胴部破片 厚・0.6	①粗砂・細砂 ②還元 ③にぶい橙	器形不詳。	生産地不詳 土器。近・ 現代?
22-3	土器 不明	①②埋没土	胴部破片 厚・0.8	①粗砂・細砂 ②還元 ③にぶい橙	外型により施文。内面黒色に塗る。	生産地不詳 土器。近・ 現代?
22-4	土器 不明	①②埋没土	胴部破片 厚・0.7	①粗砂・細砂 ②還元 ③にぶい橙	外型により施文。内面黒色に塗る。	生産地不詳 土器。近・ 現代?
22-5	土器 不明	①②埋没土	胴部破片 厚・0.5	①粗砂・細砂 ②還元 ③にぶい橙	外型により施文。内面黒色に塗る。	生産地不詳 土器。近・ 現代?
22-6	土器 不明	①②埋没土	胴部破片 厚・0.7	①粗砂・細砂 ②還元 ③にぶい橙	外型により施文。内面黒色に塗る。	生産地不詳 土器。近・ 現代?
23	軟質陶器 播鉢	①②埋没土	破片 高・(6.0)	①混入物少量 ②軟質 ③暗赤褐	内外面銷釉。	瀬戸・美濃。 江戸。
24	陶器 播鉢	①②埋没土	口縁部破片 高・(3.8)	①粗砂 ②還元 ③にぶい赤		堺・明石。 江戸。
25	陶器 播鉢	①②埋没土	口縁部破片 口・(29.0)	①黒色鉱物粒 ②還元 ③暗赤褐	銷釉。	瀬戸・美濃。 江戸。
26	陶器 播鉢	①②埋没土	口縁部破片 口・(32.6)	①粗砂・礫 ②還元 ③にぶい橙		丹波。 江戸。
27	陶器 播鉢	①②埋没土	口縁部破片 口・(33.0)	①白色鉱物粒 ②還元 ③橙	外面は口縁部下ヘラケズリ。	堺・明石。 江戸。

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調		成・整形技法の特徴			備考
28	陶器 挿針	①②埋没土	破片 高・(9.6)	①混入物少量 ②還元 ③褐灰	錆釉。			瀬戸・美濃。 江戸。	
29	陶器 挿針	①②埋没土	胴～底部破片 高・(7.5) 底・(12.0)	①粗砂 ②還元 ③にぶい赤褐	錆釉。			瀬戸・美濃。 江戸。	
30	焼締陶器 大甕	①②埋没土	破片 高・(3.0)	①白色鉱物粒 ②還元 ③褐灰	肩部外面に押印。外面自然釉かかる。			常滑。	
31	焼締陶器 甕	①②埋没土	破片	①白色鉱物粒 ②還元 ③にぶい褐				常滑。 中世か。	
32	焼締陶器 大甕	①②埋没土	破片 高・(7.6)	①粗砂多量 ②還元 ③灰褐				常滑。中世。	
33	土器 不詳	①②埋没土	破片 長・6.6 幅・(9.4) 厚・1.6	①粗砂 ②還元 ③にぶい橙	外型による施文。			製作地不詳 土器。近・ 現代。	
34	石製品 砥石	①②埋没土	一部欠損 長・(12.2) 幅・2.7 厚・3.5 重・152g	石材 砥沢石					
35	石製品 砥石	①②埋没土	ほぼ完形 長・12.1 幅・3.4 厚・4.0 重・278g	石材 砥沢石					
36	石製品 砥石	①②埋没土	破片 長・(5.5) 幅・2.9 厚・4.5 重・125g	石材 砥沢石	3面と木口櫛歯タガネ痕。				
37	石製品 砥石	①②埋没土	一部欠損 長・(10.4) 幅・(3.2) 厚・3.0 重・120g	石材 砥沢石					
38	鉄製品 蹄鉄	①②埋没土	ほぼ完形 長・9.8 幅・11.8 厚・0.5 重・71g		上端部を叩いて爪先をかける突出を造り出す。裏面の両側には弧状の溝を掘り、装着固定用の針穴を片側に4個ずつ設ける。その内2個は残存。				
挿図番号 P L No	種別 銭貨名	出土位置 ①平面②垂直	銭外径 (mm)	銭内径 (mm)	銭厚 (mm)	重さ (g)	初鑄年代 国名	備考	
39	銅銭 聖宋元寶	①②埋没土	A (21.39) B	C D	① 1.27 ② 1.08 ③ ④	1.15	1101年 北宋		
40	銅銭 天禧通寶	①②埋没土	A 25.33 B 25.38	C 20.18 D 20.47	① 1.24 ② 1.15 ③ 1.18 ④ 1.25	3.17	1017年 北宋	2期=新寛永(文銭)	
41	銅銭 寛永通寶	①②埋没土	A 28.20 B 28.29	C 20.91 D 20.96	① 1.67 ② 1.53 ③ 1.39 ④ 1.47	4.84	1768年 日本		

細田C区 3号溝 (第50図)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考		
1	施釉陶器 平碗	①②埋没土	口縁部破片 口・(14.0)	①混入物少量 ②還元 ③浅黄	内外面施釉。	古瀬戸。 14～15世紀。		
挿図番号 P L No	種別 銭貨名	出土位置 ①平面②垂直	銭外径 (mm)	銭内径 (mm)	銭厚 (mm)	重さ (g)	初鑄年代 国名	備考
2	銅銭 淳化元寶	①②埋没土	A 25.02 B 25.11	C 17.46 D 17.65	① 1.27 ② 1.04 ③ 1.52 ④ 1.45	3.05	990年 北宋	

宮下A区 1号溜井 (第52・53図 PL19・20)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師質土器 皿	①埋没土 ②底部付近	破片 底・(5.0) 高・(1.5)	①黒色粒子 ②酸化焰 ③灰白	ロクロ右回転成整形。	15世紀。
2	須恵器 壺	①②埋没土	胴部破片 高・(6.3)	①白色鈹物粒 ②還元 ③灰	球形を呈すると考えられる。ヨコ方向にめぐる1条の沈線を境に、上位にはヘラナデ、下位にはナデが施される。	
3	軟質陶器 内耳鍋	①埋没土 ②底部付近	胴部破片 高・(6.0)	①黒色鈹物粒子 ②還元 ③黒褐	胴部小片	
4	軟質陶器 播鉢	①埋没土 ②底部付近	底部破片 底・(5.0) 高・(4.0)	①黒色鈹物粒子 ②還元 ③にぶい黄橙	器壁厚い。中世。	15世紀。
5	石製品 砥石	①埋没土 ②底部付近	長・(4.7) 幅・(3.0) 厚・(2.2) 重・32 g	石材 砥沢石	4面使用。	
6	石製品 板碑	①②埋没土	長・(19.9) 幅・(19.9) 厚・(2.5) 重・1,750 g	石材 緑色片岩	一部残存。表面は剥離顕著。裏面にはノミ工具痕を残す。	
7	石製品 五輪塔 水輪	①②埋没土	最大径・25.5 上部径・18.7 高・15.5 重・9,790 g	石材 粗粒輝石安山岩	上面・下面はほぼ円形の凹みに整形されている。側面は円形状に整形されている。	

宮下A区 1号溝 (第57図 PL20)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	施釉陶器 皿?	①②埋没土	破片 口・(10.1) 高・(1.9)	①透明鈹物粒子 ②還元 ③灰白	ロクロ右回転成整形。	14世紀。
2	焼締陶器 常滑 甕	①②埋没土	破片	①白色鈹物粒子 ②還元 ③暗赤褐	中世知多窯の甕の小片。	14～15世紀。
3	石製品 磨石	①②埋没土	完形 長・8.6 幅・9.4 厚・2.0 重・172 g	石材 粗粒輝石安山岩	扁平な自然礫の表・裏表面を磨石として使用している。周縁にも狭い範囲の磨面が認められる。	

## 宮下A区2号溝 (第57図)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 長頸壺	①②埋没土	破片 高・(4.5)	①石英粒多量 ②還元 ③灰	外面にロクロ目。内面にナデ・ユビオサエが認められる。	肩部に自然釉。

## 富田細田遺跡遺構外出土遺物 (近世以降) (第62図 PL20)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	磁器 飯碗	①B区1号トレンチ	口縁～底部1/3 口・(11.8) 底・4.3 高・5.2	①混入物なし ②還元 ③灰白	なすの文様は吹墨。	瀬戸・美濃。 明治～昭和。
2	磁器 飯碗	①B区1号トレンチ	1/4 口・11.6 底・(3.6) 高・4.9	①混入物なし ②還元 ③灰白	銅版プリント。	瀬戸・美濃。 明治～昭和。
3	磁器 飯碗	①B区1号トレンチ	口縁～底部1/4 口・(11.0) 底・(4.8) 高・5.8	①混入物なし ②還元 ③灰白	明治～昭和。	瀬戸・美濃。 明治～昭和。
4	磁器 小碗	①B区1号トレンチ	口縁～底部1/3 口・(8.6) 底・(5.0) 高・4.4	①混入物なし ②還元 ③灰白	ゴム印判。	瀬戸・美濃。 明治～昭和。
5	磁器 杯	①B区1号トレンチ	口縁～底部1/2 口・5.2 底・2.0 高・2.8	①混入物なし ②還元 ③明黄褐	上絵。	九谷。明治～昭和。
6	磁器 杯	①B区1号トレンチ	口縁～底部1/2 口・5.8 底・2.0 高・3.0	①混入物なし ②還元 ③灰白	内面に金色の上絵あるが不明。	瀬戸・美濃。 明治～昭和。
7	磁器 蕎麦猪口	①B区1号トレンチ	1/4 口・6.2 底・3.8 高・6.3	①混入物なし ②還元 ③灰白	銅版プリント。	瀬戸・美濃。 明治～昭和。
8	磁器 蕎麦猪口	①B区1号トレンチ	1/3 口・5.8 底・4.0 高・5.8	①混入物なし ②還元 ③灰白	銅版プリント。	瀬戸・美濃。 明治～昭和。
9	磁器 皿	①B区1号トレンチ	胴～底部破片 底・(17.0)	①混入物なし ②還元 ③灰白	高台部内ハリ支え。10と同一個体か。	肥前。18世紀後～19世紀前。
10	磁器 皿	①B区1号トレンチ	胴～底部破片 底・(17.0)	①混入物なし ②還元 ③灰白	高台部内ハリ支え。9と同一個体か。	肥前。18世紀後～19世紀前。
11	磁器 皿	①B区1号トレンチ	口縁～底部1/4 口・(11.0) 底・(7.0) 高・2.2	①混入物なし ②還元 ③白	黒色の銅版プリント。文様は高砂。	瀬戸・美濃。 明治～昭和。
12	磁器 皿	①B区1号トレンチ	破片 口・(15.2) 底・(8.6) 高・4.2	①混入物なし ②還元 ③灰白	型紙擦り。	製作地不詳。 明治～大正。
13	磁器 皿	①B区1号トレンチ	口縁～底部1/4 口・(11.2) 底・(6.8) 高・2.3	①混入物なし ②還元 ③白	黒色の銅版プリント。文様は高砂。	瀬戸・美濃。 明治～昭和。

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
14	磁器 ミニチュア 急須	①B区1号トレンチ	完形 口・2.6 底・2.5 高・2.7	①混入物なし ②還元 ③灰白	上絵。	製作地不詳。 明治～昭和。
15	磁器 角皿	①B区1号トレンチ	破片 高・2.8	①混入物なし ②還元 ③灰白	外面染付。内面上絵。	製作地不詳。 明治～昭和。
16	磁器 不明	①B区1号トレンチ	口縁部下半～底部 底・2.8 高・(2.3)	①混入物なし ②還元 ③灰白	ガラスを含む。	瀬戸・美濃。 明治～昭和。
17	石製品 砥石	①C区表土	一部欠損 長・10.7 幅・3.1 厚・3.1 重・97g	石材 砥沢石	4面使用。	

## 2 富田宮下遺物台地部分 (1) 弥生時代の遺構出土遺物

### C区11号住居 (第76・77図 PL104)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	弥生土器 壺	①北西壁際・北西・埋没土 ②床直・埋没土	胴部下位～底部破片 底・(4.0) 高・(7.4)	①細砂 ②酸化 ③浅黄橙	外面はタテ方向、内面はヨコ方向に棒状工具によるミガキを施す。	
2	弥生土器 壺	①西②+3	胴部下位～底部破片 底・(7.0) 高・(4.1)	①細砂 ②酸化 ③淡黄	平底の底部を有する。胴部外面は棒状工具によるミガキ、内面にはハケメが施される。	
3	土師器 壺	①北西②床直	胴部下位～底部破片 底・(10.0) 高・(4.4)	①細砂 ②酸化 ③淡黄	外面はハケ状工具でナデを施した後、棒状工具による粗雑なミガキを施す。内面も外面同様、工具でナデを施している。	
4	土師器 壺	①中央・埋没土 ②+4・埋没土	上位欠損 底・9.9 高・(17.7)	①粗砂 ②酸化 ③橙	胴部は中位が強く張り、そろばん玉状を呈していたと考えられる。胴部外面は底面近くにヘラナデが施される他は、棒状工具によるミガキが加えられている。内面はナナメヨコ方向のヘラナデが施される。	上端の割れ口は旧時の可能性もあるか。
5	弥生土器 壺	①西・埋没土 ②床直・埋没土	1/3 口・11.0 底・(8.0) 高・36.8	①粗砂 ②酸化 ③浅黄	口縁部は細くしまった頸部から、緩やかに外反して立ち上がる。先端は平坦面をなし、ヘラ状工具による刻みが加えられている。以下は無文で、口縁部には丁寧なヘラナデが、胴部にはハケメ後ヘラナデが重ねられている。胴部最下位にはヘラケズリ。	
6	弥生土器 小型甕	①北西・西 ②床直・+3～+5	1/4 口・(12.0) 高・(8.6)	①細砂 ②酸化 ③明黄褐	口縁部は短く外反して弧状に立ち上がる。先端は平坦面をなし縄文を施文する。胴部外面にはLR縄文を横位に施文している。	
7	弥生土器 有孔鉢	①北・西・埋没土 ②床直・+3・埋没土	3/4 口・17.0 底・4.7 高・10.3	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部はわずかに弧を描きながら、ナナメ上方に向かって立ち上がる。底部は平底で中央に直径1.3cmの小孔が穿たれる。外面は上位にヘラナデ。中位にハケメ。下位に棒状工具によるミガキがみられる。内面は全体にミガキが施される。	
8	弥生土器 鉢	①東②床直	2/3 口・(12.8) 底・7.2 高・8.8	①細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は弧を描きながら外傾弱く立ち上がる。底部との接合は粗雑である。内外面ともヘラナデ・ナデが多用されている。	底部外面に木葉痕。
9	弥生土器 鉢	①北西②+4	1/2 口・(14.8) 底・(4.4) 高・6.9	①細砂 ②酸化 ③明赤褐	口縁部は内彎、弧状に立ち上がる。先端外面には4単位、摘状の突起がつく。器面は底部外面も含め全体に棒状工具によるミガキが施される。	底部外面を除き赤色塗彩が施される。
10	弥生土器 高杯	①②埋没土	破片 高・(3.0)	①粗砂 ②酸化 ③暗灰黄	口縁部は内面で強く屈曲、水平方向に延びる。内外面ともヨコ方向に棒状工具によるミガキを施す。	直径は小さくなる可能性もある。
11	弥生土器 壺	①西壁際 ②床直	頸部破片	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	ヨコ方向の沈線を境にこれより上には直前段反燃の縄文が施されている。沈線下には鋸歯文が施されていると考える。	縄文は R R R
12	弥生土器 壺	①②埋没土	胴部破片	①細砂 ②酸化 ③橙	静止痕の認められる籬状文と、その下位に波状文がみられる。波状文の工具は6本1単位の櫛状工具か。	

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
13	弥生土器 壺	①②掘り方	頸部破片	①細砂 ②酸化 ③淡黄	LR縄文施文後、沈線文が配されている。ヨコ方向に平行する2条の沈線とその直下をめぐる波状文が認められる。	
14	弥生土器 壺	①②埋没土	頸部破片	①細砂 ②酸化 ③浅黄橙	頸部の破片でLR縄文の上に波状の沈線文を重ねている。	
15	弥生土器 壺	①東②床直	頸部破片	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	平行する2本の沈線区画内にLR縄文が施文される。	
16	弥生土器 壺	①西②+10	胴部破片	①粗砂 ②酸化 ③明赤褐	肩部にLR縄文が施文される。	
17	弥生土器 甕?	①②埋没土・掘り方	頸部～胴部破片	①細砂 ②酸化 ③黒褐	外面にはLR縄文を施文する。	
18	弥生土器 甕	①中央②+4	頸部破片	①細砂 ②酸化 ③明赤褐	5本1単位の等間隔止めの簾状文がめぐる。	
19	弥生土器 甕	①②埋没土	口縁部破片 高・(3.9)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③明赤褐	口縁部は受け口状を呈し、外面に波状の沈線がめぐる。頸部には6本1単位の櫛状工具により短い等間隔で静止する簾状文が施される。	

C区16号住居 (第80～82図 PL105)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	弥生土器 小型甕	①南・埋没土 ②床直・埋没土	3/4 口・11.9 底・4.2 高・12.8	①粗砂 ②酸化 ③灰黄褐	口縁部は受け口状に立ち上がる。口縁部先端には刻み目が施文される。外面上半には沈線による波状文がめぐる。頸部には6本1単位の等間隔止め簾状文が静止の間隔を短く施される。胴部上半には簾状文と同じ施文具で羽状文が7単位配されている。	
2	弥生土器 甕?	①北西壁際・埋没土 ②+4・埋没土	胴部中位～底部 1/2 底・6.0 高・(11.8)	①細砂 ②酸化 ③にぶい橙	胴部の張りは弱い。胴部外面は中位にヨコ方向のハケメ。下位にヘラナデ。その上に粗雑なヘラナデをタテ方向に重ねている。内面はヘラナデの上に棒状工具によるミガキを荒く重ねている。	
3	弥生土器 小型台付 甕?	①南壁際 ②床直	完形 口・6.3 底・4.5 高・7.3	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は短く強く外反する。先端には縄文を施文する。頸部には簾状文を施していた可能性あり。ヨコ方向に櫛あるいはハケ状の施文具が動いた様子がみえる。脚台部はハケメの上にナデ。内面も同様。	内外面ともにほとんど磨耗している。
4	弥生土器 甕	①②炉2	1/2 口・13.8 底・6.4 高・21.2	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は受け口状に立ち上がる。口縁部は先端にはLR縄文を施文する。頸部には6本1単位の等間隔止め簾状文を1段めぐる。胴部には簾状文と同じ施文具により3単位半の羽状文が配されている。	
5	弥生土器 甕	①南東・南・埋没土 ②床直・埋没土	3/4 口・(18.0) 底・6.8 高・19.5	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は短く外反して立ち上がる。口縁部先端にはRの縄文を施す。頸部には5本1単位の等間隔止め簾状文を左回りにめぐる。胴部上位にはRの縄文を施文している。	底部に木葉痕を残す。

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
6	弥生土器 壺	①南・東・南 東・埋没土 ②床直・+4～ +11・埋没土	1/2 口・9.7 底・6.6 高・26.1	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部の上位はわずかに受け口状を呈す。胴部は中位に最大径を有する。口縁部の上位外面には幅狭い範囲にLR縄文を施文。頸部には沈線区画の帯状文を2段配置する。胴部には平行沈線により連弧文を3単位に施し、区画内にLR縄文を充填している。	連弧文は単位を配置しなおしており、縄文の下に旧時の沈線が痕跡としてみられる。
7	弥生土器 小型壺	①北西②床直	完形 口・5.3 底・4.7 高・12.1	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は外反緩やかに立ち上がる。胴部は最大径が下位にある。外面はヘラナデの上に一部ミガキを重ねている。口縁部内面には接合痕を残す。	
8	弥生土器 壺	①南壁際 ②床直	頸部～胴部破片 高・(8.5)	①粗砂 ②酸化 ③橙	頸部には2本の沈線により区画した内部にLR縄文を施文した文様帯が2段めぐり。	
9	弥生土器 壺	①南東②床直	胴部下位～底部 底・7.3 高・(7.7)	①細砂 ②酸化 ③淡黄	胴部外面はきわめて丁寧なヘラナデ。内面もヘラナデ。	内面は全面に炭素付着。欠損後、鉢状で二次利用した可能性も考えられる。
10	弥生土器 壺	①南西・西壁 際・北 ②床直・+8	1/3 口・13.8 高・(36.8)	①細砂 ②酸化 ③橙	口縁部はラッパ状に立ち上がる。胴部最大径は中位よりやや下位にあるか。頸部には3本の沈線がめぐり、上2本の間はナナメ方向に区分、山形文が構成される。胴部外面はタテ方向に棒状工具によるミガキを施す。	
11	弥生土器 甕	①西②床直	口縁部破片 高・(3.6)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	外面に輪積痕を残す。	
12	弥生土器 甕	①②埋没土	口縁部破片 高・(1.5)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	先端の平坦面と外面にLR縄文が施されている。	
13	弥生土器 甕	①②埋没土	口縁部破片 高・(3.0)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	先端は平坦面をなしLR縄文が施文される。外面はハケメの上にLR縄文を施文している。	
14	弥生土器 壺	①北東②+3	口縁部破片 高・(4.9)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい赤褐	先端は屈曲して立ち上がり、受け口状を呈す。外面先端には沈線による波状文が配されている。	
15	弥生土器 甕	①掘り方南 ②掘り方	胴部破片	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい褐	くびれ部より下位にはLR縄文が充填されている。	
16	弥生土器 壺?	①②埋没土	口縁部破片 高・(2.0)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	外面は先端にLR縄文を帯状にめぐらしていると考えられる。	
17	弥生土器 壺?	①②埋没土	口縁部破片 高・(2.0)	①細砂 ②酸化 ③にぶい橙	先端は外側が肥厚し、貼付口縁となる。この部分と先端の平坦面に直前段反摺の縄文が横位に施される。	
18	弥生土器 壺	①②埋没土	胴部破片	①細砂 ②酸化 ③黒褐	肩部の破片と考えられる。平行する2条の沈線内にRL縄文が施文されている。	
19	弥生土器 円板	①②埋没土	ほぼ完形 縦・5.4 横・6.1 厚・1.0	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	胴部破片の割れ目を再調整して円板状にしている。顕著な磨耗痕等は認められない。	
20	弥生土器 円板	①②埋没土	1/2 縦・(2.4) 横・(5.0) 厚・0.8	①細砂 ②酸化 ③橙	胴部破片の割口を調整してしていると考えられる。原形は円板を呈していたと考えられる。	

## C区19号住居 (第84・85図 PL106)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	弥生土器 短頸壺	①西・西壁際・ 北西・北西壁 際・埋没土 ②床直・+3・ 埋没土	1/4 口・(25.6) 高・(16.5)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は外側に粘土紐を貼付し、折り 返し口縁としている。折り返し口縁の 先端、外面には縄文を施す。胴部外面 にも2本1単位の浅いヨコ線を2箇所 配した後、前々段反摺りの縄文を横位 に施文している。	
2	弥生土器 壺?	①西・南西・西 壁際・埋没土 ②床直・+4～ +7・埋没土	胴部下位 高・(14.4)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	外面はヘラナデの上に荒く棒状工具に よるミガキを重ねている。	器面は剥離 する部分が多 い。
3	弥生土器 壺	①北②+3	胴部破片	①細砂 ②酸化 ③浅黄	沈線区画文にLR縄文を施文している。	
4	弥生土器 壺	①中央・南西・ 埋没土 ②床直・+3・ 埋没土	胴部破片	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	無文部分の大型破片である。	火熱を受け 内面の剥離 は著しい。
5	弥生土器 壺	①北西壁際・ 北・埋没土 ②床直・+3・ 埋没土	胴部破片	①粗砂・細砂 ②酸化 ③暗灰黄	沈線による三重円文の一部がみられる。	
6	弥生土器 壺	①北西②+3	胴部破片	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	頸部にはヨコ方向の沈線がめぐり、こ れより下位の胴部には3本の沈線によ る弧状の文様が配されたと考えられる。	
7	弥生土器 壺	①東・埋没土 ②床直・埋没土	胴部破片	①粗砂・細砂 ②酸化 ③暗灰黄	ヨコ方向の沈線による区画内に山形文 を意識した沈線による波状文が配され ている。	
8	土師器? 甕	①中央・埋没土 ②+13・埋没土	1/4 口・(18.0) 高・(11.4)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は胴部からくの字状に屈曲して 立ち上がる。口縁部先端はヨコナデ。 以下胴部外面にいたるまでハケメ。胴 部内面はハケメ・ヘラナデ。	火熱を受け 器面が脆弱 になっている。
9	弥生土器 甕	①南西②+3	胴部下位～底部破 片 底・(8.0) 高・(1.4)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	胴部外面にはハケメを施す。	内面は剥離 している。
10	弥生土器 甕	①中央・南・埋 没土 ②床直・+3～ +5・埋没土	胴部下位～底部破 片 底・(8.8) 高・(16.1)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	胴部外面はヘラナデ。	器面は磨耗 ・剥離が進 行している。 底部外面に 木葉痕がみ られる。
11	石器 敲石	①南西②+4	完形 長・10.2 幅・6.8 厚・0.9 重・124 g	石材 雲母石英片岩	板状の厚さの円礫である。表面は敲打 が原因と考えられる磨耗痕が認められ る。	

## C区26号住居 (第88・89図 PL106・107)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	弥生土器 小型甕	①南西隅 ②床直	完形 口・8.9 底・4.7 高・10.0	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	文様は口縁部に10段、胴部に2段、波 形の乱れた波状文が、頸部には3連止 めの簾状文が1段施されている。簾状 文の工具は5本1単位。	

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
2	弥生土器 小型甕	①②埋没土	口縁部破片 口・(12.0) 高・(4.2)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部の先端は受け口状を呈し、端部にはヘラ状工具による刻目文が施される。器面は内外面ともヘラナデを施す。	As-C層より上層から出土。
3	弥生土器 甕	①南西②床直	口縁部破片 口・(13.8) 高・(4.5)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③灰黄褐	緩やかに外反して立ち上がる。外面はタテ方向に棒状工具によるミガキを、内面はナデを施す。	
4	弥生土器 甕	①②埋没土	底部破片 底・6.8 高・(2.0)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	平底。内外面とも棒状工具によるミガキを施す。	
5	弥生土器 甕	①中央②床直	口縁部～肩部 口・13.2 高・(8.5)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部の先端は外面に粘土紐を貼り肥厚させるが段がつくほどではない。外面には波形の乱れた波状文が充填される。7段が確認される。工具は6本1単位と考えられる。内面は棒状工具によるミガキを施す。	
6	弥生土器 壺	①南・南壁際・東・中央・炉・埋没土 ②床直・+6・埋没土	胴部中位～底部 底・14.4 高・(32.3)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③淡黄	胴部は中位に向けて大きく張る。外面は中位が棒状工具によるミガキ。下位はヘラナデ。内面は下位にハケメ。それ以外は一部にハケメを残すが、大半はヘラナデ。	
7	土師器? 甕	①北・炉・掘り方 ②炉・床直・掘り方	胴部中位～底部 底・(1.4) 高・(11.9)	①粗砂多量 ②酸化 ③にぶい赤褐	胴部下位は尖り、狭小な底部に続く。外面はナナメタテ方向のハケメを施す。内面はヘラナデと考えられる。	
8	弥生土器 台付甕	①②床直・埋没土・掘り方	脚台部欠損1/2 口・13.6 高・(10.7)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部から肩部にかけて波形の乱れた波状文を6～7段配している。工具の単位は1単位6ないし7本か。工具全幅で施文されている部分は少ない。胴部下半は無文、ミガキが施されたか。内面は棒状工具による丁寧なミガキが施される。	
9	土師器 台付甕	①②埋没土	脚台部破片 高・(3.7)	①粗砂多量 ②酸化 ③にぶい橙	胴部内面は指頭によるナデ。脚台部外面はタテ方向のハケメ。接合部はヘラナデ。内面はヨコ方向にハケメ。	胴部欠損後も使用した可能性ありか。
10	土師器 台付甕	①②埋没土	胴部破片 高・(5.4)	①礫・粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	器形は裾部に向かって直線的に延びている。外面はタテ方向にヘラナデ。内面はユビナデを施す。	As-C層より上層から出土。
11	弥生土器? 台付甕	①埋没土・掘り方南西 ②埋没土・掘り方	脚台部破片 底・(11.1) 高・(3.0)	①細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	外面はタテ方向に棒状工具によるミガキを、内面はヨコ方向のナデを施す。	
12	土師器 高杯	①②床直・埋没土	脚部破片1/3 口・(14.8) 高・(2.0)	①細砂 ②酸化 ③にぶい橙	裾部は大きく外反して延びる。外面はハケメの上に棒状工具によるミガキを重ねる。内面はハケメの上にヨコ方向のナデを重ねる。	
13	土師器 壺?	①②埋没土	口縁部～胴部上位 口・11.7 高・(4.5)	①細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部はナナメ上方に直線的に延びる。口縁部は内外面ともヨコナデ。外面は頸部近くにヘラナデ。工具の当たった痕跡がみられる。胴部内面はヘラケズリ。	As-C層より上層から出土。
14	弥生土器 壺	①南東・南・掘り方・埋没土 ②床直	口縁部破片 口・(24.0) 高・(7.8)	①細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	外傾して立ち上がる。外面の上位には弱い段を有するが内面には大きな変化はみられない。外面はヨコ方向、内面はナナメヨコの2方向に棒状工具によるミガキが充填される。	
15	土師器 小型壺	①②埋没土	頸部～胴部上半破片 高・(6.6)	①細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	内外面ともヨコ・ナナメヨコ方向にヘラナデを施す。	As-C層より上層から出土。

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
16	弥生土器 壺	①②埋没土	胴部～上位破片 高・(7.1)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	外面は頸部直下に棒状工具によるミガキを、肩部にハケメを施す。内面はナデ・ミガキ。	
17	弥生土器 壺	①②埋没土	頸部～胴部上位破片 高・(6.2)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	胴部はヨコにやや張る形状か。外面は棒状工具によるミガキ。内面はヘラナデ。	外面はやや磨耗している。 As-C層上。
18	土師器 壺	①掘り方南西 ②掘り方	胴部下位～底部破片 底・6.2 高・(4.6)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	平底。胴部は球形を呈すると思われる。外面はヘラナデ。一部にヘラケズリ。内面は丁寧なヘラナデ。	内面は剥離が著しい。
19	弥生土器 甕	①②埋没土	口縁部破片 高・(2.0)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③明赤褐	外面には粘土紐の輪積痕を明瞭に残している。外面は丁寧なナデ。内面はハケメの上に棒状工具によるミガキを重ねている。	As-C層より上層から出土。
20	弥生土器 壺?	①②埋没土・床直	口縁部破片 高・(3.2)	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部の先端は外面に粘土紐を貼り付け肥厚させている。外面は無文。	
21	石器 凹石	①南東②床直	完形 長・12.3 幅・6.8 厚・3.2 重・297 g	石材 粗粒輝石安山岩	扁平で平面三角形を呈する。表・裏両面の中央部に各1個ずつ凹部がある。右側面小口部にも1箇所敲打痕がみられる。	
22	石器 磨石	①掘り方西壁際 ②掘り方	完形 長・13.5 幅・6.4 厚・4.0 重・532 g	石材 石英閃緑岩	棒状の礫。小口部両端に磨面を有する。	

C区27号住居 (第91図 PL107)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	弥生土器 壺	①②炉	胴部破片 高・(13.5)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	上位に7本を1単位とする櫛状工具による波状文が2段めぐる。	細砂中には白色鉍物粒・輝石あるいは角閃石と思われる黒色鉍物粒も含む。
2	弥生土器 甕	①②埋没土	口縁部破片 口・(13.8) 高・(3.0)	①細砂 ②酸化 ③明褐	先端は外側が折り返し口縁状にわずかに肥厚する。波形の乱れた波状文が充填され、3段確認できる。	
3	弥生土器 甕	①南壁際②+18	底部破片 底・(5.0) 高・(1.3)	①細砂 ②酸化 ③橙	外面にはタテ方向のミガキを施す。底部は平底である。	
4	弥生土器 壺?	①南②+3	口縁部破片 高・(2.5)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい褐	櫛状工具による波状文が重ねられている。	細砂中には白色鉍物粒・輝石あるいは角閃石と思われる黒色鉍物粒も含む。
5	弥生土器 壺	①南②+3～+15	胴部破片	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい黄褐	櫛状工具による波状文が2ないし3段認められる。	
6	弥生土器 壺?	①南②+3～+6	胴部破片	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	櫛状工具による波形の乱れた波状文が2段みられる。この下位には簾状文または羽状文が配されていると考えられる。	

## C区53号住居 (第94・95図 PL107)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	弥生土器 壺	①南西②+3	口縁部～頸部 口・17.5 高・(8.2)	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部はラッパ状に外反。先端外面に2段、輪積状口縁をなす。頸部には簾状文がめぐる。	
2	弥生土器 壺	①西②+3	胴部上位 高・(5.8)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	胴部は球形を呈する。LR縄文による縄文帯2段がめぐる。	
3	土製品 紡錘車	①南西②床直	完形 上面径・4.8 下面径・4.5 厚・1.4 重・43.2g	①細砂 ②酸化 ③にぶい赤褐	板状の円盤形を呈する。軸孔の直径は0.7cmである。上・下両面はヘラナデ調整。一部にヘラケズリ。側面はヘラケズリ・ヘラナデ。	
4	石器 磨石	①南西②床直	完形 長・8.0 幅・6.1 厚・2.8 重・217g	石材 粗粒輝石安山岩	平面楕円形で扁平な礫である。表・裏面の中央部分を磨面としている。	

## C区58号住居 (第97図 PL107)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	弥生土器 壺	①②炉1	口縁部破片 口・(16.6) 高・(9.1)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は長く外反して立ち上がる。成形は粗雑で外面がわずかに肥厚、輪積状をなす。頸部には1単位6本以上の簾状文がめぐる。2連止めと考えられるが静止痕の間隔には乱れが生じている。	
2	弥生土器 壺	①②炉1	胴部破片	①細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	胴部は球形で大きく張り出す形状。頸部に直線文あるいは簾状文の一部が残存する。その下には波高の低い波状文が4段あるいは5段間隔をあげずに連続して施されている。	
3	弥生土器 壺?	①②埋没土	口縁部破片 高・(3.2)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は先端で外側に肥厚、折り返し口縁状を呈する。折り返しの幅はやや広い。	
4	弥生土器 壺?	①②炉2	口縁部破片 高・(2.1)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は先端で外側に肥厚、折り返し口縁状を呈する。	
5	弥生土器 壺	①②埋没土	胴部破片	①細砂 ②酸化 ③にぶい橙	棒状工具による波状文が2段みられる。	
6	弥生土器 壺	①②炉1	胴部破片	①粗砂 ②酸化 ③橙	10本1単位と考えられる櫛状工具による波状文が2段認められる。	

## C区59号住居 (第99図 PL108)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	弥生土器 甕	①中央・埋没土・掘り方 ②+6～+11・埋没土・掘り方	1/2 口・(16.3) 底・(7.6) 高・37.2	①細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。外面上半には粘土紐の輪積痕を3段残す。頸部には6本あるいは7本1単位の静止痕のみられる簾状文が一段めぐり、その上下に右回りで波状文が施される。口縁部に3段。胴部にも3段か。	図版作成、内面を再度観察したところ棒状工具によるミガキが施されていることが判明した。

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
2	土師器? 壺	①北・埋没土 ②+13・埋没土	頸部～胴部上位破片 高・(4.8)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部はくの字状に屈曲して立ち上がるものと考えられる。胴部外面はヨコ方向に棒状工具によるミガキを施す。内面はヘラナデ。一部ユビナデ。	
3	弥生土器 壺	①北東②床直	胴部下位～底部破片 底・(7.5) 高・(3.4)	①粗砂 ②酸化 ③橙	胴部外面はヘラナデの上に一部棒状工具によるミガキを重ねる。内面はヘラナデ。	
4	弥生土器 壺?	①南②+15	胴部下位～底部破片 底・(6.7) 高・(6.1)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい褐	胴部外面はヨコ方向に丁寧なナデ。内面はヘラナデ・ヘラケズリの上に一部棒状工具によるミガキを施す。	
5	弥生土器 鉢?	①②埋没土	破片 口・(7.0) 高・(4.1)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	成形は粗雑で口縁部は波打つ。内外面ともナデ調整が加えられるものの粘土紐の接合痕を残す。	火熱を受けている。
6	弥生土器 壺?	①南②+3	胴部破片	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	残存最上位に平行する2条の沈線による帯状の区画とその中に施されたLR縄文がみられる。文様帯より下位には弱い条痕が施される。	
7	弥生土器 壺	①中央・東・埋没土 ②床直・+16～+20・埋没土	下半 底・8.5 高・(21.5)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	外面は胴部最下位の一部にヘラナデがみられる他は全て棒状工具によるミガキが施される。内面も残存部分にはヨコ方向のミガキが施される。	内面は剥離が著しい。
8	弥生土器 壺	①中央・東・ピット3埋没土・ピット4埋没土・埋没土 ②床直・埋没土	胴部中位～底部破片 底・(7.7) 高・(12.9)	①粗砂少量 ②酸化 ③明赤褐	胴部外面は棒状工具によるミガキを施す。内面はヘラナデ。	
9	土師器 甕?	①北②+13	胴部破片	①粗砂 ②酸化 ③にぶい褐	内外面ともハケメを施す。	

C区73号住居 (第102図 PL108)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	弥生土器? 甕	①②埋没土	口縁部破片 口・(9.3) 高・(4.4)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は外反弱く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヘラケズリ。内面はヨコ方向のヘラナデ。	外面炭素吸着。
2	弥生土器 壺	①②炉・炉周辺・埋没土	ほぼ完形 口・11.4 底・6.3 高・15.4	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部はくびれた頸部からナナメ上方に向けて立ち上がる。胴部は丸く張る。外面は口縁部がヨコナデ。胴部がヨコ・ナナメヨコ方向の棒状工具によるミガキ。内面は口縁部から胴部中位にヨコ方向のミガキ。それ以下の胴部にナデを施す。	
3	弥生土器 高杯	①②炉周辺	脚部破片 底・(16.0) 高・(2.0)	①粗砂 ②酸化 ③橙	裾部へ向けて大きく外反する。三角形あるいは長方形の透孔が4箇所配置されていると考えられる。外面はナナメタテ方向に棒状工具によるミガキを充填する。端部にはヘラケズリを加える。内面はヨコ方向にハケメを施す。	
4	石器 石鏃	①東壁際 ②+3	完形 長・4.2 幅・2.3 厚・0.2 重・2.60 g	石材 珪質頁岩	無茎の磨製石鏃である。基部は大きくくり込まれている。横断面は両刃で中央に鑄がみられる。切先から基部方向に3.1cmの位置に直径0.3cmの小孔が貫通する。	

## C区77号住居（第105・106図 PL108・109）

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	弥生土器 壺	①南東②床直	完形 口・9.9 底・4.5 高・13.8	①粗砂 ②酸化 ③明赤褐	口縁部はわずかに外反して立ち上がり、先端は外側に肥厚、貼付口縁となる。口縁部外面は先端にヨコナデ。それ以下は丁寧なナデの上にミガキが重ねられている。胴部外面もヘラナデの上にミガキか。口縁部内面は棒状工具によるミガキを充填する。	外面は磨耗・剥離が著しいためミガキの単位を把握することは困難。
2	弥生土器 小型甕	①北②床直	口縁部～胴部上位 口・9.8 高・(6.4)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は胴部から外傾弱く屈曲、直線的に延びる。頸部との接合部分は外面に弱い段がみられる。輪積を意識したものか。口縁部・胴部とも内外面に棒状工具によるミガキを充填する。	
3	弥生土器 甕	①②埋没土	胴部下半～底部 底・(7.0) 高・(7.4)	①粗砂 ②酸化 ③赤褐	内外面ともヘラケズリ・ヘラナデ後、棒状工具によるミガキを重ねている。	内面は最下位にいたるまでミガキが加えられており、鉢である可能性もあるか。As-C層より上層から出土。
4	土師器 小型甕	①②埋没土	胴部～底部 底・3.6 高・(7.2)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	底部は直径が小さい。全体形状は不明。外面はヘラケズリ・ヘラナデ。内面はヘラナデ。	As-C層より上層から出土。
5	弥生土器 壺？	①中央②床直	胴部中位破片 高・(13.0)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	残存部上端に1単位4本以上の櫛状工具による横線文が施されていたことがわかる。外面は棒状工具によりヨコ方向にミガキ。内面はヘラナデ。一部にヘラケズリ。	
6	弥生土器 壺	①南西隅 ②床直	完形 口・19.0 底・8.4 高・38.8	①細砂 ②酸化 ③浅黄橙	口縁部の先端が肥厚、貼り付け口縁となる。外面は無文。口縁部から胴部下位にいたるまで棒状工具によるミガキが充填される。口縁部は内面にもヘラナデの上にミガキが重ねられている。胴部内面はヘラナデと考えられる。	
7	弥生土器 甕	①②貯蔵穴・埋没土	口縁部破片 口・(13.9) 高・(5.6)	①細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は外反弱く立ち上がり先端は外面が肥厚、貼り付け口縁となる。貼り付け部に1段、これより下位に4段、5本1単位の櫛状工具による波状文が施される。	
8	土師器 高杯	①中央②床直	脚部 底・8.1 高・(5.5)	①細砂 ②酸化 ③橙	外面杯部との接合部分にはヘラナデ。以下は裾部にいたるまで棒状工具によるミガキを施す。内面はヘラナデ。	台付甕の可能性も考えられるか。
9	弥生土器 高杯	①中央②床直	杯部下位～脚部 底・10.2 高・(6.0)	①細砂 ②酸化 ③橙	外面は各面とも棒状工具によるミガキ。杯部内面にはミガキがみられる。脚部内面はヘラナデ。	杯部・脚部とも外面全体に赤色塗彩。
10	土師器 高杯	①②炉	杯部下位～脚部 底・12.1 高・(7.5)	①細砂 ②酸化 ③橙	胴部の中位からやや杯部寄りに4個の透孔が配される。杯部内外面と脚部外面に棒状工具によるミガキを施す。内面にはヘラナデ。	
11	弥生土器 甕	①南西②床直	胴部破片	①細砂 ②酸化 ③橙	胴部は丸味をおびていると考えられる。間に無文部分を挟み、帯状にRL縄文を施文する。	

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
12	土製品 勾玉	①②掘り方	足端部欠損 長・(2.3) 幅・0.8 厚・0.9 重・1.9 g	①細砂 ②酸化 ③橙	粘土紐状に成形した本体の腹側を弧状をなし、型(のようなもの)に押しあて、彎曲させている。頭部に穿孔がなされている。	

C区80号住居 (第109図 PL109)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	弥生土器 甕	①②埋没土	口縁部～胴部中位 破片 口・(9.9) 高・(6.9)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は短く胴部から緩やかに外反して立ち上がる。口縁部から胴部にかけて内外面とも棒状工具によるミガキが施されるが一部にヘラケズリ・ヘラナデが残る。	他の土器と比較して夾雑物がやや多い。
2	弥生土器 鉢	①②埋没土	破片 口・(13.0) 高・(4.9)	①細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	内外面とも棒状工具によるミガキを充填している。	
3	弥生土器 鉢	①②埋没土	口縁部～胴部破片 口・(8.8) 高・(4.4)	①細砂 ②酸化 ③浅黄橙	口縁部は球形の胴部から内彎して立ち上がる。外面には粘土紐を貼付した痕跡を明瞭に残す。内外面とも棒状工具によるミガキを充填する。	
4	弥生土器 不明	①②埋没土	破片 高・(2.9)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	やや彎曲する形状。中位に小孔が配置される。4箇所か。内外面ともナデ。	
5	弥生土器 有孔鉢	①②埋没土	胴部下位～底部破片 底・(4.8) 高・(2.9)	①細砂 ②酸化 ③浅黄橙	底部の周縁部は高台状に小さく突出する。底部中央には直径1.5～2.2cmの小孔が貫通するが周辺の始末は粗雑である。胴部は内外面とも棒状工具によるミガキを施す。	
6	弥生土器 甕	①②埋没土	口縁部～胴部破片 高・(4.3)	①細砂 ②酸化 ③明褐	口縁部の先端は貼り付け口縁で肥厚する。その肥厚部分には5本1単位の波状文が1段めぐる。頸部には9本1単位の工具による簾状文、その直下にはこれに重なるように波状文が1段めぐる。	
7	弥生土器 壺	①②埋没土	口縁部破片 高・(2.9)	①細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部の先端は帯状に肥厚しており、R L縄文が横位に充填されている。	
8	弥生土器 壺	①②埋没土	胴部破片	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい褐	頸部直下の破片と考えられる。5本1単位の2連止め簾状文1段と7本1単位の波状文3段が認められる。	
9	弥生土器 壺?	①②埋没土・掘り方	胴部破片	①細砂 ②酸化 ③内面橙・外面褐灰	6本1単位と思われる櫛状工具による波状文が3段認められる。	
10	弥生土器 壺	①②埋没土・掘り方	胴部破片	①細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	頸部とその直下の破片と考えられる。7本1単位の櫛状工具による簾状文(静止痕がみられる)1段と工具の状況が把握困難である。最低3段以上の波状文が施されている。	
11	弥生土器 壺?	①②埋没土	胴部破片	①細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	9本1単位の櫛状工具による波状文が4段認められる。波形・走向とも乱れ、重複も著しい。	
12	弥生土器 壺	①②埋没土	胴部破片	①細砂 ②酸化 ③浅黄橙	頸部とその直下の破片と考えられる。5本1単位の櫛状工具による3連止め簾状文1段とその下に9本1単位の工具による波状文2段が認められる。	

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
13	弥生土器 壺	①②埋没土	胴部破片	①細砂 ②酸化 ③橙	ヨコ方向の沈線とこれに斜行する沈線がみられることから沈線による鋸歯文が構成され、この区画内にR L縄文が施されていると考えられる。	14と同一個体か。
14	弥生土器 壺	①②埋没土	胴部破片	①細砂 ②酸化 ③橙	タテヨコ・ナナメ方向の沈線文と一部その区画内に充填されたR L縄文が認められる。	13と同一個体か。
15	弥生土器 壺	①②炉	胴部破片	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	胴部は球形を呈すると想定され、残存部最上位に波状文の一部がみられる。	

## C区1号址 (第111図 PL109)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	弥生土器 壺	①②埋没土	口縁部破片 口・(15.2) 高・(5.6)	①粗砂・黄色軽石 ②酸化 ③明赤褐	口縁部は漏斗状に立ち上がる。弱く内彎。頸部にはL R縄文施文後ヨコ方向の沈線により帯状の区画がなされていると考えられる。外面ヘラナデ。内面ミガキ。	
2	弥生土器 壺	①②埋没土	口縁部破片 口・(18.0) 高・(3.4)	①粗砂少量 ②酸化 ③灰黄	直線的に外傾する。外面はタテ方向、内面はヨコ方向に棒状工具によるミガキを施す。	内外面炭素附着。
3	石器 磨製石斧	①②埋没土	完形 長・14.9 幅・6.7 厚・4.2 重・713 g	石材 はんれい岩	基部に対しその幅をやや増している。刃部は平面形が外彎する形状で、長軸に対して表裏相称の両刃である。胴部の横断面は楕円形で表裏ほぼ同形である。基部寄りの表面には敲打痕の集合がみられる。器面には方向をたがえ、細かな擦痕の集合が多数みられる。	

## (2) 古墳時代前・中期の遺構出土遺物

## A区4号住居 (第118図 PL112)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 埴	①西②床直	ほぼ完形 口・9.1 底・2.2 高・7.4	①粗砂・細砂 ②酸化 ③明赤褐	口縁部は内面に底部との間に明瞭な稜をなして外傾、ナナメ上方に向かって立ち上がる。口縁部は内外面ともヨコナデ・ナデ。底部は上位にナデ。中位以下に弱いヘラケズリ。内面はナデ。	
2	土師器 鉢	①西・中央・東・埋没土 ②床直・+7・埋没土	1/2 口・(11.2) 底・3.7 高・8.0	①粗砂 ②酸化 ③にぶい褐	口縁部は底部から弱く屈曲、わずかに外傾して立ち上がる。胴部は半球形、不安定な底部に続く。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヘラナデ。内面はナデ。	

## C区4号住居 (第121・122図 PL112)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 甕	①②埋没土	口縁部～胴部上位 口・(17.3) 高・(6.6)	①細砂 ②酸化 ③にぶい褐	口縁部はくの字状に屈曲、ナナメ上方に向かって立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面はナナメ方向のハケメ。下位にヨコ方向のヘラケズリが施される。内面は口縁部にヨコナデの下にハケメを残す。胴部はヘラナデ。	

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P LNo	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
2	土師器 甕	①埋没土・西・ 南西 ②+4～+16・ 埋没土	胴部中位破片 高・(10.5)	①細砂 ②酸化 ③にぶい褐	外面はナナメ方向のハケメ。下位はその後ヘラケズリ。内面はヨコ方向にヘラナデ。	
3	土師器 壺	①柱穴2・柱穴 3・西・中央・ 南壁際埋没土 ②+4～+16・ 埋没土	口縁部下半～胴部 中位1/3 高・(17.2)	①粗砂・赤色粘土粒 ②酸化 ③橙	口縁部はくの字状に屈曲して立ち上がる。頸部から胴部の外面には、棒状工具によるミガキが丁寧に充填される。内面は途中で工具を変えヨコ方向のハケメを施している。	
4	土師器 広口壺?	①北・埋没土 ②+14・埋没土	胴部1/2 底・(7.2) 高・(7.0)	①細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は欠損するがくの字状に外傾して立ち上がるか。胴部は直径に比して、器高が低く扁平である。平底。外面は上位に棒状工具によるミガキを、中位・下位にヨコ方向のヘラナデ・ヘラケズリを施す。内面には棒状工具によるミガキを充填する。	器面に炭素 付着。
5	土師器 壺	①②埋没土	口縁部破片 口・(20.3) 高・(4.0)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③明赤褐	口縁部先端は、外面に粘土紐を貼り肥厚している。肥厚部分はナデ。それ以外は棒状工具により、丁寧なミガキを施す。	
6	土師器 壺	①南西②+8	口縁部～肩部 口・10.7 高・(8.1)	①精選・細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は直線的にナナメ上方に立ち上がる。口縁部外面はナナメタテ方向に棒状工具によるミガキ。内面はヨコ方向のハケメの上に上半を中心にミガキを重ねる。胴部外面はミガキ。内面はナデ。指頭圧痕。	炭素付着。
7	土師器 壺	①中央②+3	3/4 底・6.2 高・(30.2)	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部の先端は外面に粘土紐を貼り肥厚している。外面は口縁部・胴部の全てに棒状工具によるミガキを施す。内面は口縁部にミガキを、胴部はヘラナデを施す。	
8	土師器 S字台付甕	①西壁際・中 央・西・掘り方 ②+5～+13・ 埋没土・掘り方	脚台部欠損・胴部 1/4 口・(15.2) 高・(20.7)	①細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	胴部外面は胴部下半からナナメ上方のハケメ後、頸部からナナメ上方のハケメを重ねる。内面は頸部に弱いヘラナデ。胴部は丁寧なナデ。上位に指頭圧痕がみられる。	外面炭素付 着。
9	土師器 器台	①東②+7	杯部1/4 口・(9.3) 高・(4.0)	①粗砂 ②酸化 ③橙	受部先端は外面に稜をなし尖る。器面は先端にヨコナデ。他はタテ方向に棒状工具によるミガキを充填する。	
10	土師器 器台	①②貯蔵穴	ほぼ完形 口・8.7 底・12.1 高・6.9	①粗砂・粘土粒・白 色鉱物粒・赤色粘土 粒 ②酸化 ③淡黄	受部は皿状を呈する。脚部は外反著しく延び、3箇所にも円孔を配する。受部内外面、脚部外面は棒状工具によるミガキ。脚部内面はヘラケズリ・ヘラナデ。	
11	土師器 鉢	①②埋没土・掘 り方	口縁部～胴部中位 破片 口・(20.0) 高・(9.6)	①粗砂やや多い ②酸化 ③淡黄	口縁部は外傾弱く立ち上がる。先端に平坦面をつくる。口縁部は外面にヨコナデ、内面にハケメ。胴部外面にはタテ方向のハケメ。内面はヘラナデ。	
12	石器 磨石	①中央②床直	1/2 長・(12.9) 幅・7.2 厚・7.2 重・1,140 g	石材 粗粒輝石安山 岩	棒状礫で一端は欠損している。片面に研磨面が認められる。小口部には弱い敲打の痕がみられる。	
13	石製品 敲石	①南西隅②+5	完形 長・18.3 幅・4.4 厚・2.5 重・331 g	石材 雲母石英片岩	棒状自然礫の小口部分がわずかに敲打に利用されている。反対側もわずかに磨耗しているか。	

## C区6号住居 (第125図 PL112)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 高杯	①東壁際・掘り方 ②床直・掘り方	脚部下半欠損 口・16.4 高・(12.8)	①粗砂 ②酸化 ③橙	杯部は鉢状を呈する。脚部は杯部との接合部周辺でやや柱状を呈した後、裾部に向かって外反する形状と考えられる。脚部には、4箇所に円形の透孔が配されている。杯部内外面には棒状工具によるミガキを施すが、内面のミガキは粗雑で下位に施されたハケメがみえる。脚部には内外面ともハケメが施される。	
2	土師器 高杯?	①南②+16	脚部上半 高・(4.4)	①粗砂 ②酸化 ③橙	杯部と脚部の接合部周辺の外面にはハケメを残す。それ以下にはミガキを施している。脚部内面にはヘラナデ。	
3	土師器 器台?	①②掘り方	脚部破片 底・(8.5) 高・(5.6)	①細砂・黒色鈹物粒 ②酸化 ③淡黄	脚部はハの字状に延びる。上位にやや長円形に近い透孔が配されている。4箇所か。外面はタテ方向の棒状工具によるミガキ。内面は丁寧なナデを施す。	
4	土師器 有孔鉢	①東②+3	ほぼ完形 口・13.8 底・4.2 高・7.6	①粗砂 ②酸化 ③浅黄橙	口縁部は弱い曲線を描いてナナメ上方に立ち上がる。先端は外面に、幅1.3cmの粘土紐を貼り肥厚する。底部は平底。中央に直径1.3cmの一孔を穿つ。外面は先端をヨコナデ。以下は棒状工具によるミガキ。内面も棒状工具によるミガキ。	外面に赤色塗彩を施す。
5	土師器 有孔鉢	①北②床直	ほぼ完形 口・15.8 底・5.2 高・7.0	①粗砂・黒色鈹物粒 ②酸化 ③橙	口縁部の先端は一部に歪みを生じ、波状を呈する部分もある。口縁部はナナメ上方に向かって直線的に立ち上がり、先端にいたりわずかに内彎ぎみになる。底部は平底で中央に一孔を穿つ。内面はタテ方向を基本とするハケメを充填する。内面は上半にハケメ、下半にヘラケズリ・ヘラナデを施す。	
6	石器 磨石	①②炉1	完形 長・17.9 幅・6.9 厚・6.8 重・1.310g	石材 石英閃緑石	横断面が三角形を呈する棒状礫である。側面に磨面がみられる。両小口部には弱い敲打痕が認められる。	
7	石器 磨石	①南壁際②+6	完形 長・17.2 幅・7.4 厚・4.9 重・900g	石材 石英閃緑石	横断面が三角形を呈する棒状礫。3面のうちの2面に磨面があり、この2面の稜部分も面取りをしたように磨面が成形されている。	

## C区12号住居 (第128・129図 PL113)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 壺	①②埋没土	口縁部～胴部上位 口・16.2 高・6.4	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部はくの字状に強く外反、長く立ち上がる。口縁部は内外面ともナナメヨコ方向に棒状工具によるミガキ。胴部外面はハケメ後タテ方向にミガキを重ねる。	胴部欠損後も二次的に利用されたと考えられる。器面は荒れている。

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
2	土師器 壺	①北西・西・西壁際・北・中央・貯蔵穴・貯蔵穴埋没土・柱穴2埋没土 ②貯蔵穴・柱穴2・床直・+5～+19・埋没土	口縁部欠損 底・6.2 高・(18.4)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	最大径は中位にありヨコに大きく張る。外面はヨコ方向に棒状工具によるミガキを全面に施す。内面は中位・下位にヨコ方向のハケメが認められる。	口縁部欠損後、二次的に利用か。
3	土師器 甕	①②埋没土	口縁部破片 口・(17.0) 高・(4.3)	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は強く屈曲、外反著しく立ち上がる。口縁部はヨコナデ。内面はヨコ方向のハケメを残す。胴部は外面がヘラナデ。内面はナデ。	
4	土師器 甕	①西壁際 ②+13	口縁部破片 口・(15.6) 高・(5.2)	①粗砂 ②酸化 ③灰黄	口縁部は屈曲、外傾弱く直線的に立ち上がる。口縁部は内外面ともハケメ、胴部は外面にハケメ、内面はナデ。	
5	土師器 甕	①北西・西・北・埋没土・柱穴3 ②柱穴3・床直・+3～+8・柱穴3・埋没土	口縁部～胴部下位 口・16.0 高・(17.7)	①粗砂・白色鉱物粒 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は短く、外傾してナナメ上方に向かって立ち上がる。先端は尖る。口縁部は内外面ともハケメを施し、先端のみヨコナデを施す。胴部外面は上位にナナメヨコ方向のハケメを施す。中位から下位はナデ調整の上に尖った細い棒状工具(ハケメの一本のような工具あるいはヘラ状工具付の側面)を連続的に上下に動かした痕跡がみられる。上位は砂粒が動きケズリに近い。	
6	土師器 S字台付甕	①北西・西・南西・中央・南・南壁際・柱穴1・北 ②柱穴1・床直・+4・埋没土	3/4 口・(15.1) 底・9.3 高・27.7	①粗砂 ②酸化 ③浅黄橙	口縁部はヨコナデ。胴部外面は下位から中位に向けてハケメを施した後、上位に頸部から下方に向けたハケメを重ねる。内面は頸部直下に指頭痕がみられる他は指とヘラによるナデを施す。その後脚付部上半にもハケメ。	脚部外面には付着物。内面は黒色味をおびる。
7	土師器 台付甕	①南西・西・南・北東・柱穴1・中央・柱穴3 ②柱穴1・柱穴3・床直・+4～+7	脚部欠損3/4 口・15.4 高・(22.9)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部はくの字状を呈し、ナナメ上方に向けて立ち上がる。口縁部はヨコナデ。下半はナナメヨコ方向にハケメを重ねる。胴部外面は上半にナナメタテ方向のハケメを施した後、上方に向けてタテ方向に粗雑なハケメを幅広く、間隔を空けて施す。下半はタテ方向にナデに近いミガキを施す。内面は上・中位でナデの上にミガキを重ねる。下位はヨコ方向のハケメを施す。	
8	土師器 壺	①北西・北・中央・埋没土 ②床直・+7～+10・埋没土	口縁部下半～胴部下位1/3 高・(15.3)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は外傾弱く直線的に立ち上がる。外面は棒状工具によるミガキを施す。口縁部から胴部上半がタテ方向、下半がヨコ方向である。内面は口縁部にミガキを、胴部にヘラナデを施す。	内面、炭素吸着。
9	土師器 鉢	①②貯蔵穴・貯蔵穴埋没土・柱穴2埋没土・埋没土	1/3 口・(11.3) 高・4.8	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は内面に弱い稜をなした後、短く外傾して立ち上がる。底部は平底。口縁部はヨコナデ。胴部外面はナデ・ヘラケズリ。内面は棒状工具によるミガキを施す。	
10	土師器 鉢	①中央・北・北西・柱穴4埋没土 ②柱穴4埋没土・+3～+14	1/2 口・(12.0) 底・(3.0) 高・5.7	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は内面に弱い稜をなし短く、外傾弱く立ち上がる。底部は狭小な平底。口縁部はヨコナデ。胴部は頸部寄りにハケメを残す。以下中位にナデ。下位は弱いヘラケズリ。内面は丁寧なミガキ。	
11	土師器 埴?	①北西②+14	胴部下位～底部 底・3.6 高・(2.9)	①粗砂多量 ②酸化 ③浅黄橙	器面は薄い。底部は凹底。外面はヘラケズリ。内面はヘラナデ。	鉢の可能性もあるか。

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
12	土師器 ミニチュア	①北東隅 ②床直	ほぼ完形 口・7.2 底・2.2 高・5.9	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい黄橙	小型の壺形品。口縁部は胴部から屈曲後強く外反して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面は上位に一部ハケメを残すが、上半にヘラナデ。下半にヘラケズリ。内面はヨコナデ。	
13	土師器 器台	①②埋没土	受部1/2 口・(8.3) 高・(2.4)	①粗砂少量 ②酸化 ③明赤褐	立ち上がりは直線的で深みのない形状を呈する。内外面とも棒状工具によるミガキを充填する。	
14	土師器 器台	①北東・埋没土 ②+8・埋没土	1/2 口・(8.2) 底・10.5 高・7.2	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	受部は皿状を呈する。脚部は大きくラッパ状に延び、中位に3箇所円孔を配する。受部の内外面・脚部外面には棒状工具によるミガキが充填される。脚部は上半がヘラケズリ。下半は丁寧なナデ。	

## C区15号住居 (第133~135図 PL114)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 S字台付甕	①南・中央・埋没土 ②床直・+7~+13・埋没土	脚台部欠損・胴部 残存1/2 口・(15.8) 高・(20.5)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は屈曲後先端が比較的長く延びる。胴部外面は下位から中位に向けてハケメ後、頸部からナナメ下方向に向けてハケメを重ねるが少し間隙が生じている。内面はナデ。	器面は磨耗・剥離が著しい。
2	土師器 S字台付甕	①②埋没土	口縁部~胴部上位 破片 口・(14.6) 高・(8.4)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	外面は頸部からナナメ下方向にハケメを施すが、やや粗雑な調整である。内面は丁寧なナデ調整を施す。	外面に炭素附着。
3	土師器 壺	①南②+11	口縁部~胴部上位 破片 口・(13.2) 高・(7.2)	①礫多量・粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は外傾弱く長く直線的に立ち上がる。口縁部外面はヨコナデ・ナデ。内面はヨコナデ。	器面は磨耗・剥離が著しい。
4	土師器 甕	①南・埋没土 ②+11・埋没土	口縁部~胴部上位 破片 口・(15.2) 高・(5.0)	①粗砂・細砂・黒色 鉍物粒 ②酸化 ③橙	口縁部はくの字状に屈曲して立ち上がる。口縁部は内外面ともハケメの上に弱いヨコナデを重ねる。胴部外面はナナメヨコ方向のヘラケズリ。内面はハケメ・ヘラナデ。	
5	土師器 甕	①中央・埋没土 ②+13・埋没土	上半1/3 口・11.9 高・(11.4)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部はくの字状に屈曲、短く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面は一部にハケメを残す他は丁寧なヘラナデ。内面は単位の細いハケメをナナメヨコ方向に施す。一部にナデ。	
6	土師器 甕	①中央・南・埋没土 ②+17~+20・埋没土	1/2 口・(19.1) 底・(7.5) 高・27.0	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部はくの字状に外反して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面はナデに近いタッチのヘラケズリ。内面はヨコ方向のヘラナデを施す。	内面に炭素附着。
7	土師器 小型甕	①北・埋没土 ②+9・埋没土	1/2 口・(10.2) 底・(5.6) 高・13.5	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい黄橙	器面は全体に薄く、重量が軽い。口縁部は短く立ち上がり先端は尖る。外面の口縁部から胴部上位はヨコナデ。内面は口縁部にミガキを、胴部は頸部直下にハケメ、上半にヘラナデ、中位にヘラケズリ、下位には丁寧なナデをそれぞれ施す。	
8	土師器 小型甕	①中央②床直	口縁部破片 口・(10.1) 高・(3.1)	①細砂 ②酸化 ③褐灰	口縁部は短く外傾弱く立ち上がる。外面はタテ方向に、内面はヨコ方向に棒状工具によるミガキを施す。	外面に炭素附着。

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
9	土師器 器台	①北②床直	ほぼ完形 口・9.0 底・10.3 高・8.3	①粗砂 ②酸化 ③明黄褐	受部は皿状を呈するが他に比べやや深みを有する。脚部は漏斗状に外反、中位に円孔を3箇所に配す。受部の内外と脚部外面に棒状工具によるミガキを充填する。脚部内面はヘラナデ・ハケメを残す。	
10	土師器 器台	①北・北西・埋没土 ②床直・+14～+10・埋没土	1/2 口・8.7 底・(12.0) 高・8.2	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	受部は浅い皿状を呈する。胴部は長く大きく外反して裾部にいたる。中位に円孔を3箇所に配す。受部の内外面と脚部外面にはミガキが施されるが粗雑で、先行するハケメが処々に残る。脚部内面はハケメ・ヘラケズリ・ナデ。	
11	土師器 高杯	①北東隅・土坑 2内・埋没土 ②床直・埋没土	ほぼ完形 口・21.2 底・(12.8) 高・14.9	①粗砂 ②酸化 ③橙	杯部は口径が大きく深みを有する。脚部は漏斗状を呈し、外反するが、裾部径は口径を大きく下回る。脚部には2段にわたり4箇所ずつ合計8箇所に円孔が配されている。杯部の内外面、脚部の外面にはタテ方向に棒状工具によるミガキが施されるが、やや粗雑である。脚部内面はハケメの上にナデを重ねている。	
12	土師器 器台	①中央・埋没土 ②+5・埋没土	1/3 口・(9.2) 高・(6.6)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	受部は皿状を呈しやや径は大きい。先端はつままれたように小さく尖る。脚部には円孔を3箇所に配す。脚部内面にはハケメを残す。	器面は磨耗が著しい。
13	土師器 器台	①北西・北・埋没土 ②+4・埋没土	1/3 底・(12.7) 高・(8.0)	①粗砂 ②酸化 ③浅黄橙	受部と脚部の接続部は細くくびれ、脚部はここから裾部に向かって大きく外反する。円孔3箇所に配す。透孔の位置は等間隔ではない。受部内外面と、脚部外面にはミガキを施されたと考えられる。脚部内面にはハケメを残す。	器面は磨耗が著しく調整方法を観察することが困難であった。
14	土師器 ミニチュア	①西・埋没土 ②+5・埋没土	3/4 口・(8.1) 底・3.8 高・5.0	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は胴部から屈曲、やや内彎ぎみに立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヨコ方向にミガキを、内面にはヨコ方向のナデを施す。	
15	石製品 砥石	①北西②+6	上部欠損 長・(12.8) 幅・6.8 厚・5.0 重・410g	石材 粗粒輝石安山岩	荒砥である。現状では横断面は四角形であるが、原石は扁平な礫である。小口の一部に自然面を残す。もう一端は欠損している。4面の使用面はいずれも横断面がやや凹面状に彎曲しており、側面2面はさらに中央が溝状に凹む研磨面が形成されている。	
16	石製品 こも編石	①②埋没土	完形 長・10.0 幅・3.3 厚・2.3 重・115g	石材 粗粒輝石安山岩	図示下端の小口面には狭い範囲に磨耗痕が認められる。	
17	石製品 砥石	①北②+14	1/2 長・13.2 幅・11.1 厚・8.6 重・1,142g	石材 粗粒輝石安山岩	棒状礫を原石とする荒砥であるが欠損品である。側面には8面の使用面が確認できるがいずれの研磨面も横断面が凹面状を呈している。	

## C区17号住居（第138図 PL115）

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 壺	①南東隅・表土 ②床直・表土	口縁部～頸部 口・26.0 高・(10.9)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄褐	口縁部は二重口縁で、中位に稜をなし大きく外反する。頸部には断面四角形の粘土紐がめぐり突帯をなす。口縁部外面は上半にミガキ、下半上位にヘラケズリ、下位にハケメを施す。内面にはミガキが充填される。胴部は外面にミガキが、内面にヘラナデが施される。	
2	土師器 器台	①②埋没土	脚部破片 高・(5.1)	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	裾部に向かって外反著しい。接合部寄りに円孔を3箇所配したと考えられる。外面は上位がヨコ、中位以下がタテ方向のミガキを丁寧に施す。内面はナデ・ハケメ。	

## C区21号住居（第139図 PL115）

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 鉢	①②埋没土	1/3 口・(13.2) 底・(6.0) 高・6.7	①細砂・白色軽石粒 ②酸化 ③橙	口縁部は短く、くの字状に外反して立ち上がる。先端は大きく歪む。底部は凹状を呈す。口縁部はナデ。胴部外面は上位にハケメ、中位にナデ、底部にヘラケズリを施す。内面は口縁部がハケメ、内面はヘラナデ。	

## C区24号住居（第141図 PL115）

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 壺	①南西・南・掘り方南西 ②床直・+4～8・掘り方	胴部破片 高・(16.1)	①粗砂多量 ②酸化 ③橙	胴部外面はナナメヨコ・ナナメタテ方向の浅いタッチのハケメ。内面は棒状工具によるナデ。	内面は剥離が著しい。
2	弥生土器 壺	①②埋没土	破片	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	櫛状工具による波状文が3段確認できる。下の2段は工具が5条1単位で波高の高い文様である。	
3	弥生土器 小型壺	①②埋没土	破片	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	3条1単位の簾状文が1段確認できる。	
4	石器 凹石	①②埋没土	完形 長・9.6 幅・7.4 厚・5.2 重・484g	石材 粗粒輝石安山岩	やや小ぶりであり厚みのある礫。表・裏面、両側面の中央に広い範囲にわたり浅い敲打痕がみられる。	

## C区25号住居（第145図 PL115）

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 壺	①中央②床直	口縁部1/3 口・(19.3) 高・(5.9)	①粗砂・黒色鉱物粒 ②酸化 ③浅黄橙	口縁部は大きく外反して先端に面を有する。頸部には突帯がめぐり。内外面とも棒状工具によるミガキを充填する。外面はナナメタテ方向、内面はヨコ方向。	

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
2	土師器 壺	①柱穴1・西・埋没土 ②+6~+12・埋没土	口縁部~胴部上位 口・(15.8) 高・(8.7)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は胴部から上方に向けて立ち上がり、中位で外面に段をなした後大きく外反する。口縁部は内外面とも棒状工具によるミガキ。胴部内面は丁寧なナデ調整。	口縁部内外面の一部に赤色塗料残る。全体に塗彩あったか。
3	土師器 壺	①②1号土坑・埋没土	胴部中位~底部 3/4 底・7.7 高・(16.1)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	胴部は球状を呈するがヨコ方向に大きく張り出す。胴部外面は最下位にヘラケズリ。他は棒状工具によるミガキを施すがやや粗雑である。内面はナナメ方向に弱いタッチのヨコナデ。	
4	土師器 埴	①②埋没土	2/3 口・11.9 底・3.4 高・5.1	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	平底。口縁部は帽子のつば状にナナメ上方に向かって立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部との接合部にはハケメを残す。胴部外面はヘラケズリ。胴部内面にはハケメを施す。	
5	土師器 小型壺 (埴)	①中央②+10	完形 口・8.9 高・10.3	①赤色粘土粒少量 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は外傾弱くほぼ直立ぎみに立ち上がる。先端は内側がそがれ尖る。胴部はヨコに張り、重心は低い。口縁部はヨコナデ。胴部外面はナデの上に棒状工具によるミガキ。内面は丁寧なナデ。	
6	土師器 高杯	①中央・埋没土 ②+18・埋没土	杯部1/3 口・(14.2) 高・(4.0)	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	内外面とも棒状工具によるミガキを丁寧に施している。	
7	土師器 高杯か器台	①②埋没土	杯部1/3 口・(13.7) 高・(4.5)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部の中位に円孔が2箇所残存。全体としては4箇所ないし3箇所配されていたと考えられる。外面は棒状工具によるミガキ。内面は上半に丁寧なナデ。下半からみこみ部はヘラケズリ・ヘラナデ。	図は透孔4箇所で作図。
8	弥生土器? 高杯	①東②+5	脚部1/2 底・(13.1) 高・(10.3)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	あまり大きく外反することなく裾部にいたる。外面は上位・中位がタテ方向、下位がヨコ方向に棒状工具によるミガキを施す。内面は最上位にヘラナデ、以下は弱いヘラケズリ。	
9	土師器 器台	①②埋没土	脚部下半欠損1/3 口・(9.2) 高・(6.8)	①細砂 ②酸化 ③にぶい褐	受部は彎曲して立ち上がる。脚部との接合部分は他と比較して太い。脚部には円孔を3箇所に配する。受部の内外面・脚部外面は棒状工具によるミガキを充填。脚部内面はヘラナデ。	
10	土師器 有孔鉢	①②柱穴1	完形 口・10.6 底・4.5 高・6.4	①粗砂少量 ②酸化 ③淡黄	口縁部はやや内彎ぎみながらナナメ上方に向けて立ち上がる。底部は平底で中央に直径1.6cmの円孔を穿つ。外面は口縁部先端にヨコナデ。以下はハケメ。内面はヨコ方向のヘラナデ・ヘラケズリ。	

C区29号住居 (第148・149図 PL115)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 壺	①②貯蔵穴	口縁部破片 口・(18.9) 高・(4.2)	①粗砂・赤色粘土粒 ②酸化 ③橙	口縁部は中位で外面に明瞭な段を有した後、大きく外反して立ち上がる。先端は平坦面をなす。外面はタテ方向に棒状工具によるミガキを充填。内面には矢羽根状にミガキを施す。	内外面とも赤色塗料を施したか。

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
2	土師器 壺	①②貯蔵穴・埋 没土・掘り方	胴部下位～底部破 片 底・8.9 高・(5.5)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい褐	胴部はヨコに大きく張り出す形状。外 面は器形の変換点の部分をヨコ方向に ヘラケズリ。他は丁寧なヘラナデ。内 面は全てヘラナデ。	
3	弥生土器? 甕	①②貯蔵穴・埋 没土	口縁部破片 口・(14.1) 高・(3.8)	①細砂 ②酸化 ③淡黄	外面には粘土紐の輪積痕を明瞭に残す。 内外面ともナデを施す。	
4	土師器 甕	①②埋没土・掘 り方	口縁部～胴部上位 口・(16.4) 高・(5.6)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部はくの字状に外反して立ち上 がる。口縁部外面には指頭圧痕を良く残 す。頸部から胴部外面はナナメヨコ方 向のハケメを充填。口縁部内面にもハ ケメ。胴部内面には指頭圧痕。	
5	弥生土器? 甕	①南西②+17	口縁部破片 口・(15.9) 高・(5.0)	①細砂 ②酸化 ③灰黄褐	口縁部は緩やかに外反して立ち上がり、 外面に粘土紐の輪積痕を残す。頸部外 面にはハケメを残す。胴部内面にもハ ケメ。	
6	土師器 甕	①②埋没土	口縁部破片 口・(22.6) 高・(3.6)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部はくの字状に外反して立ち上 がる。口縁部外面はヨコナデ。内面には ハケメ、頸部外面にもハケメを施す。	
7	土師器 甕	①②埋没土	口縁部～胴部中位 口・17.5 高・(13.4)	①粗砂・赤色粘土粒 ②酸化 ③淡黄	口縁部は屈曲した後直線的にナナメ上 方に向けて立ち上がる。口縁部外面は 上半がヨコナデ、下半はナデ。内面は ヨコ方向のハケメ。胴部外面は頸部近 くにハケメ、以下はナデ・ケズリ。内面 はヨコ方向のハケメをナデ消している。	
8	弥生土器 台付甕?	①②埋没土	口縁部～胴部上位 破片 口・(14.6) 高・(5.8)	①細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は外面が肥厚、折り返し口縁を 呈する。頸部の静止痕のみられない簾 状文をはさみ、口縁部に2段、胴部に 3段以上の波状文が施されている。	
9	土師器 S字台付甕	①北東②+17	脚台部破片 高・(3.7)	①細砂・黒色鉾物粒 ②酸化 ③にぶい黄橙	外面の上位にはハケメ。中位以下はナ デ。内面は指頭により砂粒を多く含ん だ粘土をナデる。	
10	土師器 S字台付甕	①②貯蔵穴・埋 没土・掘り方埋 没土・	脚台部破片 底・(10.3) 高・(4.2)	①細砂・黒色鉾物粒 ②酸化 ③にぶい黄橙	裾部は内側に折り返り肥厚する。外面 の一部にハケメがみられる。	
11	土師器 S字台付甕	①東・北東・埋 没土 ②床直・+13・ 埋没土	脚台部2/3 底・(10.3) 高・(7.1)	①粗砂少量・片岩混 入 ②酸化 ③にぶい黄橙	外面の上半にはハケメ。下半は丁寧な ナデ。内面は指頭によるナデ。	
12	土師器 S字台付甕	①南西隅・埋没 土 ②+7～+15・埋 没土	脚台部欠損 口・12.2 高・(18.3)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③浅黄橙	口縁部は上半が長く外反して立ち上 がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面は下 位から上位に向けてハケメを施した後 上位に頸部から下位に向けたハケメを 重ねる。内面は指頭によるナデ・オサ エ。	外面に炭素 附着。
13	土師器 鉢	①②埋没土	1/4 口・(24.8) 高・(6.4)	①細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は底部から屈曲後ナナメ外方 に向けて大きく外反する。外面にのみ屈 曲直後弱い変換点がある。器面は内外 面とも棒状工具によるミガキが充填さ れる。	
14	土師器 埴	①②埋没土・掘 り方	1/2 口・(10.7) 底・2.5 高・5.8	①細砂・黒色鉾物粒 ②酸化 ③灰白	口縁部は長く、内彎ぎみにナナメ上 方に向けて立ち上がる。底部は狭小な凹 底。器面は磨耗進むが外面には棒状工 具によるミガキが施されていることが 考えられる。	
15	土師器 高杯	①②貯蔵穴・埋 没土・掘り方	杯部1/4 口・(13.3) 高・(6.5)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③浅黄橙	杯部は鉢状を呈し、緩やかな曲線を描 きながらナナメ上方に向けて立ち上 がる。脚部に3箇所円孔を配する。外面 および杯部内面には棒状工具によるミ ガキを施す。脚部内面はヘラナデ。	器面の剥離 ・磨耗が著 しい。

## C区32号住居（第150図）

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	弥生土器? 甕?	①②埋没土	口縁部破片 口・(10.9) 高・(1.8)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	外反して立ち上がり、外面に輪積痕を残す。	

## C区34号住居（第152図 PL116）

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 S字台付甕	①②埋没土	口縁部破片 口・(16.2) 高・(2.1)	①細砂 ②酸化 ③灰黄	上半はやや長く、外反して立ち上がる。 ヨコナデ。	
2	土師器 S字台付甕	①②ピット1埋 没土	口縁部破片 口・(16.1) 高・(2.3)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③褐灰	上半はやや長く、大きく外反して立ち 上がる。	
3	土師器 S字台付甕	①②埋没土	脚台部 底・9.5 高・(6.0)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	脚台部の裾部は内側に折れ返る。外面 は丁寧なナデ。上位にナナメタテ方向 のハケメを施す。内面の天井部には砂 粒を多く含む粘土を貼り付ける。以下 は指頭によるナデ。	
4	土師器 S字台付甕	①南西②+15	脚台部 底・(8.8) 高・(4.5)	①細砂 ②酸化 ③灰黄	裾部は先端が内側に折れ返る。外面は 上位にハケメがみえるが下半にはナデ。 内面はヘラナデか。	
5	土師器 S字台付甕	①西②床直	脚台部 底・(10.1) 高・(7.5)	①粗砂 ②酸化 ③浅黄橙	脚台部の裾部は内側に折れ返る。外面 はナナメ方向のハケメの一部のナデを 消す。内側は指頭によるナデを施す。	
6	土師器 小型甕	①南②床直	1/3 口・(6.5) 高・(7.4)	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部はくの字状に屈曲する。胴部外 面は下位の一部にナデを施す他はナナ メ方向のハケメを加える。内面は丁寧 なナデ。	
7	土師器 壺	①北西②+11	口縁部破片 口・(19.2) 高・(6.6)	①粗砂・赤色粘土粒 多量 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は外反して立ち上がり中位に明 瞭な段を成した後さらに強く外反する。 段の部分は粘土を指で押圧、器形を整 えている。外面上半はタテ方向の棒状 工具によるミガキ。下半はナナメタテ 方向のハケメを施す。内外面ともミガ キが加えられていると思われるが器面 の磨耗が著しく詳細な工具の動きは不 明である。	内外面とも 赤色塗料を 施す。
8	弥生土器? 不明	①②埋没土	口縁部破片 高・(5.1)	①粗砂 ②酸化 ③灰黄褐	器面に強いヘラケズリを施すことによ り、外面先端は器肉を厚くみせている。 先端は平坦面をなしハケメを加える。 内面にもハケメを施す。	
9	弥生土器 壺	①②埋没土	胴部破片	①粗砂 ②酸化 ③淡黄	ハケメ調整に縄文を重ねている。	
10	弥生土器 壺	①②埋没土	口縁部破片	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	先端は外面に粘土紐を貼り肥厚する。 肥厚部分も含め波状文を充填している。	

## C区43号住居（第154図 PL116）

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 甕?	①②炉3	口縁部破片 口・(18.2) 高・(3.6)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	直線的にナナメ上方に向かって延び、 先端は外側に丸味をおびた面をなす。	器面の磨耗 が著しい。

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
2	土師器 壺	①南西 ②床直・+5	口縁部破片 口・(12.0) 高・(6.6)	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は長く、直線的に外傾する。外面は先端がヨコナデ、以下はタテ方向のハケメの上にミガキを重ねる。内面はヨコ方向に棒状工具によるミガキを施す。	
3	弥生土器? 有孔鉢	①②攪乱内	胴部下半～底部 底・4.0 高・(9.8)	①粗砂・赤色粘土粒 ②酸化 ③橙	狭小な底部の中央には直径1.2cmの小孔が穿たれている。外面はタテ方向のヘラケズリ。内面もヨコ方向のヘラケズリ。	
4	土師器 高杯	①②埋没土	胴部破片 底・(13.0) 高・(2.2)	①細砂 ②酸化 ③にぶい橙	外面はタテ方向に棒状工具によるミガキ。内面はヨコ方向のハケメ・ナデ。	

## C区57号住居 (第155図 PL116)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 高杯	①②埋没土・掘り方	破片 口・(12.0) 高・(1.9)	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は彎曲してナナメ上方に立ち上がる。先端は内外面ともヨコナデ。以下外面はナデに一部ヨコ方向のヘラケズリ。内面は棒状工具によるミガキを施す。	
2	土師器 甕	①北②+9	口縁部～胴部上半 破片 口・(14.6) 高・(9.5)	①粗砂 ②酸化 ③淡黄	口縁部は短く、外傾弱く立ち上がる。先端は外面に輪積痕を残し折り返し口縁状を呈する。口縁部上半はヨコナデ。以下、胴部にかけて外面はタテ・ナナメタテ方向のハケメ。内面は口縁部下半にハケメ。胴部はナデを施す。	混入品か。

## A区5号住居 (第157図 PL116)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 甕	①北東壁際 ②+16	口縁部～胴部上位 破片 口・(20.0) 高・(8.0)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は屈曲、外反著しく立ち上がる。先端は丸味を有する。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヨコ方向のヘラナデ。内面は一部にヘラケズリがみられ他はヘラナデ。	
2	土師器 埴	①東壁際 ②+10～+11	胴部破片 高・(4.5)	①粗砂 ②酸化 ③明赤褐	球形を呈していたと考えられる。外面は下半にヘラケズリ。上半にヘラナデを施す。内面はユビナデ。	
3	土師器 高杯	①北東壁際・埋没土 ②+17・埋没土	脚部2/3 底・15.5 高・(9.7)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	上半は円錐状を呈し、中位で屈曲後大きく外反して裾部にいたる。外面は上半がタテ方向にヘラナデ。裾部はヨコナデ。内面は上半にナデを施すが粘土の接合痕を明瞭に残す。裾部はヨコナデ。	

## C区2号址 (第159図)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 S字台付甕	①②埋没土	口縁部破片 口・(11.1) 高・(2.6)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は中位で屈曲、上半が長く延びる。	
2	土師器 S字台付甕	①②埋没土	口縁部破片 口・(11.0) 高・(3.0)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄	口縁部は中位で屈曲後外反して立ち上がる。胴部外面にはハケメが施される。	

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
3	弥生土器? 高杯	①②埋没土	胴部破片 底・(5.6) 高・(3.2)	①粗砂少量 ②酸化 ③浅黄	裾部の直径は小さい。外傾弱く直線的に延びる。外面はタテ方向に棒状工具によるミガキが、内面にはヘラナデが施される。	外面には赤色塗彩が施されている。

A区1号址 (第161・162図 PL116)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 高杯	①北東隅 ②+3~+18	杯部2/3 口・19.8 高・(6.1)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③明赤褐	杯部、口縁部は直線的に外傾著しく立ち上がる。内外面ともヨコナデ・ナデの調整の上に棒状工具によるミガキを施す。	内面は一部剥離・磨耗。
2	土師器 高杯	①北東隅 ②床直	杯部1/2 口・(20.1) 高・(5.7)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	杯部、口縁部はナナメ上方に向けて直線的に立ち上がる。内外面ともヨコナデ・ナデの調整の上に棒状工具によるミガキを重ねている。	
3	土師器 高杯	①北東隅 ②+3~+8	ほぼ完形 口・19.2 底・15.2 高・16.2	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は小さな底径から口縁部がナナメ上方に直線的に延びる。脚部は柱状を呈し、裾部近くで屈折、大きく外反している。外面は全体にヨコナデ・ナデ。内面は脚部にユビナデ。杯部内外面、裾部外面に間隔を広く使って棒状工具によるミガキを施す。	
4	土師器 高杯	①北東隅②+3	脚部 底・13.2 高・(9.2)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③明赤褐	脚部は裾部に向けて外反して延びるがその度合いは弱い。外面はナデ・ヨコナデの上に棒状工具によるミガキを重ねている。内面はナデ・ヘラケズリにより接合痕を消している。	
5	土師器 甕	①北東隅②+6	口縁部~胴部上位 破片 口・(23.0) 高・(3.3)	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部はヨコナデ。胴部外面はナデあるいはヘラケズリの工具が強く当たった痕跡がみられる。内面はヘラナデ、一部ヘラケズリ。	

C区6号土坑 (第163図 PL116)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 埴	①②埋没土	ほぼ完形 口・11.6 底・3.8 高・9.4	①粗砂 ②酸化 ③明赤褐	口縁部は直線的に外傾、先端において器形の最大径を有する。底部は弱い凹面。口縁部外面はハケメ後上位にヨコナデ。中位・下位に粗雑なナデ。内面はナナメヨコ方向のハケメにヨコ方向のナデを重ねる。胴部はナデ。下位に強いヘラナデを施す。内面は指頭によるナデ調整。	

C区1号倒木痕 (第164図 PL116)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 高杯	①②埋没土	脚部欠損 口・20.0 高・(12.0)	①粗砂 ②酸化 ③明赤褐	口縁部はわずかに彎曲しながらナナメ上方に向かって立ち上がる。脚部への移行部には稜をなす。脚部もハの字状に外反すると考えられる。中位に透孔を3箇所配す。脚部内面にヘラナデ。それ以外は棒状工具によるミガキを丁寧に施す。	

## 古墳時代前期遺構外出土遺物 (第165図 PL116)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 甕	①C区23号住居 ②埋没土	口縁部破片 口・(11.4) 高・(5.4)	①細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は胴部からくの字状に屈曲して立ち上がる。先端は外側がそがれ、面をなし、尖る。口縁部はヨコナデ。胴部外面はナナメタテ、あるいはナナメヨコ方向のハケメ。胴部内面はヘラケズリに近いヘラナデ。	口縁部から頸部直下に赤色塗彩。
2	土師器 壺	①②C区表土	口縁部破片 口・(28.5) 高・(8.1)	①粗砂 ②酸化 ③明黄褐	大きく外反して立ち上がる。外面は中位に明瞭な段を有する。先端はつままれたように尖る。上段にはタテ方向に棒状の浮文を貼付する。単位は不明。内外面ともヘラナデ・ナデが多用されている。	
3	土師器 鉢	①C区59号住居 付近 ②表採	1/2 口・(11.5) 底・4.6 高・4.5	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	外面先端にヨコナデ。以下はハケメとその上にナデを重ねる部分とがみられる。底部周辺にはヘラケズリが施される。内面はナデにミガキを重ねている。	
4	弥生土器 鉢	①②C区表土	口縁部下半～底部 破片 底・(5.0) 高・(6.0)	①粗砂 ②酸化 ③褐	口縁部はナナメ上方にやや彎曲しながら立ち上がる。外面は最下位にヘラナデを施す他は内外面とも棒状工具によるミガキを施す。	
5	土師器 高杯	①B区44T-3 ②埋没土	口縁部破片 口・(21.0) 高・(7.2)	①細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	ナナメ上方に向けて立ち上がる。外面は下位にヘラケズリ。内面はナデの上に棒状工具によるミガキを重ねる。	

## (3) 古墳時代後期の遺構出土遺物

## A区1号住居 (第167図)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 甕	①②埋没土	口縁部下半～胴部 上半破片 高・(7.2)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部はヨコナデ。胴部外面はヨコあるいはナナメヨコ方向のヘラケズリ。内面はヘラナデ。	

## B区2号住居 (第169図 PL117)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①南東②床直	完形 口・12.3 高・4.1	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は底部との明瞭な稜をなした後ナナメ上方に向けて立ち上がる。中位にも明瞭な段をなす。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	
2	土師器 杯	①掘り方南東 ②掘り方	破片 口・(13.4) 高・(4.0)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は底部と間に弱い稜をなした後外傾弱く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面はヨコナデ・ナデ。	
3	土師器 杯	①②貯蔵穴埋没 土	破片 口・(11.8) 高・(2.8)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は底部から彎曲、上方に向けて立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は下半にヘラケズリ。	

## B区3号住居 (第171図 PL117)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①掘り方東壁際 ②掘り方	1/3 口・(14.0) 高・3.0	①粗砂 ②酸化 ③にぶい褐	口縁部は外傾ぎみに立ち上がり中位でその向きを起し先端にいたる。口縁部はヨコナデ。底部は周縁部を除いてヘラケズリ。	器面は剥離・磨耗が著しい。

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
2	土師器 杯	①掘り方東中央 ②掘り方	ほぼ完形 口・11.4 高・4.4	①粗砂 ②酸化 ③明赤褐	口縁部は底部から外反著しく立ち上がる。器肉は全体に厚い。口縁部はヨコナデ。底部は上位を除いて粗雑なヘラケズリ。内面はヨコナデ・ナデ。	
3	土師器 杯	①②埋没土	破片 口・(14.0) 高・3.4	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は彎曲して立ち上がり、先端にいたり、つままれたように外方を向く。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面は丁寧なナデ。	器面は剥離・磨耗が著しい。
4	土師器 甕	①②竈	口縁部～胴部上位 破片 口・(19.4) 高・(4.4)	①粗砂 ②酸化 ③明褐	口縁部は強く外反して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面はタテ方向にナデに近いヘラケズリ。内面はヘラナデ。	
5	土師器 甕	①②竈焚口部	口縁部～胴部上位 破片 口・(15.9) 高・(5.1)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい赤褐	口縁部は上方に向かって立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヘラケズリ後ヘラナデ。内面もヘラナデ。	
6	土師器 甕	①②竈左袖補強材	底部欠損 口・18.0 高・(15.3)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	台付甕の可能性が考えられる。口縁部は大きく外反して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヘラケズリ。内面はヘラナデ。	火熱により器面剥離。
7	土師器 甕	①竈左袖補強材・竈左袖左側・南 ②竈左袖・竈左袖左側・床直	下半 底・3.5 高・(20.3)	①粗砂・軽石 ②酸化 ③明赤褐色	底部は狭小な平底。外面は残存部上位がタテ方向。下位がナメヨコ方向のヘラケズリ。内面はヘラナデ。	
8	須恵器 高杯	①南・竈左袖前・埋没土・掘り方南東・掘り方北東・掘り方 ②竈左袖前・床直・埋没土・掘り方	2/3 口・(13.2) 底・15.5 高・21.3	①粗砂少量 ②還元 ③灰白	有蓋で長脚の形状である。脚部は2条の沈線をめぐらして区画、沈線の上位には頂部を上に向けた三角形の透孔を、下位にはスリット状の透孔を、各々3単位配する。右回転クロコ成形。	器面、変色。鉄分付着か。
9	土師器 台付甕	①②竈焚口部	脚台部 底・11.5 高・(4.5)	①粗砂・赤色鉱物粒 ②酸化 ③明赤褐	低く、外反著しく裾部へ延びる。外面はナデ、弱いヘラケズリ。内面はヘラナデ。	
10	土製品 支脚	①②埋没土	破片 高・(6.2)	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい黄橙	筒状を呈し、下端に向かって直径を増すと考えられる。外面はヘラケズリ後ヘラナデ。内面には粘土紐の輪積痕をそのまま残す。	
11	石製品 丸玉	①南西②+3	ほぼ完形 厚さ・1.0 長さ・1.1 幅・1.1 重・1.8g	石材 不明	図、上端は凹面状の小口面を有している。形状は球形を意識した調整が加えられているか。器面には細やかな削痕を多く残す。	
12	石製品 こも編石	①南壁際 ②床直	完形 長・12.8 幅・5.0 厚・3.3 重・296g	石材 粗粒輝石安山岩	棒状を呈する。17以外はこれと同形である。	
13	石製品 こも編石	①南壁際 ②床直	完形 長・11.0 幅・5.5 厚・3.8 重・364g	石材 粗粒輝石安山岩	一部他よりも磨耗の顕著な部分あり。使用痕か。	
14	石製品 こも編石	①南壁際 ②床直	完形 長・12.2 幅・6.8 厚・3.5 重・488g	石材 輝緑岩	特別な使用痕はみられない。	

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
15	石製品 こも編石	①南壁際 ②床直	完形 長・11.8 幅・4.7 厚・4.3 重・475 g	石材 粗粒輝石安山 岩	特別な使用痕はみられない。	
16	石製品 こも編石	①南壁際 ②床直	完形 長・12.9 幅・5.1 厚・3.0 重・281 g	石材 粗粒輝石安山 岩	小口部分がわずかに敲打されているか。	
17	石製品 こも編石	①南壁際 ②床直	完形 長・10.7 幅・9.5 厚・5.9 重・719 g	石材 粗粒輝石安山 岩	特別な特徴はみられない。	
18	石製品 こも編石	①南壁際 ②床直	完形 長・13.7 幅・5.2 厚・3.9 重・445 g	石材 石英閃緑岩	全面に光沢をもつ。	
19	石製品 こも編石	①南壁際 ②床直	完形 長・15.2 幅・7.2 厚・3.7 重・617 g	石材 粗粒輝石安山 岩	全面に光沢をもつ。	

## B区4号住居 (第174・175図 PL117・118)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①北西②+7	完形 口・15.3 高・4.5	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい褐	口縁部は底部との間に弱い稜をなした 後外傾して立ち上がる。中位に2箇所 わずかな段をなす。口縁部はヨコナデ。 底部外面はヘラケズリ。内面には棒状 工具によるミガキを放射状に施す。	器面は炭素 吸着している。黒色処 理が施され たか。
2	土師器 杯	①北西②+3	完形 口・13.9 高・4.1	①粗砂少量 ②酸化 ③黒褐	口縁部は底部との間に弱い稜をなした 後、ナナメ上方に向けて立ち上がる。 口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケ ズリ。	黒色処理を 施している か。
3	須恵器 蓋	①北西②床直	完形 口・7.2 摘径・3.4 高・4.9	①粗砂少量 ②還元 ③黒	全体に器面が厚く、鈍重な形状。天井 部に、中央が凹む摘がつく。端部内面 に高いかえりがみられる。右回転クロ ク成形。外面の一部にヘラケズリ。	器面に炭素 吸着。
4	須恵器 蓋	①掘り方北西 ②掘り方	ほぼ完形 口・15.8 高・5.0	①粗砂・細砂 ②還元 ③黄灰	右回転クロク成形。天井部外面は不定 方向に弱いタッチのヘラケズリ。	
5	須恵器 甕	①北西②+4	口縁部～胴部上半 口・13.9 高・(16.4)	①粗砂少量 ②還元 ③灰黄	全体に器肉が厚く鈍重なつくり。口縁 部と頸部の間には弱い器形変換点を有 する。頸部には粗雑な櫛描波状文が6 段配されている。胴部外面は中位に2 条の沈線をめぐらし、その区画内に列 点文を配している。上半には波状文2 段(一部3段か)が一巡している。	焼成、不完 全。
6	土師器 甕	①北西②床直	口縁部～胴部上位 と胴部下位～底部 口・(18.0) 底・(4.5) 高・(29.8)	①粗砂・軽石 ②酸化 ③黒褐	口縁部は短く、強く外反して立ち上 がる。口縁部はヨコナデ。胴部は外面 にヘラケズリ。内面にヘラナデ。	2片から図 上復元。器 面は炭素吸 着。

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
7	土師器 甕	①埋没土 ②埋没土・掘り 方	口縁部～胴部上位 破片 口・(20.4) 高・(14.3)	①粗砂 ②酸化 ③明褐	口縁部は緩やかに立ち上がり先端は丸味をおびる。胴部は丸く張る。口縁部はヨコナデ。胴部外面は上位にヘラナデ。中位にヘラケズリ。内面は上位にヘラナデ。中位は棒状工具によるミガキ。	

B区5号住居 (第177図 PL118)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 甕	①北東隅②+6	口縁部～胴部上位 破片 口・(18.0) 高・(6.8)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部はヨコナデ。胴部外面はヘラケズリ。	器面は剥離・磨耗が著しい。
2	土師器 甕	①北東隅 ②+7	口縁部破片 口・(16.5) 高・(6.6)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は上方に向けて立ち上がっていたか。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヘラケズリの上に一部ヘラナデを重ねる。内面はヨコ方向のヘラナデ。	
3	石製品 紡錘車	①東②床直	完形 上面径・3.5 下面径・2.2 厚・1.7 重・31.2g	石材 蛇紋岩	下端部はやや凸面状を呈する。各面とも細やかな削痕が認められるものの平滑に仕上げられている。軸孔の直径は0.6cmである。	

B区10号住居 (第181～184図 PL118・119)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①南東②床直	1/4 口・(12.8) 高・(3.7)	①細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は底部との間に稜をなした後ナメ上方に向かって立ち上がる。中位に段をなす。底部外面はヘラケズリ。内面は棒状工具によるミガキを密に、放射状に施す。	
2	土師器 杯	①掘り方東 ②掘り方	破片 口・(13.4) 高・(3.1)	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は底部との間に弱い稜をなした後、外傾著しく立ち上がる。先端は尖る。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	
3	土師器 杯	①掘り方東 ②掘り方	1/4 口・(13.0) 高・(3.9)	①粗砂・赤色粘土粒 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は底部との間に弱い稜をなした後、外傾著しく立ち上がる。先端は尖る。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	
4	須恵器 高杯	①②竈右袖右側 ・埋没土・掘り 方	杯部 口・12.8 高・(4.6)	①黒色鉱物粒 ②還元・軟質 ③灰白	無蓋の高杯杯部で脚部は欠損している。左回転ロクロ成形。外面下半にはカキ目が施されている。	
5	須恵器 高杯	①中央・埋没土 ②床直・埋没土	杯部 口・13.4 底・4.6 高・5.4	①粗砂 ②還元 ③暗灰黄	口縁部は内傾して立ち上がる。みこみ部分の深さは浅い。長脚を有していたと考えられる。右回転ロクロ成形。	脚部欠損後、割れ口を調整。二次利用している。
6	土師器 高杯	①②埋没土	杯部下半～脚部上 半破片 高・(7.1)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	脚部は杯部との接合部に柱状となす部分を経た後、外反をはじめるか。杯部内面はミガキ。	内面、黒色処理。B区10住-7と同一個体の可能性が高い。
7	土師器 高杯	①掘り方東 ②掘り方	口縁部破片 口・(20.0) 高・(4.2)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	外傾著しく立ち上がり、外面中位に明瞭な稜を有する。内面はヨコ方向に棒状工具によるミガキを施す。	内面、炭素付着。黒色処理。外面は器面の磨耗が著しい。

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
8	土師器 鉢	①南・埋没土 ②床直・埋没土	1/3 口・(21.8) 高・(11.2)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	半球形の胴部に短い口縁部がつく。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヘラケズリ。内面はヘラナデ。	底部は二次的に穿孔している可能性あり。
9	土師器 台付甕	①②竈右袖右側・掘り方北・掘り方北東・掘り方	2/3 口・15.2 底・12.3 高・18.3	①粗砂多量 ②酸化 ③明赤褐	口縁部は直立ぎみに立ち上がる。口径と胴部最大径は、ほぼ同規模である。脚台部は大きく外反、器肉が厚い。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヨコあるいはナナメヨコ方向にヘラケズリ。内面はヘラナデ。脚台部は内外面ともナデ・ヨコナデ。	火熱を受けている。
10	土師器 甕	①②竈支脚	底部欠損 口・13.4 高・(13.7)	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は外反弱く立ち上がる。胴部の張りは弱い。口縁部はヨコナデ。胴部外面はタテ方向に内面はヨコ方向にヘラナデ。	下半の器面は剥離が著しい。
11	土師器 台付甕	①南・南東 ②床直・+3	台部欠損 口・15.4 高・(15.5)	①粗砂 ②酸化 ③赤明褐	口縁部は外傾弱く直立ぎみに立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヘラケズリ。内面はヘラナデ。	火熱を受け器面の剥離・磨耗が著しい。
12	土師器 台付甕	①南・埋没土 ②床直・+6～+13・埋没土	胴部中位 高・(12.3)	①粗砂 ②酸化 ③橙	胴部は球形を呈していたと考えられ、これに基部の太い脚台部が接合していたと推定される。外面はヘラケズリ。内面はヘラナデ。	火熱を受け器面が脆弱になっている。
13	土師器 台付甕	①②竈支脚	胴部下位～脚台部 底・12.7 高・(9.0)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	脚台部は高く、外反著しく裾部に向かって延びる。脚台部外面は下半に強いヨコナデ。上半はヘラケズリ。内面はナデを施すが粘土紐の接合痕を残す。	
14	土師器 甕	①②柱穴2	底部欠損 口・19.1 高・(25.1)	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は弧状に外反、先端は丸味をおびる。胴部は丸く張る。器肉は全体に厚い。口縁部はヨコナデ。胴部外面はナナメタテ方向にヘラケズリ。上位はその上にナデを重ねる。内面はヨコ方向にヘラナデ。	
15	土師器 甕	①南西・南東・東 ②床直・+4～+9	1/2 口・(15.4) 高・(16.5)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は緩やかに外反、中位に弱い段をなす。胴部は球形を呈する。口縁部はヨコナデ。胴部外面2方向にヘラケズリ。内面はヘラナデ。	
16	土師器 甕	①南西②+4	口縁部～胴部上位 破片 口・(18.8) 高・(14.8)	①細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	頸部でくびれた口縁部は外反著しく立ち上がる。胴部は長胴で弱く張る。口縁部はヨコナデ。胴部外面はナデの上にタテあるいはヨコ方向のヘラミガキを重ねる。内面はタテ方向のナデの上に一部ヨコ方向のヘラナデが重なる。	
17	土師器 甕	①②柱穴	1/4 口・(20.8) 高・(16.7)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は扁平な球形を呈する胴部から直立ぎみに立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヨコ方向のヘラナデに一部ヘラケズリ。内面はヘラナデ。	外面下半は器面の剥離が著しい。
18	土師器 甕	①南西・南東・柱穴1・東・埋没土 ②+3～+14・埋没土	2/3 口・19.6 底・6.0 高・35.0	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部はラッパ状に外反、2箇所に分けて立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面はタテ方向に数回に分けてヘラケズリ。内面はヨコ方向にヘラナデ。	火熱を受けている。中位やや底部よりには粘土が付着。
19	土師器 甕	①②竈燃焼部	胴部下半欠損 口・(17.7) 高・(27.8)	①粗砂 ②酸化 ③明赤褐	口縁部は短く緩やかに外反して立ち上がる。胴部は成形が粗雑で中位が波打っている。口縁部はヨコナデ。胴部外面は上半にタテ方向のヘラナデ。中位以下もヘラナデを施すがヘラケズリ部分もみられる。内面はヨコ方向にヘラナデ。	火熱を受け剥離・磨耗。

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
20	土師器 甕	①北西・南・南東・南壁際・竈掘り方 ②竈掘り方・+3～+20	底部欠損2/3 口・23.3 高・(3.0)	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は大きく外反し、全体の最大径を有する。胴部はほとんど張らず底部に向かって徐々に直径を小さくする。口縁部はヨコナデ。底部外面は3回に分けてタテ方向のヘラケズリ。内面はヨコ方向のヘラナデ。	
21	土師器 甕	①②柱穴1・柱穴2・埋没土	口縁部～胴部中位破片 口・(18.1) 高・(23.3)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は短く緩やかに外反して立ち上がる。胴部は長胴。外面はタテあるいはナナメタテ方向のヘラケズリ。内面はヨコ方向のヘラナデ。	器面は剥離が著しい。
22	石製品 砥石	①②埋没土	破片 長・(5.6) 幅・(4.1) 厚・(3.1) 重・52g	石材 砥沢石	残存する2面とも使用されている。側面には刀傷状の削痕が多数認められている。	

B区13号住居 (第186図)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②埋没土	1/4 口・(10.6) 高・(5.3)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は胴部との間に強い段を有し、直立ぎみに立ち上がる。底部は深い。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヘラナデ・ヘラケズリ。	
2	須恵器 甕	①②埋没土	胴部破片	①白色鉱物粒 ②還元 ③灰白	内外面ともナデ調整が施されておりタタキ目・アテ目は不明瞭となっている。	

B区16号住居 (第189図)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 甕	①②柱穴1	口縁部～胴部上位破片 口・(12.9) 高・(4.8)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は胴部との間に段をなした後、上方に向けて立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヨコ方向のヘラケズリ。	
2	土師器 甕	①②埋没土	口縁部～胴部上位1/4 口・(20.0) 高・(6.4)	①粗砂多量 ②酸化 ③橙	口縁部は大きく外反、中位に弱い段がつく。胴部外面はヘラケズリ。	器面は磨耗が著しい。

C区3号住居 (第191図 PL120)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①北②床直	ほぼ完形 口・13.4 高・4.0	①粗砂・赤色粘土粒 ②酸化 ③橙	器形は大きく歪んでいる。器肉は厚い。口縁部は底部との間に明瞭な稜をもった後、大きく外反して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は不定方向のヘラケズリを施す。	器面は剥離が著しい。
2	土師器 杯	①北②床直	2/3 口・15.0 高・4.0	①粗砂・白色鉱物粒 ②酸化 ③にぶい橙	口径に比して浅い。器肉は厚い。口縁部は中位に明瞭な稜を有し、外傾強く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部は外面がヘラケズリ。内面が棒状工具による放射状のミガキを施す。	内面黒色処理。

## C区9号住居（第194・195図 PL120）

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①南②+17	一部欠損 口・12.4 高・4.7	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	器肉は全体に厚い。口縁部は底部との間に稜をなした後、外傾して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面はナデ。	器面に炭素付着。
2	土師器 杯	①②埋没土	1/4 口・(14.0) 高・4.0	①粗砂 ②酸化 ③灰黄	口縁部はやや短く外傾して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上半にナデ、下半にヘラケズリを施す。内面はナデ。	器面に炭素付着。
3	土師器 甕	①②竈焚口部・ 竈左袖・竈左袖 左側・竈焚口部 前・東	2/3 口・20.6 底・(9.2) 高・30.9	①粗砂 ②酸化 ③浅黄橙	口縁部は頸部で屈曲後外反して立ち上がる。胴部外面は上半をナデした後、幅の狭いミガキを施す。下半はナデの上に粗雑で弱いヘラケズリ・ヘラナデ。内面は全面にヨコ方向のヘラナデ。	
4	土師器 片口鉢	①中央・埋没土 ②+4・埋没土	ほぼ完形 口・(10.8) 底・7.8 高・8.8	①粗砂 ②酸化 ③灰白	片口部分はほとんど欠損する。口縁部は粘土紐を1段積み上げ帯状を呈する。外面には接合痕をそのまま残す。胴部外面はヘラナデ・ヘラケズリの上にタテ方向に棒状工具によるミガキを施すが現状はほとんど消えている。内面はヨコ方向のナデ。一部に指頭痕を残す。	内外面とも器面は荒れている。本住居の築造に先行する遺物と考えられる。
5	石器 凹石	①南東②+3	1/4 長・(9.4) 幅・(4.3) 厚・(3.5) 重・153g	石材 粗粒輝石安山 岩	表・裏両面に敲打痕が認められる。器面全体が磨面として利用されている。	

## C区13号住居（第198・199図 PL120）

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②竈右袖前	2/3 口・13.8 高・4.5	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は底部との間に明瞭な稜をなした後、直立ぎみに立ち上がる。中位で再度弱い稜をなす。先端は内側に沈線がめぐり、そがれるようにして尖る。口縁部はヨコナデ。底部外面が不定方向のヘラケズリ。内面には棒状工具による放射状のミガキを施す。	内外面とも炭素付着。
2	土師器 杯	①②埋没土	1/2 口・(13.4) 高・(4.0)	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は内彎して立ち上がる。先端は尖る。口縁部はヨコナデ。底部外面は上位にいたるまでヘラケズリを施す。内面はナデ。	
3	土製品 支脚	①②竈燃焼部	1/2 長・(9.9) 底・9.0	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	裾部に向かって外反、ラッパ状を呈する。外面は丁寧なナデ。内面は棒状工具による粗雑なナデ。	外面は火熱を受けている。
4	須恵器 高杯	①南②+16	脚部 底・7.1 高・(3.9)	①精選 ②還元 ③灰	右回転ロクロ成形。裾部は大きく外反、先端は器肉を薄くし、尖る。中位に3箇所円孔を配する。	外面に自然釉が付着している。
5	土師器 甕	①②竈焚口部・ 竈右袖右側	口縁部～胴部上位 口・(19.1) 高・(10.8)	①粗砂・軽石粒 ②酸化 ③橙	器肉は全体に厚い。口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面は上から下方向へのヘラケズリ・ナメ上方向へのヘラケズリが混在。内面は強い調子のヘラナデ。	
6	土師器 甕	①②竈焚口部・ 竈右袖前・竈埋 没土・埋没土	底部一部欠損 口・20.5 底・(4.3) 高・33.4	①粗砂多量 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は上半が著しく外反して立ち上がる。最大径は口縁部の先端にある。口縁部はヨコナデ。胴部外面はタテ方向に3～5回に分けてヘラケズリ。内面はヨコ方向のヘラナデ。	火熱のため外面が脆弱になっている。

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P L Na	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
7	土師器 甕	①②竈焚口部	口縁部～胴部下位 口・17.9 高・(28.7)	①粗砂多量・白色軽 石粒 ②酸化 ③橙	口縁部は緩やかに外反する。口縁部はヨコナデ。胴部外面は3回に分けてテ方向のヘラケズリ。最下位はナナメヨコ方向のヘラケズリ。内面はヨコ方向のヘラナデ。	
8	石製品 こも編石	①中央②床直	完形 長・13.9 幅・4.9 厚・4.3 重・460 g	石材 ひん岩	棒状を呈する。以下12まで同形。器面は細かく剥離する。	
9	石製品 こも編石	①竈左袖左側 ②床直	完形 長・15.0 幅・5.6 厚・5.4 重・700 g	石材 石英閃緑岩	全体が磨耗している。	
10	石製品 こも編石	①北東②+20	完形 長・13.0 幅・5.0 厚・3.9 重・420 g	石材 石英閃緑岩	片面が細かく剥離している。	
11	石製品 こも編石	①②埋没土	完形 長・15.0 幅・6.1 厚・5.1 重・840 g	石材 ひん岩	特別な特徴はない。	
12	石製品 こも編石	①②埋没土	完形 長・17.3 幅・6.5 厚・4.9 重・920 g	石材 ひん岩	器面が剥離している。	

C区14号住居 (第201～205図 PL121・122)

挿図番号 P L Na	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①東 ②+10～+12	ほぼ完形 口・13.6 高・4.5	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部の直径は大きい。口縁部は底部との間に稜をなした後内傾して立ち上がる。先端近くに弱い器形変換点を有する。須恵器杯身模倣杯。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	器面に炭素吸着著しい。
2	土師器 杯	①北東②+9	ほぼ完形 口・12.0 高・4.3	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は底部との間に明瞭な稜をなした後、内傾して立ち上がる。須恵器杯身模倣杯。口縁部はヨコナデ。底部外面は丁寧なヘラケズリ。	器面に炭素吸着。
3	土師器 杯	①②埋没土	完形 口・12.1 高・4.4	①粗砂少量 ②酸化 ③黄橙	口縁部は底部との間に稜をなした後、ナナメ上方に向かって立ち上がる。中位にも弱い稜をなす。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	器面は磨耗している。
4	土師器 杯	①②埋没土	1/2 口・(16.2) 高・(4.2)	①粗砂 ②酸化 ③浅黄橙	口縁部は外傾著しくナナメ上方に向かって立ち上がる。底部との間の他に中位2箇所、明瞭な稜を残す。先端にはシャープな平坦面が形づくられている。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	器面に炭素吸着。
5	土師器 杯	①②埋没土	1/3 口・(13.4) 高・4.7	①粗砂少量 ②酸化 ③明黄褐	口縁部は底部との間に稜をなした後外傾弱く立ち上がる。中位にも弱い段を有する。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
6	土師器 杯	①②埋没土	3/4 口・12.2 高・4.6	①粗砂・白色軽石 ②酸化 ③灰黄褐	口縁部は底部との間に稜をなした後、ナナメ上方に向かって立ち上がる。中位にも弱い稜をもつ。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	器面全体に炭素吸着。
7	土師器 杯	①北西②+16	1/4 口・(14.8) 高・(4.0)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は外傾して立ち上がるが下位に弱い器形変換点が見られる。底部のみこみは浅い。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	
8	土師器 杯	①北西②+13	1/4 口・(15.2) 高・(3.6)	①粗砂 ②酸化 ③浅黄橙	全体に器肉が厚い。口縁部は短く外傾ぎみに立ち上がる。みこみも浅い。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	内面に炭素吸着。
9	土師器 杯	①②埋没土	ほぼ完形 口・11.5 高・4.0	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	器形は大きく歪んでいる。口縁部は底部との間に弱い稜をなした後、ナナメ上方に向かって立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	器面は磨耗している。
10	土師器 杯	①②埋没土	ほぼ完形 口・12.1 高・4.2	①細砂・赤色粘土粒 ②酸化 ③橙	口縁部は底部との間に稜をなした後ナナメ上方に向かって立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	器面は磨耗している。
11	土師器 杯	①②埋没土	ほぼ完形 口・12.1 高・3.9	①細砂・赤色粘土粒 ②酸化 ③橙	口縁部は歪みが著しい。口縁部は底部との間に明瞭な稜をなした後、強く外反して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	器面は磨耗している。
12	土師器 杯	①②埋没土	完形 口・12.4 高・4.7	①粗砂少量 ②酸化 ③浅黄橙	器形は著しく歪んでいる。口縁部は底部との間に弱い稜をなした後、外傾弱くナナメ上方に向かって立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	器面の磨耗は著しい。
13	土師器 杯	①②埋没土	完形 口・12.8 高・4.8	①粗砂・赤色粘土粒 少量 ②酸化 ③橙	器形は著しく歪んでいる。口縁部は外傾弱く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	器面は磨耗している。
14	土師器 杯	①②埋没土	1/2 口・(13.1) 高・(4.6)	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は底部との間に稜をなした後外反して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	口縁部先端の内面に煤附着。
15	土師器 杯	①②埋没土	1/2 口・(13.2) 高・4.3	①粗砂・赤色粘土粒 ②酸化 ③橙	器形は著しく歪んでいる。口縁部は底部との間に弱い稜をなした後、外傾して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	器面はやや磨耗している。
16	土師器 小型甕	①②埋没土	ほぼ完形 口・9.2 高・10.8	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は短く外傾弱く直線的に立ち上がる。丸底。先端は外側がそがれ尖る。胴部外面は中位以下にナナメヨコ方向のヘラケズリを施す。内面はヨコ方向のナデを施す。	
17	土師器 甕	①南西・北東・中央 ②+8～+11	ほぼ完形 口・(15.2) 底・7.6 高・24.8	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	器形は著しく歪んでいる。口縁部は短く外反弱く立ち上がる。胴部はあまり張らず大径の底部に移行する。口縁部のヨコナデ後、ナナメタテ方向にヘラケズリを重ねる。内面はヨコ方向のヘラナデ。	内面の下半は剥離、磨耗。
18	土師器 甕	①②埋没土	口縁部～胴部下位 3/4 口・21.0 高・(29.1)	①粗砂 ②酸化 ③橙	長胴。口縁部は先端に凹線のめぐる面をなす。内面には中位の2箇所に弱い段を有している。口縁部はヨコナデ。胴部外面はタテ方向に3・4回に分けてヘラケズリを施す。内面はヨコ方向のヘラナデ。	

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
19	土師器 甕	①②埋没土	底部欠損 口・21.5 高・(34.1)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	長胴。口縁部はラッパ状に大きく外反して立ち上がる。外面は口縁部にヨコナデ後、胴部のヘラケズリを重ねている。以下胴部は3・4回に分けてヘラケズリ。内面はヨコ方向のヘラナデを施す。	外面には赤色塗彩が施されている。
20	土師器 甕	①②埋没土	口縁部～胴部下位 1/4 口・(13.2) 高・(21.4)	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は短く外反して立ち上がる。胴部は中位に最大径を有する。胴部外面は上位にタテ方向のミガキ、中位はタテ方向、下位はヨコ方向のヘラケズリ。内面はタテ方向のナデ。	
21	土師器 甕	①②埋没土	口縁部～胴部上位 口・18.4 高・(10.8)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は緩やかに外反、先端にいたり、その度合いを増す。中位に弱い稜をなす。口縁部はヨコナデ。胴部外面はナメヨコ方向のヘラケズリ。内面は丁寧なナデ。	
22	土師器 甕	①②埋没土・掘り方	胴部上位～下位 高・(15.1)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	器面は薄い。外面は乾燥がやや進んだ状態でヘラナデを施しており、一部器面が光沢をおびる部分がある。内面はヨコ方向のヘラナデを施す。	
23	土師器 甕	①②埋没土	胴部中位～底部 底・9.1 高・(14.6)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	胴部は大きく張り出す。底部は不安定。胴部外面はヘラケズリ。内面は一部にヘラケズリを施す他はナメヨコ方向のヘラナデ。	
24	土師器 鉢	①②埋没土	口縁部～胴部破片 口・(23.8) 高・(10.8)	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は中位に1箇所弱い段を有しながら、大きく外反して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヨコあるいはナメヨコ方向のヘラケズリ。内面はヨコ方向のヘラナデ。	
25	土師器 甌	①②埋没土	胴部下位～底部破片 底・(12.0) 高・(7.4)	①赤色粘土粒少量 ②酸化 ③橙	胴部外面はヨコ方向のヘラナデ後、一部にミガキを重ねる。内面もヨコ方向のナデにタテ方向のナデを重ねる。	破損後磨耗している。
26	土師器 壺	①②埋没土	頸部～底部 底・11.4 高・(43.5)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	胴部は中位に最大径を有し、そろばん玉を呈する。頸部のくびれは弱いと考えられる。外面は全体にヘラケズリを施す。中位はヨコ方向、その他はナメタテ方向。内面は中位にハケメを残す他はヨコ方向を基本としたヘラナデ。	
27	石器 磨石	①②掘り方	完形 長・11.4 幅・9.1 厚・5.3 重・660 g	石材 粗粒輝石安山岩	平面楕円形の偏平礫。片面中央に弱い磨面がみられる。	
28	石器 磨石	①②埋没土	完形 長・13.5 幅・10.4 厚・6.6 重・1,460 g	石材 粗粒輝石安山岩	平面楕円形に近い不安定な礫である。片面の側面に顕著な磨耗痕が面として広がっている。	
29	石器 蔽石	①②埋没土	完形 長・15.3 幅・8.6 高・6.1 重・1,400 g	石材 粗粒輝石安山岩	不安定な棒状を呈する。表・裏両面の中央に複数の凹みがある。両小口端部と縁辺部の一部には蔽打痕がみられる。	

## C区18号住居（第208・209図 PL123）

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①西・南・埋没土 ②床直・+9～+20・埋没土	3/4 口・13.9 高・(4.1)	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は底部との間に稜をなした後、ナナメ上方に向かって立ち上がる。中位にも弱い段をなす。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	
2	土師器 杯	①②竈燃焼部	ほぼ完形 口・12.2 高・4.3	①赤色粘土粒 ②酸化 ③にぶい橙	器形は大きく歪んでいる。口縁部は底部との間に弱い稜をなした後、外傾弱く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面はナデ。	
3	須恵器 杯	①南西②+5	ほぼ完形 口・11.8 高・4.6	①赤色粘土粒 ②還元 ③灰白	口縁部は内傾著しく低く立ち上がる。受部は大きく突出する。右回転ロクロ成形。底部下半は回転を伴うヘラケズリ。	
4	土師器 台付甕	①②埋没土	脚台部 底・11.2 高・(7.7)	①粗砂 ②酸化 ③橙	厚い器肉の胴部を受ける。ハの字状に外反する。外面は粗雑なナデ。裾部が強いナデ。内面はナデ・ヨコナデ。	
5	須恵器 甕	①②埋没土	口縁部破片 高・(2.5)	①精選 ②還元 ③灰白	先端は尖り断面三角形を呈する。直下の外面に弱い突帯がめぐる。外面に7条1単位の波状文がめぐる。	
6	須恵器 甕	①②埋没土	口縁部破片 口・(13.7) 高・(2.5)	①白色鈹物粒 ②還元 ③灰白	先端は外面が薄く肥厚する。器面は右回転ロクロ成形・調整が施されている。	
7	須恵器 長頸瓶	①②埋没土	胴部上位破片	①黒色鈹物粒 ②還元 ③灰	ロクロ調整。2本1単位で平行する沈線がめぐりその区画内に櫛状工具による刺突文を施している。	
8	須恵器 甕	①②埋没土	胴部破片	①白色鈹物粒 ②還元 ③灰白	焼き締められている。外面にタタキ目を残す。内面はアテ目にナデを重ねている。	
9	土師器 甕	①②竈右袖補強材	口縁部～胴部下位 口・18.1 高・(18.9)	①粗砂多量 ②酸化 ③にぶい黄橙	全体に器肉厚い。口縁部は外反弱く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヘラケズリの上にナデ・ミガキを重ねる。内面は丁寧なヘラナデ。	
10	須恵器 台付広口壺	①竈焚口部前・竈埋没土・掘り方北 ②竈焚口部前・竈埋没土・掘り方	3/4 口・(10.2) 底・(12.7) 高・16.2	①粗砂・黒色鈹物粒 ②還元 ③灰白	壺部は底面の器肉が著しく厚い。左回転ロクロ成形。壺の肩部には2条の弱い沈線がめぐり区画内に櫛状工具による刺突文が連続する。下位にはカキ目が施されている。脚部は中位の器形変換点に2条の沈線がめぐる。	
11	石製品 砥石	①南東壁際?・埋没土 ②+3?・埋没土	一部残存 長・12.0 幅・11.3 厚・6.9 重・690g	石材 粗粒輝石安山岩	礫を原石とする荒砥である。図、下端は欠損している。側面に大小幅の異なる使用面が残されている。いずれの研磨面とも彎曲が強い。	注記不鮮明。
12	土師器 手捏ね	①②埋没土	1/4 口・(6.0) 高・1.3	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	皿状を呈するが成形は粗雑である。内外面とも粘土塊の重なりがヒビ状に残る。	
13	土師器 甕	①②埋没土	口縁部～胴部 口・(22.8) 高・(14.5)	①粗砂・黒色鈹物粒 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は弱く外反して立ち上がる。胴部は中位に向かって徐々に張り出すか。口縁部はヨコナデ。胴部外面は棒状工具によるミガキ。内面にもミガキを施す。	18号住居には直接伴わない遺物と考えられる。
14	土師器 高杯	①西・埋没土 ②+4・埋没土	杯部1/4 口・(22.2) 高・(10.1)	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	杯部は鉢状を呈し、深みを有する。先端は外側がそげて尖る。脚部への移行は弱い段を径ている。杯部は内外面とも棒状工具によるミガキを施す。	18号住居には直接伴わない遺物と考えられる。
15	土師器 壺	①中央・南・南西・埋没土 ②床直・+5～+13・埋没土	胴部～底部1/2 底・(8.6) 高・(20.2)	①粗砂少量・黒色鈹物粒 ②酸化 ③にぶい黄橙	胴部は球形を呈する。器面の剥離が著しく、調整の観察は困難である。外面はタテ方向に棒状工具によるミガキが充填されていたと考えられる。	18号住居には直接伴わない遺物と考えられる。

## C区38号住居 (第210図 PL123)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 甕	①竈焚口部前・ 東・埋没土 ②竈焚口前・床 直・埋没土	胴部下位～底部 1/2 底・(6.4) 高・(7.8)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	外面はタテ方向のヘラケズリ。内面は ナナメ方向のヘラナデ。	接合4点は 竈周辺で出 土。

## C区42号住居 (第212図 PL123)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 台付甕	①南壁際②+7	ほぼ完形 口・13.5 底・10.9 高・17.5	①礫・粗砂多量 ②酸化 ③橙	器肉は全体が厚い。器形は大きく歪ん でいる。口縁部は胴部との間に弱い段 をなした後、外反弱く立ち上がる。脚 台部はハの字状に外反して裾部にいた る。胴部外面はヘラケズリ、一部にナ デ。内面はヨコナデ・ナデ。	

## C区44号住居 (第215図 PL123)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①南 ②+9・埋没土	1/3 口・(13.8) 高・(4.3)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③浅黄橙	口縁部は底部との間に弱い陵をなした 後、外傾して立ち上がる。中位も弱い 稜を有する。口縁部はヨコナデ。底部 外面はヘラケズリ。	
2	土師器 杯	①南・埋没土 ②+7	1/2 口・(15.2) 高・4.2	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部はナナメ上方に向かって外傾弱 く立ち上がる。底部は浅い。口縁部は ヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	
3	土師器 鉢	①北西②+8	破片 高・(4.6)	①粗砂 ②酸化 ③褐灰	大型品である。口縁部は底部との間に 稜をなした後内傾して立ち上がったも のと考えられる。底部外面はヘラケズ リ。内面はヨコナデ。	口縁部欠損 後も使用さ れた可能性 が高い。器面 に炭素吸着。
4	土師器 甕	①南②床直	胴部2/3 高・(30.2)	①粗砂	胴部は中位に向かって緩やかに張る。 外面は上位から中位にかけてタテ方向 にヘラナデ。下位はナナメヨコ・ヨコ 方向にヘラナデ、一部に弱いタッチの ヘラケズリ。内面はヘラナデ、一部に 棒状工具によるミガキ。	
5	土師器 甕	①北東 ②+4～+5	2/3 口・(22.6) 底・(3.6) 高・40.0	①粗砂・白色軽石 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は大きく外反する。胴部はほと んど張らない。口縁部はヨコナデ。胴 部外面は4・5回に分けてタテ、ある いはナナメ方向のヘラケズリ。内面は ヘラナデ。	
6	石器 磨石	①西②床直	完形 長・13.7 幅・7.3 厚・4.3 重・717g	石材 石英閃緑岩	棒状の礫。表・裏両面の広い範囲が磨 面になっている。	
7	石器 磨石	①南壁際・埋没 土 ②+3・埋没土	完形 長・12.0 幅・8.3 厚・4.2 重・477g	石材 粗粒輝石安山 岩	平面楕円形の扁平な礫。表・裏両面の 中央部分を磨面としている。	
8	鉄製品 鉄滓	①②埋没土	ほぼ完形 長・4.4 幅・4.6 厚・1.6 重・54.21g		円盤状を呈する。器面には凹凸が多数 存在し、砂粒が付着している。	

## C区55号住居（第218～220図 PL124）

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①東壁際・南東 壁際・埋没土 ②床直・+6・ 埋没土	1/2 口・13.9 高・4.5	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は底部との間に稜をなした後弱く外反して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面はヨコ方向のナデ。	底部外面の中央にヘラ工具による線刻が一条みられる。
2	土師器 杯	①北東・北東壁 際 ②+4～+11	ほぼ完形 口・14.2 高・4.1	①粗砂・白色軽石粒 ②酸化 ③灰白	全体に器肉が厚い。口縁部は底部との間に弱い稜をなした後、外傾ぎみに立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面はヨコ方向のナデ。	内面炭素吸着。黒色処理。口縁部先端をはじめ器面全体がやや磨耗する。
3	土師器 杯	①北東・柱穴1 ・東・貯蔵穴2 ②貯蔵穴2・柱 穴1・床直・+ 5	ほぼ完形 口・16.2 高・3.2	①粗砂 ②酸化 ③灰黄	口縁部はみこみの浅い丸底の底部との間に明瞭な稜をなした後ナメヨコ方向に立ち上がる。中位に稜を有する。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	内外面の一部に炭素吸着。黒色処理を施したものが二次火熱を受けたか。
4	土師器 杯	①東②床直	破片 口・(13.7) 高・(4.7)	①粗砂 ②酸化 ③浅黄	口縁部は外傾弱く立ち上がる。底部との間の稜は不明瞭である。底部は下半に弱いヘラケズリが施されるため中位に変換点がある。口縁部は上位にヨコナデ。中位以下は砂粒の動きが大きく、ヘラケズリを加えている可能性もある。底部内面には棒状工具によるミガキを施す。	内面に炭素吸着。黒色処理を施したと考えられる。
5	土師器 杯	①北東壁際 ②+5	1/2 口・(14.4) 高・(4.0)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい褐	全体に器肉は厚く、鈍重な形状である。口縁部は底部との間に極弱い稜をなした後外傾して立ち上がる。内外面とも断面上で小さな出入りがみられる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	内面炭素吸着。黒色処理を施したと考えられる。器面は荒れている。
6	土師器 短頸壺	①②埋没土	口縁部～胴部上位 口・(11.7) 高・(4.6)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は直立ぎみに上方に向けて立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面はナデの上に一部棒状工具によるミガキがみられる。内面はナデ。	
7	土師器 短頸壺	①②貯蔵穴2周 辺・東・埋没土	1/2 口・(9.7) 高・11.2	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は内傾ぎみにナメ上方に延び、胴部との境も不明瞭である。口縁部はヨコナデ。胴部外面は3回に分けヘラケズリを施したか。内面は幅の狭いヘラナデを施す。	外面の上半は器面が荒れている。
8	土師器 短頸壺	①②柱穴1周 辺	1/2 口・(10.3) 高・12.0	①粗砂少量 ②酸化 ③浅黄橙	口縁部はやや内傾ぎみに上方に立ち上がる。先端は尖る。中位に弱い稜をなす。口縁部はヨコナデ。胴部は外面がヘラケズリ、内面がヘラナデと思われる。	胎土は他の資料と大きく異なる。器面は磨耗が著しい。
9	土師器 鉢?	①②攪乱	破片 口・(10.0) 底・(6.0) 高・(4.7)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③黄灰	口縁部は弧状に立ち上がる。底部は平底と考えられる。内外面ともナデ・ヘラナデを施す。	
10	土師器 高杯	①②竈2左袖 前・竈1焚口 部・埋没土	杯部～脚部上位 1/3 口・(15.5) 高・(7.9)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	杯部は全体に浅く、中位に稜をなした後口縁部は外反してナメ上方に延びる。口縁部はヨコナデ。杯部底部から脚部にかけての外面はナデの上にヘラケズリ。杯部内面下半には棒状工具によるミガキが施される。脚部内面は荒いナデ。	

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
11	土師器 有孔鉢	①②攪乱	1/3 口・(26.3) 高・15.4	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部から胴部はナナメ上方に向けて大きく開く。底部は小径の平底で、中央に長径2.5cmの長円形の孔を穿つ。成形が粗雑で外面の粘土紐の接合痕を消しきれていない。胴部外面はタテ・ナナメタテ方向のヘラケズリ。内面の上半は丁寧なナデ。下位はヘラケズリ。	
12	土師器 甕	①②埋没土	口縁部～胴部上位 口・(14.9) 高・(8.0)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は直立ぎみに上方に向かうか。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヘラナデの上に一部ヨコ方向の棒状工具によるミガキがみられる。内面はヨコ方向のナデ。	
13	土師器 甕	①②竈2焼部	口縁部～胴部上位 口・(17.0) 高・(9.5)	①粗砂多量 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は胴部から屈曲、弱く外傾して立ち上がる。外面は口縁部をヨコナデ後ナナメタテ方向のヘラケズリ。内面はヨコ方向のヘラナデ。	
14	土師器 甕	①北東隅・柱穴1・北西壁際・埋没土 ②柱穴1・床直・+7・埋没土	1/2 口・(21.6) 底・9.1 高・22.8	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	丸胴を呈する。胴部外面はタテ方向に3回ほどに分けて弱いタッチのヘラケズリを施す。内面はヨコ方向のヘラナデ。	器形は歪んでおり、径は楕円形状を呈する。
15	土師器 甕	①竈1焼部・北東隅・東・貯蔵穴2 ②貯蔵穴2・竈1焼部・床直・+3～+6	口縁部・胴部1/2 口・19.9 底・8.0 高・(25.9)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は外反弱く立ち上がる。丸胴。口縁部はヨコナデ、胴部は最上位にナデ。以下は胴部下位がタテ方向、最下位がヨコ方向のヘラケズリ。内面はヨコ方向のヘラナデ。最下位にのみヘラケズリを施す。	2片から図上復元。
16	土師器 甕	①②攪乱	胴部1/3 高・(20.3)	①粗砂多量 ②酸化 ③にぶい橙	胴部外面は3回に分けてタテあるいはナナメ方向にヘラケズリを施した様子がみられる。内面は上半がタテ方向のヘラナデ、下半もヘラナデを施すがその方向を異にしている。	
17	土師器 甕	①②貯蔵穴1	ほぼ完形 口・19.5 底・8.0 高・33.7	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は外反の度合いが弱く、頸部にしまりが無い。胴部は上位に最大径を有するが特に張らない。底径が大きい。口縁部はヨコナデ。胴部外面はタテ方向のヘラケズリ。内面はヨコ方向のナデ。	内外面の剥離状況から竈にかけられていた状態が良く理解できる。底部外面には木葉痕を残す。
18	土師器 甕	①北東隅②+5	口縁部～胴部上位 口・(20.0) 高・(6.6)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は緩やかな弧を描き立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヨコ方向のヘラケズリ。内面はヨコ方向のヘラナデ。	
19	土師器 甕	①②柱穴1	胴部中位～底部 底・(9.6) 高・(24.6)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい褐	外面はタテ方向にヘラケズリ。最下位にはヨコ方向のヘラケズリを施し、面をつくっている。内面は丁寧なヘラナデ。	器面は剥離が著しい。
20	石製品 砥石	①②貯蔵穴2・埋没土	1/2 長・(9.5) 幅・(10.4) 厚・(10.4) 重・819g	石材 粗粒輝石安山岩	自然礫を利用した荒砥石である。図、表面に幅4.5cmの研磨面が形成されている。刀傷状の擦痕も認められる。	

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
21	石製品 紡錘車	①東壁際②+7	完形 上面径・3.4 下面径・1.9 厚・1.9 重・29.1g	石材 蛇紋岩	厚さを有する。側面は彎曲している。下面は弱く凸面状を呈する。側面にはタテ方向に面取り状の工具痕が連続する。上面には軸孔から放射状に細かな擦痕がみられる。下面には細かな敲打痕状の凹凸がみられる。軸孔の直径は0.8cmである。	

## C区62号住居 (第222図 PL124)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②竈焚口部前	3/4 口・14.0 高・4.4	①粗砂少量 ②酸化 ③明黄褐	口縁部は底部との間に稜をなした後外傾して立ち上がり、中位に弱い陵を有する。内面の先端直下には沈線がめぐる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	内外面の多くに炭素吸着。

## C区65号住居 (第226・227図 PL124・125)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②埋没土	3/4 口・(14.2) 高・3.8	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は浅い底部との間に稜をなした後ナナメ上方に向けて立ち上がる。中位に2箇所稜を有する。底部外面はヘラケズリ。	底部内面は使用によるためか磨耗著しい。
2	土師器 杯	①北西②+3	完形 口・13.4 高・4.5	①粗砂・軽石粒 ②酸化 ③にぶい褐	口縁部は底部との間に明瞭な稜をなした後外傾弱く立ち上がる。中位にわずかな器形変換点がある。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面はナデ。	器面に炭素吸着。
3	土師器 杯	①東壁側 ②床直	1/2 口・(13.6) 高・4.2	①粗砂 ②酸化 ③にぶい褐	口縁部は底部との間に稜をなした後外傾弱く立ち上がる。中位に稜を有する。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面はナデ。	
4	土師器 杯	①東・埋没土 ②+10・埋没土	2/3 口・13.8 高・4.3	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は底部との間に稜をなした後外傾して立ち上がる。中位にも明瞭な稜を有する。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面には棒状工具によるミガキが放射状に施される。	器面に炭素吸着。
5	土師器 甕	①②埋没土	口縁部破片 口・(20.6) 高・(9.0)	①粗砂・細砂・赤色 粘土粒 ②酸化 ③黄橙	口縁部は球形の胴部から外反して立ち上がる。中位にはヨコナデを施した事に起因する弱い陵がある。胴部外面はナナメヨコ方向のヘラケズリ。内面はヨコ方向のヘラナデ。	
6	須恵器 甕	①②埋没土	口縁部～胴部上位 口・(19.4) 高・(8.9)	①粗砂・礫 ②還元 ③浅黄	口縁部の先端の断面形は内面、および外面の端部直下に小さな突起を有する形状である。先端面には波状文が施されたか。また、中位やや先端寄りに沈線2本をめぐらせ、上下2段に区画、上段には波状文を3段、下段には1段配している。胴部は外面にタタキ目を、内面には同心円状のアテ目がみられる。	口縁部内面に工具が当たりヘラ刻み状を呈する。
7	土製品 支脚	①竈左袖手前 ②床直	裾部の大半が欠損 高・9.7 幅・6.8	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	上端の直径が3.6cmであるのに対し、下端の直径は7.0cmが推定され、全体の形状は裁頭円錐形を呈すると考えられる。上端中央には直径1.5×2.0cmの小孔が貫通している。外面は丁寧なナデ調整が施されている。内面には器肉を強く絞り込んだ痕跡が残されている。	

## A区6号住居（第229・230図 PL125）

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①北東②+7	完形 口・11.3 高・4.0	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は底部から内彎、短く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面はヨコナデ・ナデ。	
2	土師器 杯	①②竈左袖・竈 焚口部	4/5 口・11.2 高・3.3	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は底部との間にわずかな稜をなした後直立ぎみに立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上位を除く大半をヘラケズリ。内面はヨコナデ・ナデ。	
3	土師器 杯	①北東・東・竈 左袖・埋没土 ②竈左袖・床直 ・埋没土	2/3 口・10.9 高・3.3	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい赤褐	口縁部は直立ぎみに立ち上がり、先端のみ弱く外反する。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面はヨコナデ・ナデ。	
4	土師器 杯	①南東壁際 ②+4	2/3 口・11.8 高・3.1	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は直立ぎみに短く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面はヨコナデ・ナデ。	
5	土師器 杯	①北東・東・竈 燃焼部②竈燃焼 部・床直	1/4 口・(14.0) 高・(6.3)	①細砂 ②酸化 ③明赤褐	口縁部は内彎ぎみに短く立ち上がる。底部は外面全面をヘラケズリ。内面はヨコナデ・ナデ。	
6	土師器 甕	①南東②床直	ほぼ完形 口・14.7 高・17.5	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は屈曲して立ち上がる。胴部は球形で丸底の底部に続く。口縁部はヨコナデ。胴部・底部外面はヘラケズリ。内面はヘラナデ。	
7	土師器 甕	①②竈燃焼部・ 竈焚口部	1/2 口・(20.1) 底・(8.2) 高・14.0	①粗砂 ②酸化 ③灰黄褐	器高は低く鉢状を呈する。胴部は外傾弱く立ち上がり口縁部にいたり屈曲、その後外反する。口縁部はヨコナデ。胴部外面はナナメタテ方向のヘラケズリに一部ヘラナデを重ねる。内面はタテ方向のハケメにナデを重ねる。最下位にはヘラケズリを施し、面をつくる。	
8	土師器 甕	①北東・東 ②床直	胴部下半～底部 高・(15.4)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	胴部は丸く張る。底部は丸底。外面はナナメあるいはヨコ方向のヘラケズリ。内面は一部接合部分にヘラケズリがみられる他はヨコあるいはナナメ方向のヘラナデが施される。	
9	土師器 甕	①②竈燃焼部・ 竈焚口部・竈右 袖前	口縁部～胴部中位 口・21.0 高・(17.2)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部はラップ状に大きく外反して立ち上がる。胴部は長胴。口縁部はヨコナデ。胴部外面はタテ方向のヘラケズリに一部ナデを重ねる。内面はヨコ方向のヘラナデ。	外面の一部 に煤附着。
10	土師器 甕	①南東隅・南 東・埋没土 ②床直・埋没土	口縁部～胴部中位 口・26.6 高・(21.1)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は大きく外反して立ち上がり、先端にいたりわずかに受け口状にかえる。口縁部はヨコナデ。胴部外面はナナメ方向のヘラケズリにタテ方向のヘラナデを重ねる。内面はナナメヨコ方向にヘラナデを施す。	
11	土師器 甕	①②竈焚口部・ 竈燃焼部・竈左 袖・天井補強材	胴部一部欠損 口・22.0 底・(4.3) 高・43.3	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は大きく外反しラップ状に開く。胴部は筒状で張らない。口縁部はヨコナデ。胴部外面はタテ方向のヘラケズリ。内面はヨコ方向のヘラナデ。	
12	土師器 甕	①②竈燃焼部・ 竈右袖	口縁部一部欠損 口・21.1 底・4.3 高・38.0	①粗砂 ②酸化 ③にぶい褐	口縁部は大きく外反して立ち上がる。胴部は上位に最大径を有しその後、狭小な底部に向かって直径を除々に小さくする。口縁部はヨコナデ。胴部外面はタテ方向のヘラケズリ。	

## B区12号住居 (第231図)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②埋没土	破片 口・(11.7) 高・(2.0)	①細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は底部から彎曲、短く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は下半にヘラケズリを施すと考えられる。	

## C区7号住居 (第235図 PL126)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②埋没土	完形 口・10.6 高・3.1	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は強く内彎して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上位に一部成形時の面を残し、他はヘラケズリ。内面はヨコナデ。	火熱を受けている。
2	土師器 杯	①南・埋没土 ②+4・埋没土	2/3 口・10.8 高・3.4	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は短く、強く内彎して立ち上がる。底部下位のみヘラケズリを施し、広い範囲に無調整の面を残す。	
3	土師器 杯	①西②+18	2/3 口・11.6 高・3.5	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は短く内彎して立ち上がる。底部外面は口縁部近くまでをヘラケズリ。内面はナデ。	
4	土師器 杯	①②埋没土	1/3 口・(13.0) 高・4.1	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は弱く内彎して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部は口縁部との間にわずかに成形時の面を残し以下はヘラケズリ。内面はナデ。	
5	土師器 杯	①②埋没土	1/2 口・(12.4) 高・4.1	①粗砂・赤色粘土粒 ②酸化 ③橙	口縁部は弱く内彎して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部はヘラケズリにより充填される。内面はナデ。	
6	土師器 杯	①②埋没土	口縁部破片 口・(17.2) 高・(2.8)	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は底部との間に弱い稜をなした後、大きく外反。皿状を呈すると考えられている。	
7	土師器 小型壺?	①掘り方東 ②掘り方	完形 口・7.0 高・4.6	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は底部との間に弱い稜をなした後、内傾ぎみに立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面は丁寧なナデ。	
8	土師器 甕	①南東・中央・ 竈燃焼部・埋没土 ②竈燃焼部・床直・+6~+16・ 埋没土	口縁部~胴部下位 1/2 口・(16.8) 高・(22.5)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は短く外反して立ち上がる。胴部は長胴で筒状、底部に向けて徐々にその直径を狭める。胴部は成形が粗雑で、粘土紐の接合痕を処々に残す。胴部外面はタテ方向の粗雑なヘラケズリ。内面はヨコ・ナナメヨコ方向のヘラナデ。	
9	石製品 砥石	①②埋没土	1/2? 長・(9.0) 幅・(7.4) 厚・(3.6) 重・249g	石材 粗粒輝石安山岩	平面は表・裏両面とも研磨面として使用されている。図示した表面にはこれに加えタテ方向に平行する幅広の刀傷状の痕跡がみられる。また、右側面にも幅2cmほどの磨面が認められる。	

## C区23号住居 (第238・239図 PL126)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②竈燃焼部	1/4 口・(16.2) 高・4.5	①粗砂 ②酸化 ③橙	皿状を呈す。口縁部は底部との間に弱い稜を有した後大きく外反して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面はナデ。	
2	土師器 杯	①②埋没土	1/2 口・(15.0) 高・5.0	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は短く上方に向かって立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は最上位を除いてヘラケズリ。内面はナデ。	

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P LNo.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
3	土師器 杯	①②竈焚口部・ 竈燃焼部	1/2 口・13.8 高・4.2	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は内彎して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上位を除いてヘラケズリ、内面はナデ。	器面はやや磨耗している。
4	土師器 杯	①中央・埋没土 ②+15・埋没土	1/4 口・(14.7) 高・(4.5)	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は底部から彎曲、上方に向けて立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	
5	土師器 杯	①南②床直	1/3 口・(11.6) 高・3.9	①赤色粘土粒 ②酸化 ③橙	口縁部は底部から彎曲、ナナメ上方に向けて立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	内面は磨耗が著しい。
6	土師器 甕	①西・竈燃焼部・ 竈焚口部・埋没土 ②竈燃焼部・竈 焚口部・床直・ 埋没土	上半 口・23.8 高・(22.0)	①粗砂・白色軽石粒 ②酸化 ③橙	口縁部はラップ状に大きく外反、最大径を有する。口縁部はヨコナデ。胴部外面はタテ方向のヘラケズリ。内面はヨコ方向のヘラナデ。	
7	土師器 甕	①②竈焚口部・ 竈埋没土・埋没土	上半1/3 口・(21.6) 高・(17.3)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は胴部から屈曲、くの字状に外反して立ち上がる。胴部外面は上位がナナメヨコ方向、中位がナナメタテ方向のヘラケズリ。内面はナナメヨコ方向のヘラナデ。	内面は磨耗が著しい。
8	石製品 砥石	①北東②床直	ほぼ完形 長・5.0 幅・6.8 厚・2.7 重・104 g	石材 砥沢石	原形は表裏の使用面が幅広くあったと考えられるが端部欠損後も継続して使用している。裏面には一部分のみ使用する様子がみられる。	
9	石器 凹石	①②埋没土	完形 長・12.7 幅・5.4 厚・5.3 重・690 g	石材 粗粒輝石安山岩	平面楕円形の礫で横断面はやや厚みを有する。右側縁の中央部分に横断面と同方向に紐状のくりこみが2条みられる。左側縁部にも同様の凹み部がみられる。	
10	石器 敲石	①②竈埋没土	完形 長・12.5 幅・6.9 厚・4.9 重・493 g	石材 粗粒輝石安山岩	平面楕円形で棒状の礫。図、右側縁部中央にくりこみ状の剥離が集中する。	

C区41号住居 (第241図 PL126)

挿図番号 P LNo.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①南・埋没土 ②+19・埋没土	1/2 口・(14.8) 高・(6.8)	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は底部から内彎して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は最上位を除いてヘラケズリ。内面はナデ。	器形は歪みが著しい。
2	土師器 杯	①西②+11	完形 口・10.8 高・3.0	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は底部から屈曲するように立ち上がり内傾ぎみに延びる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面はナデ。	
3	土師器 杯	①②埋没土	1/2 口・11.8 高・(3.6)	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は底部から屈曲するように立ち上がり短く内傾ぎみに延びる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面はナデ。	器面は磨耗が著しい。
4	土師器 杯	①中央②床直	1/3 口・(13.9) 高・4.1	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は底部から内彎ぎみに短く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は最上位を除いてヘラケズリを施す。内面はナデ。	
5	土師器 杯	①中央②+11	1/3 口・(13.3) 高・4.1	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は屈曲するように内彎強く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上位を除いてヘラケズリ。	器面は磨耗が著しい。

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
6	土師器 甕	①②埋没土	口縁部破片 口・(19.0) 高・(6.4)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部はくの字状に外反して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はナナメヨコ方向のヘラケズリ。内面はヨコナデ。	器面はやや磨耗している。

## C区63号住居 (第243図 PL127)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②掘り方・攪乱	1/4 口・(12.5) 高・(3.1)	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は緩やかに内彎して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上位を除いてヘラケズリ。内面はナデ。	
2	土師器 杯	①②貯蔵穴埋没土・竈燃焼部・甕埋没土	1/3 口・15.0 高・(4.5)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は底部との間に弱い陵を有した後短く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は深みがあり、外面の下半のみヘラケズリを施す。内面はナデ。	
3	土師器 甕	①②竈燃焼部・甕埋没土	底部破片 底・4.2 高・(3.6)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい赤褐	外面はヘラケズリ。内面はヘラナデ。	
4	須恵器 甕	①②攪乱	口縁部破片 高・(6.9)	①黒色鉱物粒発泡 ②還元 ③灰	外反して立ち上がる。外面の先端附近に断面三角形の突帯がめぐる。	内面に自然釉附着。

## C区71号住居 (第245図 PL127)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①北②+18	1/2 口・10.1 高・3.2	①粗砂 ②酸化 ③黄橙	口縁部は短く内彎して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上位を除いてヘラケズリ。	器面はやや磨耗している。
2	土師器 杯	①②ピット2・掘り方	3/4 口・11.1 高・3.7	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は底部から屈曲、外傾強く立ち上がる。口縁部は上半のみヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	器面の剥離が著しい。C区72号住居に帰属か。
3	土師器 杯	①②埋没土	ほぼ完形 口・11.9 高・3.5	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は外傾弱くナナメ上方に向かって立ち上がる。中位に弱い変換点がある。口縁部は上半のみをヨコナデ。	C区72号住居に帰属か。
4	土師器 杯	①北西隅 ②+17	1/2 口・12.3 高・4.4	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は丸底の底部から内彎強く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はほぼ全面にヘラケズリ。内面は丁寧なヨコナデ・ナデ。	
5	土師器 小型甕	①②埋没土	1/4 口・(13.0) 高・(9.1)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部はくの字状に屈曲して立ち上がる。口縁部をヨコナデ後、胴部外面にナナメタテ方向のヘラケズリ。内面はヘラナデ。	
6	土師器 甕	①中央・貯蔵穴埋没土・埋没土 ②貯蔵穴埋没土・床直・埋没土	口縁部～胴部中位 口・(22.1) 高・(17.6)	①粗砂・赤色粘土 粒・軽石 ②酸化 ③浅黄橙	口縁部はラッパ状に外反して立ち上がり先端に最大径を有する。口縁部をヨコナデ後胴部外面にタテ方向のヘラケズリを施す。胴部内面はヨコ方向のナデ。	
7	須恵器 甕	①中央・埋没土 ②床直・埋没土	胴部下半破片 高・(12.0)	①礫大のチャート多量 ②還元・やや軟質 ③にぶい黄橙	外面はヨコ方向のカキ目が、内面には同心円状のアテ目が充填されている。	外面は磨耗・剥離が著しい。
8	石器 敲石	①中央②+18	完形 長・14.4 幅・6.6 厚・4.7 重・517g	石材 粗粒輝石安山岩	棒状礫。右側縁部に2箇所、左側縁部に1箇所、打ち欠くように荒い敲打痕がみられる。器面には部分的に磨耗がみられることから一部分が磨石として併用されたものとする。	

## A区23号溝 (第246図 PL127)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②埋没土	1/2 口・(9.8) 高・5.7	①粗砂 ②酸化 ③褐灰	須恵器杯身を模倣した形状。口縁部は底部との間に強い稜を有した後内傾ぎみに長く立ち上がる。中位に弱い段を有する。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面はヨコナデ。	

## 古墳時代後期の遺構外出土遺物 (第248図 PL127)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①C区24号住居 ②埋没土	1/2 口・(15.0) 高・(4.2)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は底部との間に稜をもった後外傾弱く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリと考えられる。	器面は剥離が著しい。
2	土師器 杯	①②B区表土	口縁部1/3 口・(20.5) 高・(5.0)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	須恵器杯身を模倣した形状。口縁部は内傾ぎみに立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	炭素吸着。黒色処理を施したか。
3	土師器 広口壺	①B区45D-14 ②埋没土	1/2 高・(10.4)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は胴部から直立ぎみに立ち上がり、先端は欠損する。胴部は扁平な球形を呈する。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヨコ方向のヘラケズリ。内面はヘラナデ。	
4	須恵器 甕	①②B区表土	頸部1/2 高・(5.4)	①白色鉱物粒 ②還元 ③灰	頸部下位には櫛描波状文がめぐる。胴部上位には2条の沈線がめぐり、この間に注口が穿孔されていると考えられる。	
5	須恵器 壺	①②C区表土	胴部破片	①細砂少量 ②還元 ③灰	外面はタタキ目後ヨコ方向にめぐる沈線による区画が設けられ、上段には櫛状工具による、下段には沈線による波状文が施されている。	
6	須恵器 甕	①A区44I-10 ②埋没土	口縁部破片 高・(6.8)	①白色鉱物粒 ②還元・やや不良 ③灰	先端には平坦面をなし、外縁は断面三角形に小さく突出する。その直下にも弱い突帯がめぐる。文様は6本1単位の波状文2段が認められる。	
7	埴輪 円筒	①C区低地部 ②浅間A軽石下	基底部破片 高・(6.9)	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	外面にはタテ方向のハケメ。内面にはタテ方向のナデが施される。	器面は磨耗が著しい。

## (4) 奈良・平安時代の遺構出土遺物

## A区2号住居 (第251図 PL127)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②竈焚口部・埋没土	1/2 口・(13.0) 高・3.2	①粗砂 ②酸化 ③明赤褐	口縁部は底部から屈曲、外傾弱く直線的に立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	底部外面には焼成前に、斜め格子目状に線刻が施されている。
2	土師器 杯	①②埋没土	破片 口・(15.4) 高・(2.9)	①細砂 ②酸化 ③にぶい赤褐	口縁部は底部から彎曲して立ち上がり、上方に向かって延びる。口縁部はヨコナデ。底部外面は下半にヘラケズリ。内面は丁寧なヨコナデ・ナデ。	
3	土師器 杯	①②埋没土	破片 口・(14.4) 高・(4.2)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は底部との間に弱い稜をなした後、直立ぎみに短く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上位を除きヘラケズリ。内面はヨコナデ・ナデ。	

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
4	土師器 甕	①②埋没土	口縁部～胴部上位 破片 口・(23.5) 高・(7.3)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は大きく外反して立ち上がる。 口縁部はヨコナデ。胴部外面はナナメ ヨコ方向にヘラケズリ。内面はヘラナ デ。	

## A区3号住居 (第253図 PL127)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①南東②+9	破片 口・(16.0) 高・(4.0)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は底部から彎曲ぎみに立ち上がる。 先端にいたりつままれたように小さく 外反する。口縁部はヨコナデ。底 部外面は下半にヘラケズリ。	器面はやや 荒れている。
2	土師器 杯	①②貯蔵穴埋没 土	2/3 口・15.2 高・3.9	①細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部底部から短く直線的に立ち上がる。 底部下半にヘラケズリ。上半は口 縁部との間に成形時の面を残す。	

## A区7号住居 (第256・257図 PL127・128)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①南東②床直	完形 口・15.3 高・4.7	①粗砂・細砂 ②酸化 ③明赤褐	口縁部は直立ぎみに立ち上がる。口縁 部はヨコナデ。底部外面は上位のわず かな部分を除きヘラケズリ。	内外面の一 部に煤付着。 器面はやや 磨耗。
2	土師器 杯	①②南東周溝内	1/2 口・14.1 高・3.2	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は外傾弱く上方に向かって立ち 上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面 は上位の一部を除いてヘラケズリ。内 面は下位までヨコナデ。以下ナデ。	
3	土師器 杯	①東・南東壁際 ②床直・+15	1/2 口・(13.5) 高・3.2	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は外傾弱く上方に向けて立ち上 がる。底部は口縁部高に比較して浅い。 口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケ ズリ。内面はヨコナデ・ナデ。	
4	土師器 杯	①西②+15	1/4 口・(11.0) 高・(3.5)	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は底部から彎曲して立ち上がり 上方に向かって延びる。口縁部はヨコ ナデ。底部外面はヘラケズリ。	器面はやや 磨耗してい る。
5	土師器 杯	①②竈掘り方燃 焼部	1/4 口・(12.4) 高・(3.5)	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は内彎して立ち上がる。口縁部 はヨコナデ。底部外面は下半にのみヘ ラケズリ。	器面は剥 離・磨耗が 著しい。
6	土師器 杯	①②埋没土	1/4 口・(13.6) 高・(2.9)	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい褐	口縁部はナナメ上方に向かって立ち上 がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は 上位を除いてヘラケズリ。内面はヨコ ナデ・ナデ。	
7	土師器 杯	①②埋没土	4/5 口・11.3 高・3.5	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は底部との間に明瞭な稜を有し た後屈曲、外傾ぎみに短く立ち上がる。 口縁部はヨコナデ。底部外面は上位を 除いてヘラケズリ。	器面は剥離。
8	土師器 杯	①②埋没土	1/4 口・(14.7) 高・(3.5)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は外傾著しくナナメヨコ方向に 向けて立ち上がる。底部も浅く皿状を 呈する。口縁部はヨコナデ。底部外面 はヘラケズリ。	
9	土師器 杯	①②埋没土	1/4 口・(13.9) 高・3.3	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい褐	口縁部は外反ぎみにナナメヨコ方向に 延びる。底部も浅く皿状を呈する。口 縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	
10	須恵器 蓋	①東②床直	1/2 口・11.2 摘径・4.3 高・2.8	①白色鉾物粒・わず かな黒色鉾物粒発砲 ②還元 ③灰	口径は小さい。摘部はボタン状を呈し、 中央が凹む。内面先端よりに弱いかえり がつく。右回転クロコ成形。	内面は著し く磨耗、平 滑になって いる。二次 利用された か。

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
11	須恵器 蓋	①②埋没土	摘部欠損1/4 口・(16.0) 高・(2.1)	①白色鉾物粒 ②還元・やや軟質 ③黄灰	内面・先端寄りにかえりがつく。左回転ロクロ成形。	内面は著しく磨耗。二次利用されたか。
12	須恵器 蓋	①南西②+12	口縁部欠損 摘径・4.8 高・(2.4)	①黒色鉾物粒発砲 ②還元 ③灰白	摘はボタン状を呈し中央が大きく凹んでいる。内面、先端寄りに弱いかえりがつく。右回転ロクロ成形。天井部上半には回転を伴うヘラケズリ。摘周縁部にはナデ調整。	端部は意図的に打ち叩かれた可能性が高い。皿状に二次利用されたか。
13	須恵器 杯	①②埋没土	1/4 口・(12.3) 底・(7.8) 高・3.2	①白色・黒色鉾物粒 少量 ②還元 ③灰	口縁部は弱く外反ぎみに立ち上がる。右回転ロクロ成形。口縁部下位は回転を伴うヘラケズリ。底部はヘラ調整。口縁部を中心にヘラケズリ調整。	
14	須恵器 杯	①②埋没土	口縁部下半～底部 破片1/4 底・(8.0) 高・(2.1)	①細砂・黒色鉾物粒 ②還元・やや軟質 ③灰白	右回転ロクロ成形。口縁部最下位に回転を伴うヘラケズリ。底部は回転ヘラケズリ調整。	
15	須恵器 高台付杯	①②埋没土	口縁部下半～底部 破片 口・(14.3) 底・(10.8) 高・(3.3)	①白色・黒色鉾物粒 ②還元 ③青灰	高台部は低く、外縁が接地する。左回転ロクロ成形と考えられる。底部は回転ヘラ切り離し後高台部を貼り付け。周縁部にナデ調整を施す。	
16	土師器 甕	①北西・埋没土 ②+3・埋没土	口縁部～胴部上位 1/4 口・(25.1) 高・8.3	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は大きく外反して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヨコ方向にヘラケズリ。内面はヨコ方向にヘラナデ。	
17	須恵器 甕	①南西・西・竈 焚口部前 ②竈焚口部前・ +7～+9	頸部～胴部中位 高・(17.5)	①白色鉾物粒 ②還元 ③灰	左回転のロクロを使用している。外面は口縁部にナデ調整、胴部上半にカキ目、下半に平行タタキ目がみられる。胴部内面の下半はアテ目をナデ消している。	破片2点から図上復元。外面の一部に自然軸が付着する。
18	鉄製品 鈍	①南②床直	ほぼ完形 全長・15.1 刃部長・6.3 最大幅・1.8 重・37.2g		刃部は先端が大きく反り返る。断面は中央に鑄を有する平付三角形で裏面にくりこみがある。刃部から茎部への移行部における閔の存在は不明。柄木は幅1.2cmのリング状の黄金具で押さえられる。	

B区0号住居(第259図)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②掘り方	破片 口・(15.2) 高・3.3	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は彎曲の度合い弱く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部は下半にヘラナデを施す。	器面の剥離著しい。
2	土師器 杯	①②掘り方	破片 口・(12.2) 高・2.7	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリと考えられる。	器面は剥離が著しい。
3	土師器 甕	①②掘り方	胴部下位～底部破片 底・(5.4) 高・(3.6)	①細砂 ②酸化 ③橙	胴部下面はヘラケズリ。内面はヘラナデ。	

## B区1号住居 (第262図 PL128)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②竈右袖右 側・埋没土	1/2 口・12.8 高・3.5	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は直線的にナナメ上方に向けて立ち上がる。底部は浅い丸底。口縁部は上位のみヨコナデか。底部外面はヘラケズリ。	器面は磨耗している。
2	土師器 鉢	①南東壁際 ②+6	口縁部～胴部上位 破片 口・(24.1) 高・(10.4)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は半球形の胴部から大きく外反して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面は上半がヨコ方向、下半がナナメ方向のヘラケズリ。内面はヨコ方向のヘラナデ。	
3	土師器 甕	①②竈燃焼部	口縁部～胴部上位 破片 口・(21.1) 高・(11.1)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい赤褐	口縁部はくの字状に外反、上半にいたり、その度合いを弱める。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヘラケズリ。内面はヘラナデ。	

## B区7号住居 (第265図 PL128)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①東・埋没土 ②+6・埋没土	2/3 口・(12.0) 高・3.6	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は底部から彎曲、上方に向かって立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	
2	土師器 杯	①②埋没土	1/2 口・(12.7) 高・(3.2)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は底部から彎曲ぎみに立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は下半にヘラケズリ。	
3	土師器 杯	①②埋没土	1/3 口・(14.8) 高・2.8	①粗砂・細砂 ②酸化 ③明赤褐	口縁部は浅い底部から屈曲、ナナメヨコ方向に強く外反して立ち上がる。皿状を呈する。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	
4	須恵器 杯	①掘り方南西 ②掘り方	口縁部下位～底部 破片 底・(7.2) 高・(1.6)	①白色鉱物粒少量 ②還元 ③灰	右回転ロクロ成形と考えられる。底部は回転糸切り離し後周縁部にナデ調整を施す。	
5	須恵器 蓋	①南西②床直	ほぼ完形 口・15.1 摘径・4.8 高・2.7	①黒色鉱物粒 ②還元 ③灰	天井部は中央寄りでの厚みを増している。内面には端部寄りに弱いかえりがみられる。右回転ロクロ成形。天井部中央寄りにヘラケズリ。摘部周辺はヨコナデ。	

## B区8号住居 (第267図 PL128)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①西・掘り方 ②床直・掘り方	2/3 口・(13.7) 高・3.8	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は外傾弱く上方に向けて立ち上がる。口縁部は上半にヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面はヨコナデ・ナデ。	口縁部内面に線刻。文字か。判読不明。
2	土師器 杯	①②埋没土	1/4 口・(14.8) 高・3.8	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は底部から内彎、短く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は下半にヘラケズリ。	器面は磨耗著しい。
3	土師器 杯	①②埋没土	破片 口・(15.6) 高・(2.6)	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部はナナメ上方に向かって立ち上がる。皿状を呈する。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	
4	土師器 杯	①②埋没土	1/4 口・(15.4) 高・3.5	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい褐	口縁部は浅い皿状の底部からさらにナナメヨコ方向に外反して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は下半にヘラケズリ。	

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
5	須恵器 瓶	①北東②床直	口縁部破片 口・(8.6) 高・(2.6)	①黒色鈳物粒 ②還元 ③灰	口縁部は外反して立ち上がる。先端外面に直立ぎみの平坦面をなす。右回転ロクロ成形と考えられる。	
6	須恵器 長頸壺	①西・南・東・北・埋没土 ②床直・+4・埋没土	口縁部 口・10.9 高・(16.1)	①黒色鈳物粒 ②還元 ③灰	筒状を呈し、直線的に外傾して立ち上がる。下に沈線2条がめぐる。左回転ロクロ成形。	
7	土製品 羽口	①西②+12	破片 高・(4.3)	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい黄橙	先端には発砲したガラス質が付着。周辺は黒灰色に変色している。	

B区 9号住居 (第269・270図 PL128・129)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①北西 ②床直・埋没土	ほぼ完形 口・14.0 高・3.5	①粗砂少量 ②酸化 ③明褐	口縁部は底部から彎曲、上方に向かって立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上半を除き下半にヘラケズリ。	
2	土師器 杯	①南②床直	ほぼ完形 口・12.7 高・3.4	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は外傾弱く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は下半をヘラケズリ、中にナデを重ねる。	
3	須恵器 杯	①②掘り方	破片 口・(13.3) 高・(3.5)	①細砂 ②還元 ③灰	左回転ロクロ成形。	
4	須恵器 蓋	①②埋没土	摘部～天井部上位 破片 摘径・(6.2) 高・(1.7)	①白色鈳物粒 ②還元 ③灰白	摘は直径が大きくりンク状を呈する。右回転ロクロ成形。摘部寄りの天井部外面には回転を伴うヘラケズリが施される。	
5	須恵器 蓋	①②埋没土	摘部～天井部破片 摘径・(5.1) 高・(3.0)	①黒色鈳物粒 ②還元 ③灰白	天井部は比較的丸味をおびている。右回転ロクロ成形。	
6	土師器 甕	①②埋没土	口縁部破片 口・(24.0) 高・4.7	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	外反して立ち上がる。口縁部にヨコナデ後胴部外面にヘラナデを施す。内面はヨコナデ。	
7	土師器 甕	①南壁②床直	口縁部～胴部下位 口・(24.4) 高・(28.0)	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。胴部は上位に最大径を有して丸く張る。器肉は薄い。口縁部はヨコナデ。胴部外面は上位がヨコ方向、中位以下がナメ方向にヘラケズリ。一部にナデを重ねる。内面はヘラナデを施すが磨耗が著しい。	
8	土師器 甕	①南壁②床直	胴部中位1/3 高・(21.8)	①粗砂 ②酸化 ③明赤褐	胴部は丸く張る。外面はヨコあるいはナメ方向のヘラケズリの上に一部ヘラナデを重ねる。内面はヨコ方向のヘラナデ。	
9	石器 敲石	①南壁②+5	一部欠損 長・8.4 幅・5.6 厚・3.0 重・204 g	石材 粗粒輝石安山岩	小口部の先端には敲打痕が集中する。	
10	石製品 砥石	①東②床直	完形 長・32.0 幅・18.0 厚・9.2 重・8,780 g	石材 粗粒輝石安山岩	図示した表・裏面・左側面に研磨面が認められる。左側面には礫の稜をはさんで幅5 cmほどの帯状に強い磨耗痕が認められる。	

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
11	石製品 こも編石	①西②+4	完形 長・13.2 幅・6.6 厚・4.4 重・667g	石材 粗粒輝石安山 岩	棒状を呈する16・17を除いて他は同形。 器面は光沢を有する。	
12	石製品 こも編石	①南②床直	完形 長・13.7 幅・6.5 厚・4.1 重・569g	石材 閃緑岩	平坦面を有する。	
13	石製品 こも編石	①南壁際 ②床直	完形 長・12.5 幅・6.3 厚・4.9 重・473g	石材 粗粒輝石安山 岩	器面は剥離、ザラついている。	
14	石製品 こも編石	①南壁際 ②床直	完形 長・13.1 幅・7.0 厚・3.3 重・373g	石材 粗粒輝石安山 岩	片面は剥離、ザラついている。	
15	石製品 こも編石	①南壁際 ②床直	完形 長・13.3 幅・6.5 厚・5.1 重・592g	石材 溶結凝灰岩	全体に光沢を有する。	
16	石製品 こも編石	①南壁際 ②床直	一部欠損 長・5.0 幅・4.6 厚・2.8 重・71g	石材 粗粒輝石安山 岩	小口部分の欠損は旧時のものである。	
17	石製品 こも編石	①南壁際 ②床直	完形 長・5.6 幅・5.3 厚・4.1 重・180g	石材 粗粒輝石安山 岩	全体に平滑な面をなす。	
18	石製品 こも編石	①南壁際 ②床直	一部欠損 長・13.3 幅・5.4 厚・4.7 重・400g	石材 粗粒輝石安山 岩	片面は剥離が顕著である。	
19	石製品 こも編石	①南壁際 ②床直	一部欠損 長・10.4 幅・6.5 厚・3.3 重・207g	石材 粗粒輝石安山 岩	火熱を受けている。	
20	石製品 こも編石	①南壁際 ②床直	完形 長・12.3 幅・6.0 厚・5.1 重・461g	石材 粗粒輝石安山 岩	全体に光沢を有する。	
21	石製品 こも編石	①南壁際 ②床直	完形 長・10.5 幅・6.6 厚・3.9 重・372g	石材 粗粒輝石安山 岩	全体に光沢を有する。	
22	石製品 こも編石	①南壁際 ②床直	完形 長・11.4 幅・5.3 厚・4.8 重・395g	石材 粗粒輝石安山 岩	小口部の一部に敲打による可能性を有 する剥離痕を有する。	

B区11号住居 (第273・274図 PL129)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①西②+14	1/2 口・(11.6) 高・(2.8)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は彎曲して上方に向けて立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部は下半にのみヘラケズリ。内面はヨコナデ。	
2	土師器 杯	①②竈埋没土	破片 口・(12.0) 高・3.8	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は底部から内彎ぎみに短く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	
3	土師器 杯	①②埋没土	底部破片	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	外面はヘラケズリ。内面はナデ。	外面に墨書。二文字か。判読不明。
4	須恵器 杯	①北東・埋没土 ②床直・埋没土	2/3 口・(14.0) 底・8.8 高・3.9	①粗砂・赤色粘土粒 ②還元 ③灰	口縁部は平底の底部から屈曲、ナナメ上方に向かって延びる。右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し調整後、周縁部を手持ちヘラケズリ調整。	内面は磨耗。
5	土師器 甕	①②埋没土	口縁部破片 口・(19.0) 高・(3.3)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は外傾著しく立ち上がる。口縁部はヨコナデ。脚部外面はヘラケズリと考えられる。	
6	土師器 甕	①北・北東・埋没土 ②床直・埋没土	胴部中位1/2 高・(23.0)	①粗砂 ②酸化 ③橙	球形を呈する。外面はナナメ方向のヘラケズリ。内面はヨコ方向のヘラナデ。	
7	土製品 土錘	①②竈燃焼部	完形 長・6.0 幅・1.4 孔径・0.5 重・10.9g	①細砂 ②酸化 ③にぶい橙	断面やや長円形の軸に粘土を貼り付けて成形したものと考えられる。中位に最大径を有し、両小口部分はいくぶん細くなる。器面はヘラナデ・ナデ調整。	

B区14号住居 (第277図 PL130)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①西②+15	完形 口・11.3 高・3.4	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は下半にヘラケズリ。	器形は著しく歪んでいる。底部外面には粘土塊を貼り付けた様子がみられる。
2	土師器 杯	①西壁際 ②床直	破片 口・(17.0) 高・(3.1)	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は外反して立ち上がる。	外面は磨耗が著しい。
3	須恵器 蓋	①北壁際 ②+20	ほぼ完形 口・20.4 摘径・3.9 高・5.1	①粗砂 ②還元 ③にぶい赤褐	天井部は丸味を有し、頂部にボタン状の摘を有する。内面、端部近くに弱いかえりがつく。右回転ロクロ成形。天井部外面の上位にはヘラケズリが施されている。内面はヨコ方向のナデが施される。	
4	石製品 砥石	①北西②+12	完形 長・12.4 幅・5.8 厚・5.1 重・470g	石材 ひん岩	棒状で、横断面が角の丸い三角形の礫。図、表面はほぼ全面が研磨面となっており、その中央部分は長軸方向に沈線状の凹部が2条みられる。	
5	石製品 こも編石	①西壁際 ②+19	完形 長・16.2 幅・6.5 厚・3.6 重・647g	石材 閃緑岩	棒状を呈する。7～9と同形。全面に光沢を有する。	

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
6	石製品 こも編石	①②竈左袖左側	一部欠損 長・10.4 幅・8.0 厚・3.4 重・317 g	石材 粗粒輝石安山 岩	扁平。表・裏面は光沢を有する。	器面は磨耗 している。
7	石製品 こも編石	①②竈左袖前	完形 長・12.6 幅・5.8 厚・5.9 重・504 g	石材 粗粒輝石安山 岩	器面は粗くザラついている。	
8	石製品 こも編石	①北西②+ 9	完形 長・12.2 幅・7.3 厚・3.6 重・467 g	石材 粗粒輝石安山 岩	全面が磨滅。光沢を有する。	
9	石製品 こも編石	①北西壁際 ②床直	完形 長・14.8 幅・6.4 厚・5.1 重・623 g	石材 粗粒輝石安山 岩		

## B区15号住居 (第279図 PL130)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①掘り方南 ②掘り方	ほぼ完形 口・10.5 高・3.1	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は内彎して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は下半にヘラケズリを施す。内面はヨコナデ・ナデ。	器面の磨耗 著しい。
2	土師器 杯	①掘り方南西 ②掘り方	破片 口・(18.7) 高・(3.5)	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は外反してナメヨコ方向に立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ、内面はヨコナデ・ナデ。	
3	須恵器 瓶	①南西②床直	底部破片 底・(8.1) 高・(8.6)	①黒色鈹物粒 ②還元・軟質 ③灰白	胴部は平底の底部から筒状に立ち上がるか。器肉は厚く、内外面ともロクロによる器面調整が施されている。	

## B区17号住居 (第281図 PL130)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②竈焚口部前	1/4 口・(12.7) 高・(4.0)	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は内彎して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上位を除いて大部分をヘラケズリ。内面はヨコナデ・ナデ。	
2	土師器 杯	①北西隅 ②床直	破片 口・(16.0) 高・(4.7)	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は彎曲して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上位を除いてヘラケズリ。内面はヨコナデ。	
3	須恵器 杯	①北②床直	1/2 口・(11.9) 底・7.8 高・3.8	①黒色・白色鈹物粒 ②還元 ③灰	口縁部は外傾弱く直線的に立ち上がる。左回転ロクロ成形。底部は回転を伴うヘラ切り離し。	内面に自然 釉付着。
4	須恵器 高台付杯?	①②埋没土	底部破片1/4 底・(12.0) 高・(1.3)	①黒色・白色鈹物粒 ②還元 ③灰	高台部は低く、つぶれたように外方へ延びる。右回転ロクロ成形か。底部は手持ちのヘラ調整。	
5	土師器 甕	①②竈焚口部前	口縁部破片 口・(19.7) 高・(5.4)	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部はくの字状に立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヨコ方向にヘラケズリ。内面はヘラナデ。	

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
6	土師器 甕	①②埋没土	口縁部～胴部上位 破片 口・(24.0) 高・(6.7)	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は外反して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヨコ方向にヘラケズリ。内面はヨコ方向にヘラナデ。	

C区 5号住居 (第284・285図 PL130)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②竈左袖・竈左袖左側・埋没土	1/2 口・(12.2) 高・(3.5)	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は丸底の底部から彎曲して立ち上がるが、先端の彎曲の度合いは弱い。口縁部はヨコナデ。底部外面は上位に成形時の器面を残し以下はヘラケズリ。内面はナデ。	
2	土師器 杯	①南壁際 ②-9～-17	ほぼ完形 口・14.7 高・4.6	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は丸底の底部から彎曲して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部は上位に成形時の器面を残すが、以下はヘラケズリ。内面は丁寧なナデ。	出土状況の把握にやや困乱があるか。
3	須恵器 高台付杯	①②埋没土	口縁部下半～底部 破片 底・(11.0) 高・(3.5)	①黒色鉱物粒少量 ②還元 ③灰黄色	右回転ロクロ成形。高台部は回転を伴うヘラ調整によるケズリダシ高台である。	
4	須恵器 高台付杯	①②埋没土	口縁部下半～底部 破片 底・(11.0) 高・(3.5)	①細砂少量 ②還元・軟質 ③灰	右回転ロクロ成形。高台部は回転を伴うヘラ調整によるケズリダシ高台である。	
5	須恵器 高台付杯	①中央・竈左袖・埋没土・竈埋没土 ②竈左袖・竈埋没土・床直・埋没土	3/4 口・15.8 底・10.2 高・4.2	①黒色鉱物粒 ②還元・軟質 ③灰白	右回転ロクロ成形。底部は回転を伴うヘラ調整後、高台部を貼り付け。高台部は低いハの字状。	器面は荒れている。
6	須恵器 杯	①②埋没土	完形 口・11.0 高・3.5	①精選・黒色鉱物粒少量 ②還元 ③灰白	口縁部はナナメ上方に向かって直線的に延びる。右回転ロクロ成形。底部は回転を伴うヘラケズリ調整を施す。	
7	土師器 甕	①②埋没土	口縁部～胴部上位 破片 口・(20.9) 高・(13.4)	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は弱く、屈曲後外傾弱く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面はタテ方向のヘラケズリ。内面はヨコ方向のナデ。	
8	土師器 甕	①南壁際・埋没土 ②-9～+10・埋没土	口縁部～胴部上位 口・23.5 高・(13.1)	①粗砂・軽石粒 ②酸化 ③橙	口縁部は大きく外反して立ち上がり、先端は最大径を有する。口縁部は先端をヨコナデ。胴部外面はタテ方向のヘラケズリ。内面はヨコ方向のヘラナデ。	出土状況の把握にやや困乱があるか。
9	土師器 甕	①②竈左袖補強材	口縁部～胴部下位 2/3 口・(22.9) 高・(24.1)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は頸部で明瞭に屈曲、外反著しく立ち上がる。胴部は弱く張る。口縁部はヨコナデ。胴部外面はタテ方向のヘラケズリ。最上位は工具がナナメヨコ方向を向く。内面はヨコ方向のヘラナデを繰り返す。	
10	土師器 甕	①②竈右袖補強材	口縁部～胴部下位 1/3 口・(25.6) 高・(29.6)	①粗砂・白色軽石粒 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は大きく外反して立ち上がり、その先端は最大径を有する。胴部は長胴で底部に向け徐々に細くなる。口縁部はヨコナデ。胴部外面はタテ方向のヘラケズリ。内面はヨコ方向のヘラナデ。	

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
11	鉄製品 鎌	①②埋没土	ほぼ完形 長さ・12.3 刃部幅・1.8 刃部背厚・0.2 柄部幅・2.7 重　　・27.2 g		背側はゆるやかな弧状を呈する。刃部は使用によるためか弧が強い。右端は柄木に装着するため直角に折れ返っている。	

## C区8号住居（第288図）

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①東②+7	破片 口・(13.4) 高・2.5	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は内彎して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部は下半のみヘラケズリを施したと考えられる。内面はナデ。	
2	土師器 甕	①②埋没土	底部破片 底・(4.2) 高・(2.9)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい褐	外面はヘラケズリ。内面はヘラナデ。	
3	須恵器 瓶	①②埋没土	口縁部先端破片 口・(10.0) 高・(2.1)	①黒色・白色鈹物粒 ②還元 ③灰	ロクロ成形。先端は外面に稜を成した後、尖って立ち上がる。	器面に自然釉が付着している。

## C区10号住居（第291図 PL131）

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②埋没土	2/3 口・13.4 高・4.5	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部はナナメ上方に向け弱く外傾する。口縁部はヨコナデ。底部外面は中位以下をヘラケズリ。内面はヨコナデか。	火熱のためか器面は著しく荒れている。
2	土師器 杯	①②埋没土・掘り方	口縁部破片 口・(12.9) 底・(8.8) 高・(2.8)	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は外傾著しく立ち上がり、先端は内側に強く屈曲する。口縁部外面は上半がヨコナデ。下半は成形時の面を残す。底部外面はヘラケズリ。	
3	土師器 杯	①②床下土坑	口縁部～底部破片 口・(12.0) 高・(3.0)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は外反ぎみに立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は下位ヘラケズリを施す他は、成形時の面を残す。	器面に炭素付着。
4	土師器 杯	①②埋没土	底部破片	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	平底。	内外面に墨書。
5	土師器 杯	①②埋没土	底部破片	①粗砂 ②酸化 ③橙		内面に墨書。判読不明。
6	土師器 杯	①②埋没土	1/4 口・(13.3) 高・4.4	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部はナナメ上方に向け弱く外傾する。先端は内側に向く。口縁部は上半にヨコナデ。下半にヘラケズリを施す。底面はヘラケズリ。内面は口縁部・底部に、棒状工具による螺旋文状の暗文を施す。	底部外面には「初」の墨書あり。
7	土師器 台付甕	①②竈焚口部	脚台部 底・8.2 高・(2.8)	①細砂 ②酸化 ③橙	器肉薄い。内外面ともヨコナデ。	
8	須恵器 杯	①②埋没土	口縁部下半～底部破片 底・(8.0) 高・(2.8)	①細砂 ②還元 ③明赤褐	右回転ロクロ成形か。底部はヘラ調整を施す。	
9	土師器 甕	①北・埋没土 ②+18・埋没土	口縁部破片～胴部上位 口・(15.1) 高・(4.9)	①細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は外反して立ち上がる。口縁部はヨコナデ、胴部外面はヨコ方向のヘラケズリ。内面はヨコ方向のナデ。	

## C区20号住居（第294～297図 PL131～133）

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①東②床直	ほぼ完形 口・15.3 高・3.7	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は底部から外反、ナナメヨコ方向に向かって立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	器面の一部に煤付着。
2	土師器 杯	①南②+3	ほぼ完形 口・14.1 高・4.9	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部はナナメ上方に向かって立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	底部外面は剥離が著しい。
3	土師器 杯	①東②床直	3/4 口・15.1 高・3.8	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は底部から外反して立ち上がる。特に先端はつままれたように外方を向く。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	器面に炭化物が付着する。煤か。
4	土師器 杯	①北東②+4	完形 口・16.1 高・3.8	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は外傾著しく、ナナメヨコ方向に向かって立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	内面の磨耗著しい。
5	土師器 杯	①南東壁 ②床直	完形 口・15.2 高・3.8	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は強く外反、ナナメヨコ方向に向かって立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	器面は著しく歪んでいる。外面の一部に炭化物付着。
6	土師器 杯	①北西壁際 ②床直	ほぼ完形 口・15.2 高・3.4	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部はナナメヨコ方向に外傾強く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	内面は磨耗著しい。二次的に使用されたか。内外面の一部に炭化物が付着。煤か。
7	土師器 杯	①東壁際・竈埋没土②竈埋没土・床直	1/2 口・(13.0) 高・4.0	①礫・粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は長く、ナナメ上方に向けて直線的に立ち上がる。浅い底部外面はヘラケズリ。	器面の磨耗が著しい。
8	土師器 杯	①西②+5	完形 口・12.9 高・3.3	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は上方に向かって立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は口縁部間近までヘラケズリ。	器面に炭素付着、煤か。
9	土師器 杯	①中央②+10	3/4 口・11.2 高・3.4	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は内彎弱く立ち上がる。底部外面は最上位を除いてヘラケズリを施す。内面はナデ。	
10	土師器 杯	①北東壁際 ②+4	ほぼ完形 口・11.7 高・3.8	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は短く上方に向かって立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上位に成形時の面を残し、以下ヘラケズリ。内面はヨコナデ・ナデ。	口縁部の欠損は旧時の可能性もある。
11	土師器 杯	①北東壁際 ②+6	完形 口・11.4 高・3.3	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は底部から緩やかに内彎、上方に向けて立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上位を除いてヘラケズリ。	胎土はC-20号住-10に類似する。
12	土師器 杯	①南東隅②+3	完形 口・11.7 高・3.7	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は緩やかに内彎して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上位に一部成形時の面を残すが、以下はヘラケズリを施す。内面はナデ。	器面の一部に炭素付着。
13	土師器 杯	①南東壁際 ②+11	1/2 口・(11.8) 高・(3.3)	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は底部から彎曲して立ち上がり、上方に向かって立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上位に成形時の面を残すが、以下にヘラケズリを施す。	内外面の一部に炭素が付着。
14	須恵器 蓋	①南東②+17	1/2 口・(18.4) 摘径・(5.4) 高・3.4	①粗砂少量 ②還元 ③灰	リング状の摘を有する。右回転ロクロ成形。摘の周辺は回転を伴うヘラケズリを施す。	

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
15	土師器 鉢	①北東②+3	ほぼ完形 口・19.0 高・7.7	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は丸底から内彎ぎみに立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	
16	土師器 台付甕	①北東・東・埋 没土 ②床直・+3・ 埋没土	脚台部下位欠損 口・12.5 高・(15.6)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は外反弱く立ち上がり上方に延びる。脚台部は低く、ハの字状に延びる。口縁部はヨコナデ。胴部外面は上半がナナメヨコ方向にヘラケズリ。下半はナナメタテ方向のヘラケズリ。内面はヘラナデ。	器面は剥離・磨耗が著しい。
17	土師器 台付甕	①②竈燃焼部	3/4 口・(12.6) 底・10.0 高・18.7	①粗砂・細砂 ②酸化 ③明赤褐	口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。脚台部は低く、大きく外方に延びる。口縁部はヨコナデ、胴部外面は上位がヨコ方向、中位以下はナナメタテ方向にヘラケズリ。脚台部下半はヘラナデ。胴部内面はヨコナデ。	器面の剥離・磨耗が著しい。
18	土師器 小型甕	①北東②床直	完形 口・8.8 高・8.7	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は弱く外反、上方に向かって立ち上がる。口縁部はヨコナデ、胴部外面はヘラケズリ。内面はヘラナデと考えられる。	内外面とも剥離・磨耗が著しい。
19	土師器 甕	①北・埋没土 ②床直・埋没土	口縁部破片 口・(21.3) 高・(5.2)	①細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は大きく外反して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面はナナメヨコ方向のヘラケズリ。	
20	土師器 甕	①東壁際・東・埋 没土 ②床直・埋没土	3/4 口・22.9 高・(29.0)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は頸部からくの字状に外反、上半は弱い受け口状を呈する。器肉は薄い。口縁部はヨコナデ。胴部外面は全体をヘラケズリ。上位はナナメヨコ、中位以下はナナメタテ方向。内面はヨコ方向にヘラナデ。	
21	土師器 甕	①南東壁際 ②+3	胴部下半～底部 底・6.0 高・(18.2)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③浅黄橙	胴部は中位で強く張り出している。胴部外面は成形時の変換点ごとに器面の段差をヘラケズリで調整している。他はヨコ・ナナメヨコ方向のヘラナデ。	内面は剥離が著しく調整が観察できない。
22	須恵器 短頸壺	①②竈埋没土	胴部破片 高・(5.4)	①黒色鉾物粒 ②還元 ③灰	右回転ロクロ成形。残存中位に沈線がめぐる。下位に回転を伴うヘラケズリを施す。	
23	須恵器 甕	①②埋没土	口縁部破片 口・(16.0) 高・(3.3)	①白色鉾物粒 ②還元 ③黄灰	外反して立ち上がる。先端は尖り、断面三角形を呈する。外面、先端直下に突帯がめぐり、沈線が沿う。中位以下には6本1単位の波状文と沈線1条がめぐる。	
24	須恵器 甕	①東②床直	胴部上位1/3 高・(24.4)	①チャート・白色鉾物粒 ②還元 ③灰	頸部直下にはヨコ方向のナデが施される。以下は外面にナナメタテ方向のタキ目を、内面に同心円文状のアテ目を全面に残す。	
25	土師器 手捏ね	①②埋没土	破片 口・(3.9) 高・(3.1)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	小さなコップ状を呈していたと考えられる。内外面ともナデを施している。	
26	鉄製品 鎌	①②埋没土	柄部残存 長・(5.7) 柄部幅・2.8 柄部背厚・0.1 重・14.5 g		曲刃鎌の柄周辺のみ残存。錆ぶくれが著しい。右端部は高く直角に折り返る。表面に木質が付着して残存している。柄の一部か。	
27	鉄製品 鎌	①北東②+7	ほぼ完形 長・17.2 刃部幅・1.8～2.0 刃部背厚・0.2 柄部幅・3.2 重・37.6 g		曲刃鎌である。刃部は使用によるためか中央付近を中心にその幅を狭めている。右端部は柄を装着するために折り返っている。	

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
28	石製品 紡錘車	①西②+7	完形 上面径・4.3 下面径・2.7 厚・1.7 重・43.0 g	石材 蛇紋岩	扁平に近い形状を呈する。上面は半分が剥離している。側面から下面への移行は丸味を有している。側面には上・下面とほぼ水平方向の擦痕が多数みられる。軸孔の直径は0.8cmである。	磨耗。
29	石器 敲石	①南②+9	完形 長・12.3 幅・7.7 厚・4.3 重・490 g	石材 粗粒輝石安山岩	平面楕円形の礫。表面中央に集中敲打痕による凹部が1箇所のみられる。図、下端部も敲打を重ねたことにより生じたものと考えられる。	
30	石器 磨石	①南西②床直	完形 長・8.9 幅・8.9 厚・3.5 重・389 g	石材 粗粒輝石安山岩	平面楕円形の礫の両面に磨面がみられる。欠損は旧時で欠損面も磨面として利用している。周縁は一部敲打に利用している。	

C区28号住居 (第300・301図 PL133)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②貯蔵穴	口縁部破片 口・(13.9) 高・(3.4)	①細砂少量 ②酸化 ③橙	ナナメ上方に直線的に立ち上がる。先端にヨコナデ、下位にヘラケズリを施す。内面は丁寧なナデの上に棒状工具によるミガキを放射状に施す。	
2	土師器 杯	①②貯蔵穴周辺 ・埋没土	1/2 口・(14.4) 高・3.3	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は底部から彎曲後上方に向かって立ち上がる。口縁部はヨコナデ、底部外面は上位を除いてヘラケズリ。	器面は磨耗が著しい。
3	土師器 杯	①②貯蔵穴埋没土	1/3 口・(14.1) 高・(3.4)	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は弱く彎曲しながらもナナメ上方に向かって立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	
4	土師器 杯	①②竈焚口部前 ・竈掘り方	1/3 口・(13.2) 高・(2.9)	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は緩やかに内彎して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上位を除いてヘラケズリ。内面はヨコナデ・ナデ。	
5	土師器 杯	①北西②+14	ほぼ完形 口・12.5 高・3.3	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は底部から彎曲、あまり内彎せず上方に向けて立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上位の一部を除きヘラケズリ。内面はナデ。	
6	須恵器 杯	①西②+4	口縁部下半～底部 底・(7.0) 高・(2.2)	①白色鉱物粒 ②還元 ③青灰	右回転ロクロ成形。底部は回転を伴うヘラケズリ調整。	
7	須恵器 蓋	①②竈埋没土・ 埋没土	1/4 口・(18.0) 高・(2.8)	①白色鉱物粒 ②還元 ③灰	天井部はふくらみを有する。端部は垂直に折り曲がり先端は弱く尖る。右回転ロクロ成形。外面にはロクロ目を強く残す。	
8	土師器 台付甕	①②埋没土	脚台部破片 底・(7.5) 高・(4.1)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	ハの字状の伸び裾部にいたる。外面はナナメタテ方向のハケメの上にナデを重ねる。内面も丁寧なナデを施す。	
9	鉄製品 不明品	①②埋没土	一部残存 長・(10.6) 最大幅・2.6 厚・0.1 重・18.63 g		大刀状を呈するが器厚に変化が少なく背・刃部の区別が判然としない。	
10	鉄製品 棒状品	①②埋没土	一部残存 長・(8.9) 幅・0.7 厚・0.5 重・14.14 g		断面四角形の棒状品で、図、上端は欠損していると考えられる。下端は舌状を呈している。	

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
11	石製品 紡錘車	①北東②+16	完形 上面径・4.4 下面径・3.0 厚・1.2 重・36.85 g	石材 蛇紋岩	扁平で上・下面の直径の差が小さい形状である。上面は稜の一部が丸味をおびている。側面・下面に細い沈線がめぐる。軸孔の直径は0.8cmである。	
12	石器 敲石	①東壁際 ②床直	完形 長・13.1 幅・5.9 厚・4.4 重・416 g	石材 粗粒輝石安山岩	棒状の礫。横断面はかまぼこ状を呈する。側縁部に敲打痕がみられる。	

## C区31号住居 (第303・304図 PL133)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②埋没土・攪乱	1/3 口・(13.1) 高・(3.6)	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は底部から緩やかに内彎して立ち上がる。口縁部はヨコナデ、底部外面は最上位に成形時の面を残すが以下はヘラケズリ。内面はナデ。	
2	土師器 杯	①西・埋没土・攪乱 ②+10・埋没土・攪乱	1/2 口・(13.2) 高・3.3	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は底部から彎曲して立ち上がり、上方に向けて延びる。口縁部はヨコナデ。底部外面は下半にヘラケズリ。内面はナデ。	器面は磨耗している。
3	土師器 杯	①北壁際・北 ②+4～+9	3/4 口・15.2 高・4.0	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は底部から彎曲して立ち上がり、ナナメ上方に向けて立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上位を除いてヘラケズリ。内面は丁寧なナデ。	器面は内外面とも剥離が著しい。
4	土師器 杯	①②埋没土・攪乱	1/3 口・(13.3) 高・(3.5)	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は底部から彎曲して立ち上がり、上方に向けて延びる。口縁部はヨコナデ。底部外面は下半をヘラケズリ。内面はナデ。	器面は磨耗が著しい。
5	土師器 杯	①北東・埋没土・攪乱 ②+4・埋没土・攪乱	2/3 口・(14.4) 高・3.5	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	器形は全体に扁平である。口縁部は底部から彎曲して立ち上がり、上方に向けて延びる。口縁部はヨコナデ。底部外面は下半にヘラケズリ。内面はナデ。	器面は一部が剥離している。
6	土師器 甕	①北東壁際 ②+14	口縁部～胴部上位 破片 口・(22.6) 高・(6.5)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい褐	口縁部は大きく外反する。胴部はほとんど残らない。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヨコ方向にヘラケズリ後、タテ方向に弱いケズリ。内面はヘラナデ。	
7	土師器 甕	①②埋没土・攪乱	口縁部破片 口・(21.0) 高・(4.5)	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は外反してナナメ上方に向け立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部は外面がヘラケズリ。内面はヨコナデと考えられる。	
8	石製品 紡錘車	①北西②床直	完形 上面径・4.3 下面径・3.1 厚・1.5 重・50.5 g	石材 蛇紋岩	扁平で、上面・下面の直径の差が小さい形状である。各面とも使用によると考えられる細い削痕が無数についている。また旧時の小さな剥離も顕著である。軸孔の直径は0.75cmである。	
9	石器 敲石	①北②+13	完形 長・12.1 幅・5.6 厚・2.7 重・344 g	石材 石英閃緑岩	棒状の礫。右側縁部に敲打痕がみられる。	

C区33号住居 (第307図 PL134)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①中央②床直	破片 口・(13.2) 高・(3.1)	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は底辺から彎曲して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリと思われる。	口縁部の欠損は旧時か。器面の磨耗も著しい。
2	土師器 杯	①②埋没土	破片 口・(13.2) 高・3.1	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部はナナメ上方に向けて立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面はナデ。	
3	土師器 杯	①②埋没土	破片 口・(14.2) 底・(9.0) 高・3.3	①細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は平底の底部から屈曲、ナナメ上方に向かって立ち上がる。外面は口縁部は上端にヨコナデ。以下はヘラケズリか。底部外面もヘラケズリ。内面はナデ。	器面は磨耗している。
4	土師器 杯	①②埋没土	破片 口・(12.0) 高・(2.9)	①細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は外傾弱くナナメ上方に向かって立ち上がる。口縁部外面は下位を除いてヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	
5	須恵器 杯	①②埋没土	1/4 口・(14.9) 底・(9.6) 高・3.5	①白色・黒色鉱物粒 ②還元・軟質 ③灰白	口縁部内面には棒状工具によるミガキが放射状に施される。左回転ロクロ成形。底部は周縁部に回転を伴うナデ調整。	
6	須恵器 杯	①北東②床直	1/3 口・(14.0) 底・(9.0) 高・3.5	①黒色鉱物粒 ②還元・やや軟質 ③灰白	口縁部はナナメ上方に向かって立ち上がる。左回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後未調整。	
7	土師器 甕	①②床下土坑	口縁部～胴部上位 破片 口・(21.1) 高・(5.2)	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は外反して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヨコ方向のヘラケズリ。	
8	鉄製品 大刀	①②埋没土	一部残存 長・7.1 刃部幅・2.1 刃部背厚・0.2 茎部背厚・0.4 重・17.0 g		関周辺の残存である。茎部は尻部を欠損するが端部に向かって徐々にその幅を狭めている。刃側の関はながれているが背側には関が存在していた可能性もある。	

C区39号住居 (第309図 PL134)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②竈焚口部・埋没土	1/2 口・(13.2) 底・7.2 高・3.7	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は平底の底部からナナメ上方に向けて外傾する。口縁部外面は上端にヨコナデ。以下はヘラケズリと思われる。底部はヘラケズリ。内面は口縁部に放射状、底部に螺旋状の暗文が施されている。	器面は磨耗が著しい。
2	土師器 杯	①東壁際・埋没土 ②床直・埋没土	1/4 口・(13.9) 高・4.0	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は平底の底部からナナメ上方に向けて外傾する。口縁部外面は先端にヨコナデ。以下はヘラケズリ。底部もヘラケズリ。内面は口縁部に放射状、底部に曲線から構成される螺旋状暗文が施されている。	
3	土師器 杯	①②竈燃焼部	破片 口・(13.1) 高・(2.7)	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は底部から彎曲して立ち上がり、上方に向けて延びる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上位の一部を除いてヘラケズリ。	
4	土師器 杯	①東②+3	1/3 口・(12.9) 高・(3.5)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は底部から彎曲して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は下半にヘラケズリ。上半は成形時の面を残す。	

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
5	須恵器 杯	①②竈燃烧部	破片 底・(8.0) 高・(3.6)	①白色鈹物粒 ②還元・やや軟質 ③灰	口縁部は外形弱く立ち上がる。右回転 ロクロ成形。底部は回転を伴う糸切り 離した後周縁部にナデ調整。	
6	土師器 甕	①②竈燃烧部・ 竈焚口部・埋没 土・掘り方	口縁部～胴部上位 破片 口・(24.2) 高・(8.3)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は胴部からくの字に屈曲、弱い 受け口状をなしてナナメ上方に立ち上 がる。胴部外面はヨコ方向のヘラケズ リ。内面はヘラナデ。	
7	土製品 羽口	①②埋没土	破片	①粗砂 ②酸化	一部に端部が残存する。外面に炭化物 を多く含むガラス質付着。	
8	土製品 羽口	①②竈埋没土	破片	①粗砂 ②酸化	39住-7と同一個体の可能性が高い。	

## C区45号住居 (第311図 PL133)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②竈左袖・竈 燃烧部・竈焚口 部	1/3 口・(12.2) 高・(2.8)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は平底ぎみの底部から外傾弱く 立ち上がる。口縁部は上半のみヨコナ デ。底部外面はヘラケズリ。	器面に炭素 付着。
2	土師器 杯	①②貯蔵穴・竈 燃烧部・竈焚口 部	1/3 口・(11.8) 高・3.4	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は底部から屈曲、外傾弱く立ち 上がる。口縁部は上半のみヨコナデ。 底部外面はヘラケズリ。	
3	土師器 杯	①②竈燃烧部・ 竈焚口部	1/3 口・(12.3) 高・(3.1)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は底部から屈曲、ナナメ上方に 向かって立ち上がる。先端は弱く外反 する。口縁部はヨコナデ。底部外面は 下半にヘラケズリ。	器面は剥離 ・磨耗が著 しい。

## C区52号住居 (第314図 PL134)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②貯蔵穴	破片 口・(12.0) 底・(7.6) 高・(3.1)	①細砂 ②酸化 ③にぶい褐	口縁部は平底の底部から屈曲、曲線 を描きながら立ち上がる。口縁部上半 はヨコナデ、下半はナデに近いヘラケ ズリ。底部外面はヘラケズリ。	
2	須恵器 甕	①②竈燃烧部	破片	①白色鈹物粒 ②還元 ③灰	外面は疑似格子目状のタタキ目。内面 はアテ目の上にナデを重ねる。	

## C区56号住居 (第317図 PL134)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②埋没土	破片 口・(10.0) 高・(2.8)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は短く、底部から内傾ぎみに屈 曲して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。 底部外面はヘラケズリ。	
2	土師器 杯	①②埋没土	2/3 口・9.6 高・2.8	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は底部から屈曲、弱く内彎して 立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部 外面はヘラケズリ。内面はナデ。	
3	土師器 杯	①②埋没土	1/4 口・(11.7) 高・(2.5)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は底部から内彎して立ち上がる。 口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケ ズリ。内面はヨコナデ。	
4	土師器 杯	①②埋没土	1/3 口・(12.2) 高・(3.2)	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は彎曲弱く立ち上がる。口縁部 はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。 内面はヨコ方向のナデと考えられる。	内外面とも やや磨耗し ている。
5	土師器 杯	①②埋没土	破片 口・(15.6) 高・(3.0)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	底部は浅く皿状を呈する。口縁部は大 きくナナメ外方に向けて延びる。中位 でその角度を変えている。口縁部はヨ コナデ。底部外面はヘラケズリ。	

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P LNo	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
6	土師器 杯	①②埋没土	1/4 口・(15.6) 高・(2.6)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	底部は浅く皿状を呈する。口縁部はその底部からナナメヨコ方向に延びる。口縁部はヨコナデを施すが成形時のヒビ割れ状の面を残す。底部外面はヘラケズリ。	器面は磨耗が著しい。
7	土師器 杯	①②竈左袖・埋没土	1/4 口・(15.1) 高・4.8	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は浅い丸底の底部から彎曲の度合い弱くナナメ上方に向かって長く立ち上がる。器面は磨耗著しく調整痕の観察が困難であるが外面の口縁部下半と底部にヘラケズリがみられる。	
8	須恵器 蓋	①北壁際 ②床直	摘部 摘径・6.1 高・(1.5)	①黒色鉱物粒発泡 ②還元 ③灰	摘部は円盤状を呈する。右回転ロクロ成形。	内面は著しく磨耗している。
9	土師器 杯	①②埋没土	口縁部破片 口・(20.0) 高・(2.8)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部はラップ状に外反して立ち上がる。内外面ともヨコナデ。	外面にヘラによる線刻あり。
10	鉄製品 棒状品	①西②+6	ほぼ完形 長・12.6 最大幅・1.0 厚・0.4 重・8.79g		長頸の片刃鎌に形状が類するが、現状では先端が刃部を有していない点、茎尻に相当する部分が針の目処状に孔を有している点などから鉄鎌ではなく、別の道具であった可能性が高い。	
11	石器 敲石	①②埋没土	完形 長・11.9 幅・6.5 厚・3.5 重・320g	石材 粗粒輝石安山岩	片面の中央を主体に集中打痕がみられる。両側縁部にも集中打痕がみられ、抉り状を呈している。小口部分も若干敲打に使用されている。	

C区60号住居 (第320・321図 PL134・135)

挿図番号 P LNo	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②貯蔵穴埋没土・掘り方	ほぼ完形 口・11.4 高・3.9	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ、内面はヨコ方向のナデ。	
2	土師器 杯	①②埋没土	ほぼ完形 口・12.5 高・3.6	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	器形は歪み平面形は長円形を呈する。口縁部は底部から彎曲して立ち上がるがその度合いは弱い。口縁部はヨコナデ。底部外面は上位を除いてヘラケズリ。内面はヨコ方向のナデ。	
3	土師器 杯	①②埋没土	口縁部～底部破片 1/4 口・(11.5) 底・(7.9) 高・3.4	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部平底の底部から屈曲、ナナメ上方に向けて立ち上がる。口縁部は上位をヨコナデ、以下はヨコ方向のヘラケズリ。底部外面はヘラケズリと考えられる。	内外面の磨耗が著しい。
4	須恵器 杯	①②埋没土	1/4 口・(13.6) 底・(7.2) 高・3.8	①粗砂・礫少量 ②還元 ③灰	口縁部は底部から丸味をおびながら屈曲する。右回転ロクロ成形。底部外面はヘラによるナデ調整。	
5	須恵器 杯	①南東②+3	底部破片 底・7.2 高・(1.4)	①細砂少量 ②還元 ③灰黄	右回転ロクロ成形。口縁部下位から底部外面は回転を伴うヘラケズリ調整。	
6	須恵器 高台付杯	①東②+14	底部破片 底・(11.0) 高・(1.0)	①白色鉱物粒 ②還元 ③灰黄	右回転ロクロ成形。高台部は回転を伴うケズリダシ高台。底部外面は回転を伴うヘラ調整を施す。	
7	須恵器 杯	①②埋没土	破片 口・(13.4) 底・(8.0) 高・3.7	①白色鉱物粒少量 ②還元 ③灰	口縁部はナナメ上方に向けて立ち上がる。右回転ロクロ成形。底部外面はヘラケズリ調整。	

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
8	須恵器 蓋	①中央・埋没土 ②+10~+18	3/4摘部欠損 口・18.4 高・(3.6)	①粗砂・赤色粘土粒 少量 ②還元 ③灰白	天井部はふくらみを有する。端部は屈曲、短く折れ曲がる。右回転ロクロ成形。上位には回転を伴うヘラケズリ調整が加えられる。	
9	須恵器 盤	①南東②+15	口縁部破片 口・(28.8) 高・(4.1)	①粗砂・黒色鈹物粒 少量 ②還元 ③灰白	右回転ロクロ成形。上半はヨコナデ。下半外面にはナナメヨコ方向のヘラケズリが、内面には不定方向のユビナデがみられる。	
10	土師器 甕	①南東隅・埋没土 ②床直・埋没土	1/2 口・(19.5) 底・5.3 高・19.3	①粗砂多量 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部はラッパ状に大きく外反して立ち上がる。胴部は狭小な底部に向けて徐々にその径を細くしていく。口縁部はヨコナデ。胴部外面は中位から上位に向けてヘラケズリ。下位はナナメヨコ方向に底部に向けてヘラケズリ。内面はナナメヨコ方向にヘラナデ。	
11	須恵器 瓶	①②埋没土	口縁部破片 口・(9.2) 高・(4.2)	①細砂 ②還元 ③緑灰	緩やかに外反して立ち上がる。先端は平坦な面をなす。器面はロクロ調整を施す。	
12	須恵器 提瓶	①②埋没土	肩部破片 高・(3.7)	①白色鈹物粒 ②還元 ③黄灰	右回転ロクロ成形。成形の最後に胴部を閉塞するために貼付した粘土板が剥落している。	
13	須恵器 台付壺	①南②+9	底部～台部 底・12.6 高・(3.7)	①黒色鈹物粒発泡 ②還元 ③灰	右回転ロクロ成形。	
14	須恵器 甕	①北東②+14	口縁部～胴部上位 口・(13.2) 高・(4.7)	①白色鈹物粒 ②還元 ③灰	口縁部は短く直立後外方に強く屈曲して立ち上がる。先端は外側に稜をなし帯状を呈する。右回転ロクロによる器面調整を施す。	
15	須恵器 甕	①②埋没土	破片	①粗砂・細砂少量 ②還元 ③外面灰白・内面淡黄	外面は疑似格子目状のタタキ目。内面は同心円状のアテ目。	
16	鉄製品 鎌	①②埋没土	ほぼ完形 長・14.6 刃部幅・1.8 柄部幅・3.3 刃部背厚・0.2 重・43.38 g		曲刃鎌である。背側は先端近くでその彎曲の度合いを強めている。刃部は使用のためか、中央付近の幅が狭くなっている。先端は欠損している可能性もある。右端は柄を装着するため折り返っている。	
17	石器 磨石	①南②床直	完形 長・11.7 幅・9.5 厚・4.8 重・775 g	石材 粗粒輝石安山岩	表・裏両面の広い範囲を磨面としている。また両側面、両小口部分も敲打、磨面となっていた。	
18	石器 敲石	①南東②+13	完形 長・13.2 幅・7.9 厚・3.2 重・501 g	石材 粗粒輝石安山岩	小口部分に敲打痕が認められる他、側縁部の一部に磨面がみられる。周縁に多数みられる剥離部分は敲打による可能性も考えられる。	

## C区64号住居 (第322図 PL134)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②攪乱	口縁部破片 口・(11.8) 高・(3.0)	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部はナナメ上方に向かって立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面はナデ。	
2	土師器 杯	①②竈埋没土	破片 口・(12.3) 高・(2.9)	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は緩やかに内彎して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は下半にのみヘラケズリ。内面はナデ。	

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
3	須恵器 蓋	①②掘り方・攪乱	天井部破片 高・(2.5)	①粗砂・白色鈹物粒 ②還元 ③灰白	左回転ロクロ成形。外面天井部上半には回転を伴うヘラケズリ。摘部周辺にはナデがみられる。	

C区67号住居 (第325~327図 PL135・136)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①北東壁際 ②+6	3/4 口・9.8 高・2.9	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口径は小さい。口縁部は強く内彎して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部は口縁部との間をわずかにあげ、以下をヘラケズリ。内面はヨコナデ・ナデ。	
2	土師器 杯	①北東②床直	完形 口・10.4 高・3.3	①粗砂 ②酸化 ③橙	口径は小さい。口縁部は強く内彎して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面はヨコ方向のナデ。	
3	土師器 杯	①北東隅②+5	ほぼ完形 口・10.9 高・3.4	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は短く、中位でごくわずかにくびれた後上方に向けて立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面はヨコナデ・ナデ。	
4	土師器 杯	①南②+5	完形 口・10.1 高・3.3	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	口径は小さい。口縁部は強く内彎ぎみに立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面はヨコ方向のナデ。	
5	土師器 杯	①北東壁際 ②床直	ほぼ完形 口・12.6 高・4.0	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は極めて短い。強く内彎して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部は最上位、口縁部とのわずかな間を除いてヘラケズリ。内面はヨコ方向のナデ。	
6	土師器 杯	①②貯蔵穴	3/4 口・12.2 高・4.6	①粗砂 ②酸化 ③明褐	口縁部は緩やかに内彎して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面はヨコナデ・ナデ。	
7	須恵器 杯	①東・埋没土 ②+3・埋没土	3/4 口・10.1 底・7.2 高・4.1	①黒色鈹物粒少量 ②還元 ③淡黄	口縁部外傾弱く直線的に立ち上がる。先端は内側が薄くなり尖る。左回転ロクロ成形。底部外面は手持ちヘラケズリ。	
8	土師器 杯	①②埋没土	破片	①細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は平底ぎみの底部から外傾弱く立ち上がる。口縁部外面は上位のみヨコナデ。	外面に墨書か。判読不明。
9	土師器 杯	①②埋没土	底部破片	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	外面はヘラケズリ。	内外面に墨書あり。内面「矢」、外面判読不明。
10	須恵器 台付盤	①北②床直	杯部下半1/2 高・(2.3)	①白色・黒色鈹物粒 ②還元 ③にぶい黄橙	台付盤の杯部下半の残存片である。左回転ロクロ成形と考えられる。外面上位、口縁部に移行する部分には回転を伴うヘラケズリ。以下はナデ。	
11	須恵器 盤	①北東隅 ②床直	口縁部破片 口・(20.0) 高・(3.2)	①細砂 ②還元・やや軟質 ③灰白	皿状の下半から屈曲、外傾弱くナメ上方に向かって立ち上がる。下半には内外面ともカキ目が施される。右回転ロクロ成形。	
12	土師器 小型甕	①②埋没土	1/3 口・(11.4) 高・(6.0)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は短く立ち上がり、先端が弱く外反する。胴部は腕状を呈する。口縁部はヨコナデ。底部外面はヨコ方向のヘラケズリ。内面はヨコ方向のヘラナデ。	
13	土師器 小型甕	①②埋没土	破片 口・(12.4) 高・(4.2)	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は内彎気味に立ち上がり、先端が短くかえる。胴部外面はヘラケズリと思われる。	

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
14	土師器 小型甕	①②埋没土	破片 口・(12.4) 高・(3.6)	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は内彎気味に立ち上がり、先端が短くかえる。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヘラケズリ。内面はヨコ方向のナデ。	
15	土師器 甕	①東壁際 ②+14	口縁部～胴部上位 口・(21.0) 高・(6.0)	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は大きく外反して立ち上がる。口縁部をヨコナデ後胴部外面にナメヨコ方向のヘラケズリを施す。内面はヨコ方向のヘラナデ。	
16	土師器 甕	①②柱穴1	口縁部～胴部上位 口・(23.2) 高・(6.1)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部はラップ状に大きく外反する。先端内面には弱い凹線がめぐる。口縁部ヨコナデ後胴部外面をナメタテあるいはナメヨコ方向にヘラケズリ。内面は一部ヘラケズリ後ヘラナデ。	
17	土師器 甕	①②竈焚口部前	胴部下位～底部 底・(4.3) 高・(9.1)	①粗砂 ②酸化 ③橙	底部は不安定な平底。胴部外面はタテ方向のヘラケズリに一部ナデを重ねる。内面は底部に指頭によるナデ、胴部にヘラナデを施す。	
18	土師器 甕	①②竈焚口部 前・埋没土	胴部下位～底部 底・4.0 高・(5.9)	①粗砂多量 ②酸化 ③にぶい黄橙	胴部外面はナメタテ方向のヘラケズリ。内面はヘラナデ。	
19	土師器 甕	①北・竈右袖補強材 ②竈右袖補強材・+4	ほぼ完形 口・23.2 底・(3.7) 高・33.0	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は大きく外反して立ち上がる。胴部は頸部でくびれた後弱張りだし、上位に最大径を有する。口縁部はヨコナデ。底部外面は2・3回に分けてナメタテ方向のヘラケズリ。内面はヨコ方向のヘラナデ。	
20	土師器 甕	①②竈焚口部前	口縁部～胴部下位 口・(23.6) 高・(33.9)	①粗砂・軽石多量 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部はラップ状に大きく外反して立ち上がる。口縁部をヨコナデ後胴部外面にタテ方向のヘラケズリを施す。胴部内面はヨコ方向のナデ。	
21	土師器 甕	①②竈右袖・竈右袖右側・竈焚口部前・埋没土・地割れ内	1/2 口・(21.7) 高・(34.5)	①粗砂・白色軽石 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部はラップ状に外反して立ち上がる。胴部は途中で張り出すことなく底部に向かって徐々に細くなる。口縁部はヨコナデ。胴部外面はタテ方向のヘラケズリ。内面はヨコ方向のヘラナデ。	
22	土師器 甕	①②竈埋没土	胴部下半 底・(4.0) 高・(20.4)	①粗砂多量 ②酸化 ③橙	胴部外面は2・3回に分けてタテ方向のヘラケズリ。内面はヨコ・ナメ方向のヘラナデ。	
23	鉄製品 板状品	①②埋没土	一部残存 長・(6.1) 幅・0.9 厚・0.2 重・3.18 g		断面は二等辺三角形を呈し、刃部を有するようにみえる。ただし刃部の幅にほとんど変化がなく刀子等には断定できない。	
24	鉄製品 鉄鎌	①床直・西 ②床直	一部欠損 長・(11.9) 刃部幅・0.6 基部幅・0.3 厚・0.3 重・7.56 g		鑿形形の長頸鎌である。基部へは棘関をへて移行する。茎尻は欠損している。	
25	石製品? 碧玉	①西②床直	ほぼ完形 長・1.9 幅・1.8 厚・1.3 重・6.8 g		横断面は台形状を呈する。図の両小口面をはじめ各面に磨耗痕が認められ、特に図、下端小口面は平滑に仕上げられている。	混入品の可能性も考えられる。

## C区74号住居 (第329図 PL136)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	出土位置 ①平面②垂直	1/3 口・(12.0) 高・(3.3)	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は外傾弱く立ち上がる。口縁部は上半にヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面はナデ。	
2	土師器 杯	①②埋没土	口縁部～底部破片 口・(13.6) 高・(2.9)	①細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は底部から曲線を描いて立ち上がる。口縁部は上半にヨコナデ。底部外面はヘラケズリにナデを重ねている。	
3	土師器 杯	①北壁際 ②床直	口縁部～底部1/4 口・(12.2) 底・(8.6) 高・3.0	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部は緩やかに彎曲、上位は上方に向かって延びる。口縁部は上位のみヨコナデ。底部外面はヘラケズリ後ナデを重ねているか。	
4	土師器 杯	①②竈左袖・埋没土	3/4 口・(12.6) 高・3.1	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は外傾弱く立ち上がる。口縁部は上半にヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面はナデ。	器面は磨耗・剥離が著しい。
5	須恵器 杯	①東壁際 ②+17	1/4 口・(13.0) 底・(8.8) 高・3.1	①白色・黒色鈹物 ②還元 ③灰	口縁部はナナメ上方に向かって立ち上がる。右回転ロクロ成形。底部はナデ調整。	
6	須恵器 杯	①②埋没土	1/4 底・(7.0) 高・(3.0)	①粗砂・細砂 ②還元・やや軟質 ③灰	右回転ロクロ成形と考えられる。底部は回転糸切り離しか。	
7	須恵器 杯	①北東・埋没土 ②+19・埋没土	ほぼ完形 口・10.9 底・5.5 高・3.7	①黒色鈹物粒少量 ②還元 ③灰	器形は著しく歪んでいる。底径は小さく、口縁部はナナメ上方に延びる。右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離した後周縁にナデ調整。	外面に自然釉付着。内面は磨耗が著しい。
8	須恵器 杯	①北・貯蔵穴 ②貯蔵穴・+5	ほぼ完形 口・12.3 底・7.6 高・3.9	①粗砂・黒色鈹物粒 発泡 ②還元 ③灰白	口縁部は彎曲強く、ナナメ上方に向けて立ち上がる。右回転ロクロ成形。口縁部のロクロ目は目立たない。底部外面は回転を伴うヘラケズリ調整。	底部内面は磨耗が著しい。
9	須恵器 杯	①南②床直	1/4 口・(13.3) 底・(8.0) 高・3.3	①白色鈹物粒 ②還元 ③灰	口縁部は先端にいたり外反する。右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離した後未調整か。	
10	須恵器 杯	①東・中央・竈右袖前 ②竈右袖前・+11～+12	2/3 口・13.4 底・8.0 高・4.1	①白色鈹物粒 ②還元 ③灰黄	口縁部は外傾弱くナナメ上方に立ち上がる。右回転ロクロ成形。底部は回転を伴うヘラケズリ調整。	内外面とも磨耗が著しい。
11	須恵器 杯	①東壁際・中央・埋没土 ②+9～+17・埋没土	ほぼ完形 口・12.9 底・8.8 高・3.8	①黒色鈹物粒 ②還元 ③灰白	口縁部は直線的にナナメ上方に向けて立ち上がる。右回転ロクロ成形。底部外面は回転を伴うヘラケズリ調整である。成形時に切り落とした粘土塊が板状に貼り付いたままになっている。	
12	須恵器 杯	①北・埋没土 ②+5・埋没土	1/3 口・(13.2) 底・(8.0) 高・4.3	①粗砂少量 ②還元 ③橙	口縁部は外傾弱くナナメ上方に立ち上がる。右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離した後未調整。	
13	土師器 甕	①南・埋没土 ②床直・埋没土	口縁部～胴部上位 口・(22.0) 高・(5.4)	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は弱く外反する。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヨコ方向のヘラケズリ。内面ヨコ方向のヘラナデ。	
14	土師器 甕	①②竈燃焼部・竈埋没土	口縁部～胴部上位 口・(20.8) 高・(5.3)	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は上半が外反して延びる。口縁部外面はヨコナデ。下半は指頭によるナデ・オサエ。胴部外面はヨコ方向のヘラケズリ。内面はヨコナデ、ヨコ方向のヘラナデ。	
15	鉄製品 刀子	①北東②+4	刃部3/4 長・(8.0) 刃部幅・1.0～1.5 刃部背厚・0.2 重・10.03 g		錆ぶくれが著しいが基部への移行は背側に直関がみられる。柄元から刃部の大半が残存する。	

## C区79号住居（第331図 PL136）

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 皿または盤	①南東・南東壁 際 ②床直	完形 口・16.9 底・14.1 高・2.8	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は平底ぎみの底部から屈曲、ナナメ上方に向かって短く立ち上がる。先端は弱く内側を向く。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	器面はやや磨耗している。
2	須恵器 杯	①②埋没土	1/4 口・(12.5) 底・(8.0) 高・(3.8)	①粗砂少量 ②還元 ③灰黄	口縁部は外傾弱くナナメ上方に向けて立ち上がる。右回転ロクロ成形。底部は切り離し後ヘラケズリ調整を施しているか。	口縁部から底部の1/4ほどの残存資料に同一個体と考えられる墨書の記された口縁部破片から図を復元した。墨書は判読不明。
3	須恵器 杯	①②掘り方	1/2 口・(13.7) 底・(8.1) 高・3.3	①白色・黒色鉱物粒 ②還元・軟質・不良 ③灰	口縁部は下位に立ち上がりの変換点がみられる。右回転ロクロ成形と思われる。底部は回転を伴うヘラケズリ調整。	器面は磨耗が著しい。
4	須恵器 杯	①南・掘り方 ②床直・掘り方	1/3 口・(13.4) 底・(8.2) 高・3.5	①粗砂少量 ②還元・やや軟質 ③灰白	口縁部は曲線を描きながらナナメ上方に向かって立ち上がる。右回転ロクロ成形。底部は回転を伴うヘラケズリ調整。	器面は磨耗が著しい。
5	鉄製品 刀子	①②埋没土	茎部欠損 長・(10.9) 刃部幅・0.5~1.5 刃部背厚・0.2 重・9.15g		刃部は使用によるためか細身である。柄元から鋒先に向かって刃部を狭めている。茎部へは背側に直閔をなして移行する。	
6	鉄製品 刀子	①②埋没土	刃部・茎部一部欠損 長・(7.7) 刃部幅・1.2 刃部背厚・0.2 茎部長・(5.0) 茎部背厚・0.3 重・9.15g		錆化が進行し変形が著しい。刃部から茎部への移行は背側に直閔を有する。茎部は長く、茎尻に向かって徐々に細くなる。	
7	鉄製品 刀子	①②埋没土	刃部一部残存 長・(4.1) 刃部幅・0.8~1.1 刃部背厚・0.2 重・4.16g		刃部の一部である。錆化の進行により変形著しい。	
8	鉄製品 刀子	①②埋没土	茎部一部残存 長・(3.5) 茎部幅・0.4~0.7 茎部背厚・0.2 重・1.88g		茎尻は尖った状態で終息する。	
9	鉄製品 棒状品	①②掘り方	一部残存 長・(4.2) 幅・0.5 厚・0.5 重・2.53g		断面四角形の棒状品である。下端に向けて細くなるので釘の可能性が考えられる。	

## C区1号住居 (第334・335図 PL137)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②埋没土	口縁部1/2 口・11.8 高・(2.8)	①細砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は平底の底部から丸味を有して立ち上がり、外傾弱くナナメ上方に延びる。口縁部はヨコナデ。下位に成形時の器面を残す。底部はヘラケズリ。	
2	土師器 杯	①東壁際・埋没土 ②床直・埋没土	1/3 口・(12.4) 高・(2.8)	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部外面は上半がヨコナデ。下半には成形時の器面を残す。底部外面はヘラケズリ。内面はヨコナデ。	内面、黒色。炭化物(煤)付着。
3	土師器 杯	①掘り方床下土坑北 ②掘り方床下土坑	口縁部1/3 口・(12.5) 底・(9.6) 高・(3.1)	①精選・細砂少量 ②酸化 ③橙	平底。口縁部は上半にヨコナデ。下半はナデを施すが、成形痕を残す。底部外面はヘラケズリか。内面はヨコナデ・ナデ。	
4	土師器 杯	①中央・埋没土 ②+5・埋没土	1/4 口・(11.2) 底・(7.4) 高・3.5	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	平底。口縁部外面は上半がヨコナデ。下半はナデを施すが、成形痕を明瞭に残す。底部にはヘラケズリを加える。内面はヨコナデ・ナデ。	
5	土師器 杯	①②埋没土	底部破片	①粗砂少量 ②酸化 ③明赤褐	外面はヘラケズリ。内面はナデ。	内面に墨書。「方□」。
6	須恵器 杯	①中央・西 ②+6～+8	底部破片 底・7.0 高・(2.4)	①白色鈹物粒 ②還元・やや軟質 ③黄灰	左回転ロクロ成形。底部は、回転を伴う糸切り離し後、未調整。	底部は内外面とも磨耗著しい。
7	須恵器 杯	①西壁際②+5	1/2 口・(13.2) 底・(7.0) 高・3.5	①白色鈹物粒 ②還元 ③灰色	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り離し後未調整。	内外面とも磨耗著しい。
8	須恵器 高台付杯	①南西・埋没土 ②+4・埋没土	底部 底・10.2 高・(1.9)	①白色鈹物粒顕著 ②還元・軟質 ③にぶい褐	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り離し後、断面三角形の高台部を貼り付け。周縁部をヨコナデ。	器面の磨耗著しい。欠損は旧時の可能性もある。
9	須恵器 高台付椀	①中央②+16	口縁部下半～高台部1/2 底・(8.5) 高・(3.6)	①赤色粘土粒 ②還元 ③灰	右回転ロクロ成形。ロクロ痕はきわめて弱い。底部回転糸切り離し後、高台部を貼付、周縁部をヨコナデする。高台部はハの字状を呈する。	
10	須恵器 高台付椀	①②埋没土	口縁部下半～底部破片 底・(8.2) 高・(2.7)	①白色・黒色鈹物粒 ②還元・やや軟質 ③灰色	高台部はハの字状に開き、先端外縁は、外側につままれたように延びる。左回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後、高台部を貼り付ける。	
11	須恵器 蓋	①②埋没土	口縁部破片 口・(18.0) 高・(2.3)	①細砂 ②還元 ③灰	右回転ロクロ成形か。端部は垂直に折れ曲がり尖る。	
12	土師器 台付甕	①②埋没土	胴部下位～脚台部上位1/2 高・(5.5)	①細砂 ②酸化 ③橙	脚台部は外反著しく延びる。胴部は外面がヘラケズリ。内面はヘラナデ。脚台部外面はヨコナデ。	脚台部は旧時欠損か。
13	土師器 甕	①②竈埋没土・埋没土	口縁部～胴部上位破片 口・(17.6) 高・(6.5)	①細砂 ②酸化 ③橙	口縁部はコの字状に近い。先端は弱い受け口状となる。口縁部はヨコナデ。胴体外面はヨコ方向のヘラケズリ。内面はヨコ方向のナデ。	
14	土師器 甕	①東②+14	口縁部～胴部上位破片 口・(22.7) 高・(8.1)	①細砂 ②酸化 ③橙	口縁部はコの字状を呈する。口縁部外面は、強いヨコナデ。胴部外面はヨコ方向のヘラケズリ。胴部内面はヨコ方向のヘラナデ。	
15	土師器 甕	①東壁際・東・中央・北 ②+13～+20・埋没土	口縁部～胴部上位2/3 口・(19.5) 高・(8.4)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は外反して立ち上がり、コの字状を呈してはいない。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヨコ方向のヘラケズリ。内面はヨコ方向のナデ、一部に指頭痕を残す。	

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
16	土師器 甕	①南西隅 ②+11	口縁部破片 口・(20.9) 高・(3.2)	①細砂 ②酸化 ③にぶい橙	内外面ともヨコナデ。外面には成形時の指頭圧痕を一部消しきれていない部分がある。	
17	須恵器 甕	①南壁際 ②床直	胴部下位破片	①粗砂・細砂 ②還元 ③灰	底部周辺の破片である。左回転のロクロにより器面を調整する。外面の一部には、ヘラケズリが施される。	
18	灰釉陶器 長頸瓶	①②埋没土	破片	①精選・黒色鉱物粒 ②還元 ③浅黄	小破片のため全体像を把握することは困難であった。	
19	土製品 土錘	①②埋没土	完形 長・2.9 幅・1.6 孔径・0.4 重・7.8g	①精選 ②酸化 ③淡黄	紡錘形を呈し、両小口は平坦面が形づくられている。長さに比して最大径は大きい。焼成前に穿孔が施されている。	
20	鉄製品 鎌	①西②+6	刃部先端 長・(5.6) 刃部幅・2.3 厚・0.1 重・9.8g		彎曲する刃部の先端と考えられるが、背の厚さが極めて薄い点がやや検討を有する。図、右上端は破断時に著しく変形している。	
21	鉄製品 棒状品	①中央②+1	一部欠損 長・8.1 幅・0.8~1.2 厚・0.2 重・9.0g		器種・用途は不明である。幅の狭い帯状品である。図、上位部分は端が折れ返り、本体と接している。もう一方は、反対方向に弧をなすところで欠損している。	
22	石製品 砥石	①南西②+7	完形 長・24.7 幅・12.9 厚・6.1 重・2,310g	石材 粗粒輝石安山岩	扁平な大型礫の側面に顕著な研磨面がみられる。この面は長軸方向に大きく凹面状に彎曲する。使用面は表面にも部分的な狭い範囲でみられる。また、この面には刀傷状の強い擦痕、溝状の工具痕が存在する。裏面にはハツリ状の工具痕が集中して重なっている。	

## C区22号住居 (第338図 PL137・138)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①南東・竈埋没土・埋没土 ②+4・埋没土	1/2 口・(12.0) 高・3.3	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は底部から彎曲して立ち上がり、ナナメ上方に延びる。口縁部は上半にヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面はナデ。	内外面の一部に炭化物付着。
2	土師器 杯	①②貯蔵穴	1/3 口・(12.0) 高・2.6	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は底部から立ち上がり、ナナメ上方に延びる。口縁部は下半を除いてヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面はナデ。	
3	土師器 杯	①東・北東・埋没土 ②+4・埋没土	1/3 口・12.5 高・(2.7)	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は底部から立ち上がり、ナナメ上方に向けて延びる。口縁部は下位を除いてヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	器面は磨耗著しい。
4	土師器 杯	①②竈燃焼部・埋没土	口縁部破片 口・(14.0) 高・(3.0)	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は弱くナナメ上方に向かって立ち上がり、先端は内側を向く。口縁部はヨコナデ。底部は上位を除いてヘラケズリ。内面には棒状工具による放射状のミガキが施される。	5・6と形状・調整が類似するが口径は異なることから別個体とした。
5	土師器 杯	①②埋没土	口縁部破片 口・(14.8) 高・(3.3)	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は弱くナナメ上方に向かって立ち上がり、先端は内側を向く。口縁部はヨコナデ。底部は上位を除いてヘラケズリ。内面には棒状工具による放射状のミガキが施される。	4・6と類似するが同一個体とは断定できない。

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
6	土師器 杯	①②埋没土	口縁部破片 口・(13.0) 高・(3.1)	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部はナナメ上方に向かって立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部はヘラケズリ。内面は棒状工具によるミガキを放射線状に施す。	4・5と類似するが同一個体とは断定できない。
7	土師器 杯	①②埋没土	口縁部～底部破片 口・(12.3) 高・2.7	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は外傾著しく立ち上がり、先端は内側に丸味を帯びる。口縁部は上半のみヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	底部内面に墨書。判読不明。
8	土師器 杯	①②土坑中の掘り込み	底部破片	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	外面はヘラケズリ。内面には棒状工具による螺旋文が描かれている。	
9	須恵器 杯	①②貯蔵穴・重複する土坑中の掘り込み	2/3 口・(12.6) 底・7.2 高・3.5	①礫大の石英・チャート多量 ②還元 ③灰	口縁部はナナメ上方に向かって直線的に立ち上がる。右回転ロクロ成形。底部回転糸切り離し後周縁部のみナデ調整を施す。	
10	須恵器 杯	①②埋没土	1/3 口・(13.6) 底・(8.2) 高・3.4	①礫・粗砂少量 ②還元・軟質 ③灰	口縁部はナナメ上方に向かって直線的に立ち上がる。右回転ロクロ成形。底部回転糸切り離し後周縁部のみナデ調整。	
11	須恵器 蓋	①東②+3	破片 口・(15.5) 高・(2.6)	①粗砂多量 ②還元 ③灰白	天井部のふくらみは低い。端部は先端が屈曲して短く折れる。右回転ロクロ成形。外面天井部の上位は回転を伴うヘラケズリ。	
12	灰釉陶器 蓋	①北西②+4	ほぼ完形 口・7.5 摘径・1.2 高・1.6	①粗砂少量 ②還元 ③灰白	広口の小型壺に伴うか。天井部はほとんど張らず平坦。中央にボタン状の摘がつく。端部は直角に折れ、下方に延びる。右回転ロクロ成形。	外面に釉がかかる。猿投窯産と考えられる。
13	土師器 甕	①②埋没土	口縁部破片 口・(10.6) 高・(4.1)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい褐	口縁部はくの字状に屈曲、直線的に立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヘラケズリか。	器面の磨耗著しい。
14	土師器 甕	①②貯蔵穴・掘り方	口縁部～胴部上位破片 口・(20.5) 高・(8.5)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい褐	口縁部の断面形はコの字状に近い。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヨコ方向のヘラケズリ。内面はヨコ方向のヘラナデ。	
15	土師器 甕	①②貯蔵穴・南東壁際・竈焚口部	胴部下位～底部 底・4.4 高・(11.9)	①粗砂・細砂多量 ②酸化 ③にぶい橙	外面はタテ方向のヘラケズリ、内面はヘラナデ。	
16	石製品 砥石	①C区22号住居 ②掘り方	完形 長・5.9 幅・4.7 厚・2.8 重・42g	石材 軽石	角閃石安山岩。6面全面が研磨され、平坦面を成形する。	
17	石製品 砥石	①②貯蔵穴	完形 長・21.7 幅・7.3 厚・7.5 重・1,190g	石材 粗粒輝石安山岩	棒状礫の表・裏及び片側面に平坦な研磨面がみられる。各面とも中央が凹状を呈している。もう一方の側面も使用した可能性があるが旧時に剥離したと考えられる。	

C区30号住居 (第340・341図 PL138)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①竈②攪乱	1/3 口・(12.7) 高・(3.1)	①細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は上半が強く外反。先端は丸味を有し内側を向く。口縁部外面は上半がヨコナデ。下半がナデ。底部外面はヘラケズリ。	内面は剥離が著しい。
2	土師器 杯	①②埋没土	1/3 口・(12.0) 高・(3.4)	①細砂 ②酸化 ③にぶい赤褐	口縁部下半は外面がヒビ割れ状を呈する。内面には指頭圧痕が残る。型作りによる成形のためか。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリか。	

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
3	須恵器 杯	①②貯蔵穴埋没土	1/3 口・(13.1) 底・(6.1) 高・3.2	①粗砂・粘土粒多量 ②還元・軟質 ③灰黄	口径は底径に比して大きい。左回転ロクロ成形。底部は糸切り離し後未調整。	内面は使用による磨耗が著しい。
4	土師器 台付甕	①②竈・埋没土	胴部下位～脚部破片 底・(11.1) 高・(5.6)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい褐	脚台部は裾部に向けて大きく外反する。胴部の一部にヘラケズリが残るが以下脚部にいたるまではヨコ方向のナデ。内面もヨコ方向のナデ。	器面は剥離が著しい。
5	土師器 甕	①②竈焚口部・埋没土	口縁部～胴部上位破片 口・(20.1) 高・(8.5)	①粗砂・赤色粘土粒 ②酸化 ③橙	口縁部は断面がコの字状を呈する。胴部外面はヨコ方向にヘラケズリ。内面はヨコ方向にヘラナデ。	
6	土師器 甕	①②貯蔵穴埋没土	1/2 口・(10.4) 底・(4.8) 高・9.5	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は外反弱く上方に向けて立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面は上位がヨコ方向。中位から下位はナナメ方向にヘラケズリ。内面はヘラナデ。	混入物の可能性あり。
7	土師器 甕	①②竈左袖・竈埋没土・埋没土	胴部下位～底部 底・(4.0) 高・(10.0)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	外面はタテ方向にヘラケズリ。内面はナナメあるいはタテ方向のヘラケズリ。	

## C区35号住居（第344・345図 PL138）

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②埋没土	1/4 口・(12.1) 高・(2.5)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は平底の底部から外傾弱く立ち上がる。器形は歪み成形が粗雑。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	
2	土師器 杯	①竈埋没土・東・埋没土 ②竈埋没土・+18・埋没土	1/4 口・(12.0) 高・(3.1)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は平底の底部から屈曲、ナナメ上方に向かって立ち上がる。口縁部は上半のみヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	
3	土師器 杯	①北東・北 ②床直・+4	1/3 口・(12.2) 高・3.7	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は平底を意識した底部から屈曲して立ち上がり、外傾弱く立ち上がる。上半の器面はヨコナデにより小さな起伏を生じている。底部外面はヘラケズリ。	
4	土師器 杯	①②埋没土	1/3 口・(11.8) 高・(3.6)	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部の上半外面にはヨコナデによる小さな起伏が生じている。口縁部は上半のみヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	
5	須恵器 杯	①北②+8	3/4 口・12.9 底・7.5 高・3.7	①細砂・礫 ②還元 ③灰黄	口径に比して底径が大きく、器高は低い。右回転ロクロ成形。底部切り離し後、周縁部を回転を伴うヘラケズリ調整。	内面はやや磨耗している。
6	須恵器 高台付椀	①②埋没土	2/3 口・(16.3) 底・9.4 高・6.8	①礫多量・白色鈹物粒 ②還元 ③灰	口縁部はナナメ上方に向かって立ち上がり、先端は外反する。高台部は長くハの字状を呈する。右回転ロクロ成形。器面はロクロ痕を良く残す。底部は回転糸切り離し後、高台部を貼り付け、周縁部にナデを施す。	内面の磨耗が著しい。
7	土師器 甕	①②埋没土	胴部下位破片 高・(2.9)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③明赤褐	外面はヘラケズリ。内面はヘラナデ。	
8	土師器 甕	①②埋没土	胴部下位～底部破片 底・(4.8) 高・(3.8)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい褐	胴部外面はヘラケズリ。内面はヘラナデ。狭小な底部にはヘラケズリを施す。	

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P LNo	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
9	土師器 甕	①北東②+4	口縁部～胴部上位 破片 口・(15.2) 高・(5.6)	①粗砂 ②酸化 ③明赤褐	口縁部は断面形がコの字状を呈する。 口縁部はヨコナデ。胴部外面はヨコ方向のヘラケズリ。内面はヨコ方向のヘラナデ。	
10	土師器 甕	①北・北東・東 ・中央・埋没土 ②床直・+4～ +7	2/3 口・19.8 底・4.0 高・29.8	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は頸部から直立ぎみに立ち上がり 中位で屈曲、外反して立ち上がる。 口縁部はヨコナデ。胴部外面は上位が ヨコ方向・中位から下位がナナメタテ 方向のヘラケズリ。内面はヨコ方向の ヘラナデ。	
11	土師器 甕	①北・北東・東 ・中央 ②床直・+3～ +11	2/3 口・20.7 底・(4.4) 高・28.8	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は大きく外反して立ち上がる。 口縁部はヨコナデ、胴部外面は上位が ナナメヨコ方向、中位から下位はナナ メタテ方向のヘラケズリ、内面はヘラ ナデ。	2点から図 上復元。
12	鉄製品 棒状品	①②埋没土	一部残存 長・3.6 厚・1.2 幅・1.1 重・9.6g		図、下端は旧時欠損か。錆化が著しく 断面形の判断が困難であるが隅丸の四 角形であったか。	

C区36号住居 (第347図 PL139)

挿図番号 P LNo	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①西・埋没土 ②+3・埋没土	ほぼ完形 口・11.8 底・8.0 高・3.5	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は平底ぎみの底部から屈曲、ナ ナメ上方に向かって立ち上がる。口縁 部の上半にヨコナデ。底部外面はヘラ ケズリ。	底部外面の 中央に墨書。 判読不明。
2	土師器 杯	①②竈焚口部・ 竈左袖	ほぼ完形 口・11.8 底・8.0 高・3.5	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は平底の底部から屈曲、ナナメ 上方に向かって立ち上がる。上半はや や外反する。口縁部の上半はヨコナデ。 底部外面はヘラケズリ。	底部内面に 墨書。判読 不明。器面 は剥離が著 しい。
3	土師器 杯	①南②+17	1/2 口・(12.0) 底・(8.4) 高・3.8	①粗砂 ②酸化 ③にぶい赤褐	口縁部は平底の底部から屈曲、ナナメ 上方に向かって立ち上がる。先端はつ ままれたように外方を向く。口縁部は 上半のみヨコナデ。底部外面はヘラケ ズリ。	
4	須恵器 杯	①南東・埋没土 ②床直・埋没土	ほぼ完形 口・12.6 底・5.8 高・3.8	①粗砂少量・白色鈹 物粒 ②還元 ③灰白	口縁部は内彎ぎみにナナメ上方に向か って立ち上がる。先端は外反する。右 回転クロコ成形。底部切り離し後未調 整。	口縁部外面 にヘラによ る線刻「主」。 器面の磨耗 著しい。
5	須恵器 杯	①南東②床直	口縁部～底部1/4 口・(13.1) 底・(6.0) 高・(3.7)	①粗砂少量 ②還元 ③灰黄	口縁部は先端が外反して延びる。右回 転クロコ成形。底部は回転糸切り離し 後未調整。	
6	土師器 甕	①中央②床直	口縁部～胴部上位 破片 口・(11.0) 高・(6.5)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は直立ぎみに立ち上がり先端の み外反、尖る。口縁部はヨコナデ。胴 部外面はヨコ方向のヘラケズリ。内面 はナデ。	
7	土師器 甕	①②貯蔵穴	口縁部～胴部上位 破片 口・(15.0) 高・(7.4)	①細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は上半が強く外反する。外面の 先端直下には沈線状の凹線がめぐる。 口縁部はヨコナデ。底部外面はヨコ方 向のヘラケズリ。内面はヨコ方向のヘ ラナデ。	

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
8	土師器 甕	①②竈焚口部・ 埋没土	口縁部～胴部中位 1/3 口・20.2 高・(16.9)	①細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は断面形がコの字状を呈する。 口縁部はヨコナデ。胴部外面は上位が ナナメヨコ方向のヘラケズリに一部タ テ方向のケズリを重ねる。中位以下は ナナメタテ方向にヨコ方向のヘラケズ リを重ねる。一部ヘラケズリの上にタ テ方向のナデが重なる。内面はヘラナ デ。	
9	土師器 甕	①②竈焚口部前 ・竈左袖・竈埋 没土	1/3 口・(18.8) 底・(3.2) 高・28.1	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は断面形がコの字状を呈する。 胴部は肩部が張る。口縁部はヨコナデ。 胴部外面は中位から下位にナナメタテ 方向のヘラケズリ後上位のナナメヨコ 方向のヘラケズリを加える。一部にナ デが重なる。内面はヘラナデ。	破砕後一部 破片に炭素 付着。
10	土師器 甕	①②竈焚口部前 ・竈左袖前・埋 没土	口縁部～胴部下位 2/3 口・(20.4) 高・(24.3)	①細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部の断面形はコの字状を呈する。 外面の先端直下には沈線状に凹線がめ ぐる。胴部外面は中位以下にナナメタ テ方向のヘラケズリを施した後上位に ナナメヨコ方向のヘラケズリ。内面は ヘラナデ。	
11	土師器 甕	①②竈焚口部前 ・掘り方北東	胴部下位～底部破 片 底・(3.1) 高・(9.0)	①細砂 ②酸化 ③にぶい黄褐	底部は狭小な平底。胴部外面はナナメ タテ方向のヘラケズリ。内面はヘラナ デと考えられる。	内面は剥離 ・磨耗が著 しい。

## C区37号住居 (第349図 PL140)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②貯蔵穴・埋 没土	2/3 口・12.5 底・8.8 高・3.1	①粗砂・細砂 ②酸化 ③明赤褐	口縁部は平底の底部からナナメ上方に 向けて立ち上がる。口縁部は上半がヨ コナデ。下半がナデ。底部外面はヘラ ケズリ。内面はヨコナデ。	口縁部外面 の下半部分 に点々と刻 み目状の工 具痕が確認 される。
2	須恵器 杯	①②埋没土	破片 口・(13.0) 高・(2.9)	①白色鉍物粒 ②還元 ③灰	ナナメ上方に向かって直線的に立ち上 がる。左回転ロクロ成形。	
3	須恵器 蓋	①②埋没土	破片 口・(17.0) 高・(2.2)	①白色・黒色鉍物粒 ②還元 ③灰	端部は屈曲して折れる。右回転ロクロ 成形。	
4	土師器 甕	①②竈右袖前・ 埋没土	口縁部破片 口・(20.0) 高・(9.3)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は断面形がコの字状に近い形状 を呈する。口縁部はヨコナデ。胴部外 面はヨコ方向のヘラケズリ。内面はヨ コ方向のナデ。	
5	須恵器 甕	①②攪乱	胴部下位～底部 底・(13.4) 高・(5.4)	①白色・黒色鉍物粒 ②還元 ③灰	粘土紐の巻き上げあるいは輪積成形と 考えられる。胴部外面は最下位にヘラ ケズリ、他はヨコ方向のナデ。内面も 指頭による粗雑なナデ。	

## C区40号住居 (第351図 PL140)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①南東②床直	破片 口・(10.9) 底・(7.0) 高・(3.2)	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい褐	口縁部は平底の底部から屈曲、ナナメ 上方に向けて立ち上がる。成形が型作 りによるためか口縁部外面は先端のヨ コナデの他はヒビ割れ状の器面である。 底部外面はヘラケズリ。内面はヨコナ デ・ナデ。	

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
2	土師器 杯	①②掘り方	破片 口・(11.7) 底・(8.0) 高・(3.3)	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部はナナメ上方に向かって立ち上がり、先端にいたり弱く内側を向く。口縁部外面は先端のみヨコナデ。以下は成形時の面を残す。底部外面はヘラケズリ。内面はヨコナデ・ナデ。	内外面とも煤付着。内面、磨耗。
3	土師器 杯	①②埋没土	底部破片	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙		底部外面に墨書。判読不明。天地不明。
4	土師器 杯	①②掘り方	底部破片	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙		
5	土師器 杯	①南西②+ 8	底部破片	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙		
6	須恵器 杯	①②埋没土	破片 底・(7.0) 高・(2.2)	①粗砂少量 ②還元・軟質 ③浅黄	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り離した後未調整。	口縁部外面は磨耗が著しい。外面に墨書あり。判読不明。
7	須恵器 杯	①掘り方東 ②掘り方	1/2 口・(13.6) 底・(7.6) 高・3.8	①白色鉍物粒 ②還元 ③明灰黄	口縁部の先端は内面側が丸く肥厚する。右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離した後未調整。	口縁部外面の最下位および内面全体磨耗が著しい。
8	須恵器 杯	①南西・埋没土 ②床直・埋没土	1/4 口・(12.8) 底・(7.4) 高・(3.7)	①白色鉍物粒 ②還元 ③灰	右回転ロクロ成形。外面の一部に指があたっている。底部は回転糸切り離した後未調整。切り離しは粗雑。	底部内面は磨耗が著しい。
9	須恵器 杯	①掘り方南東 ②掘り方	3/4 口・13.7 底・6.6 高・4.3	①白色鉍物粒 ②還元 ③灰	口縁部はナナメ上方に向かって直線的に延びる。左回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し。周縁部にはナデ調整を加えていると思われる。	底部外縁から口縁部の立ち上がり部分は磨耗が著しい。

C区46号住居 (第353図 PL140)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②竈埋没土	1/3 口・(12.0) 底・(8.0) 高・3.3	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は平底の底部から屈曲、外傾弱く立ち上がり、上半でその度合いを強める。口縁部上半はヨコナデ。下半には成形時の面を残す。底部外面はヘラケズリ。	口縁部の先端の一部に煤付着。内外面とも磨耗している。
2	土師器 杯	①②貯蔵穴内	完形 口・12.0 底・8.4 高・3.2	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は平底の底部から屈曲、外傾弱く立ち上がる。先端はさらに外反する。口縁部は上半にヨコナデ。下半は成形時の面にナデ。底部外面はヘラケズリ。	底部外面は剥離が著しい。
3	土師器 杯	①北壁際 ②床直	ほぼ完形 口・11.6 底・7.8 高・3.5	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	器形は歪み平面形は楕円形をなす。口縁部は平底の底部から屈曲、ナナメ上方に向けて立ち上がる。口縁部外面は上半にヨコナデ、下半に成形時の面に弱いナデ。底部外面はヘラケズリ。	
4	土師器 杯	①②貯蔵穴	完形 口・11.9 底・8.0 高・3.2	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は平底の底部からナナメ上方に向けて立ち上がり、上半はさらに外反する。口縁部の上半にはヨコナデ。下半にはナデ。底部外面はヘラケズリ。	内面、口縁部上位に糸状の圧痕あり。
5	須恵器 杯	①南②+ 6	1/2 口・11.9 底・(5.2) 高・4.3	①粗砂・赤色粘土粒 ②還元 ③灰白	底径は小さい。右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離した後未調整。	外面の一部に炭化物付着。

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
6	須恵器 杯	①南東②+5	1/2 口・13.6 底・5.6 高・3.9	①粗砂・赤色粘土粒 ②還元・軟質 ③にぶい黄橙	器高は低い。口縁部の先端は外方につままれるように延びる。右回転ロクロ成形。底部は回転を伴う粗雑な糸切り離し後未調整。	
7	須恵器 杯	①南東・掘り方 ②+5・掘り方	2/3 口・13.9 底・6.2 高・4.4	①粗砂・赤色粘土粒 ②還元・軟質 ③浅黄	口縁部は先端にいたりつままれたように外方に延びる。右回転ロクロ成形。底部は回転を伴う糸切り離し後未調整。	
8	須恵器 高台付皿	①②竈焚口部	ほぼ完形 口・13.5 底・7.0 高・3.8	①粗砂 ②還元 ③黄橙	口縁部はみこみが浅く、ナナメヨコ方向に向かって延びている。右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後高台部を貼り付け。その後周縁部にナデを加える。	口縁部外面に刻書二文字。いずれも「真」か。内外面の一部に炭素吸着。
9	鉄製品 棒状品	①②埋没土	一部残存 長・(5.0) 幅・0.5 厚・0.5 重・3.99 g		断面四角形の棒状鉄で、上端は旧時欠損の可能性も考えられる。	
10	鉄製品 棒状品	①②埋没土	一部残存 長・(4.6) 幅・0.3 厚・0.4 重・1.77 g		断面四角形の棒状鉄で、上端は旧時欠損の可能性も考えられる。	

## C区47号住居 (第356・357図 PL141)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②土坑1埋没土	2/3 口・12.3 高・(3.6)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③明赤褐	口縁部は丸底ぎみの底部から屈曲ナナメ上方に向かって立ち上がる。先端は弱い波状を呈していたか。口縁部は上半がヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	混入品と考えられる。
2	土師器 杯	①②貯蔵穴	完形 口・12.3 底・9.0 高・3.4	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は平底の底部から屈曲、ナナメ上方に向かって立ち上がる。口縁部は上半をヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	底部内面に墨書「主」か。また内外面に炭素吸着。
3	土師器 杯	①②埋没土	1/2 口・14.0 高・4.1	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部はナナメ上方に向かって立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	内外面とも荒れている。混入品と考えられる。
4	須恵器 杯	①②埋没土	3/4 口・10.6 底・7.4 高・2.4	①白色鈹物粒・黒色鈹物粒少量 ②還元 ③灰白	右回転ロクロ成形。底部は回転を伴う糸切り離し後未調整。	口縁部は欠損後割れ口を丁寧に調整して二次利用している。
5	須恵器 高台付杯?	①②埋没土	破片 底・(12.6) 高・(2.1)	①白色・黒色鈹物粒 ②還元 ③灰白	右回転ロクロ成形。底部は回転を伴うヘラ調整で、低いケズリダシ高台部を付す。	混入品と考えられる。
6	須恵器 高台付碗	①②貯蔵穴	底部破片 底・7.0 高・(2.8)	①白色鈹物粒 ②還元・不良 ③にぶい黄橙	高台部はやや高くハの字状に開く。左回転ロクロ成形。底部は高台部貼付後周縁部にナデ調整を施す。	
7	土師器 台付甕	①②貯蔵穴	胴部中位～下位 2/3 高・(10.1)	①粗砂 ②酸化 ③灰黄褐	脚台部は剥離している。胴部外面はナナメタテ方向のヘラケズリ。内面はヘラナデ。	内外面とも剥離が著しい。

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
8	須恵器 瓶	①②竈焚口部	口縁部破片 口・(12.0) 高・(6.2)	①黒色鈹物粒 ②還元 ③暗灰黄	外傾弱く立ち上がり、外面に沈線が1本めぐる。	

C区49号住居 (第359図 PL141)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②掘り方	3/4 口・11.7 高・3.5	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部はナナメ上方に向かって立ち上がる。口縁部は先端のみヨコナデ。以下には成形時の面を残す。底部外面はヘラケズリ。	器面はやや磨耗している。重複の状況から48号住居に帰属する可能性もある。
2	土師器 台付甕	①東②床直	胴部下半～脚台部 底・(10.4) 高・(12.8)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③明赤褐	脚台部は低く、外反著しく延びる。胴部外面はタテ方向のヘラケズリ。内面はヘラナデ。脚台部は内外面ともヨコ方向のナデ。	
3	土師器 甕	①②埋没土	胴部下位～底部 1/3 底・(3.9) 高・(7.8)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③明赤褐	狭小な底部を有する。器面は全体に薄い。外面はタテ方向のヘラケズリ後一部ヘラナデ。内面はヘラナデ。	

C区48号住居 (第361図)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 甕	①北壁際②+6	胴部破片	①粗砂 ②還元・不良 ③黄灰	外面はタタキ目の上にナデを重ねる。内面は同心円状のアテ目を残す。	

C区51号住居 (第363図 PL141)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 碗	①②埋没土	口縁部下位～底部 破片 底・(6.7) 高・(2.0)	①粗砂少量 ②還元 ③暗灰黄	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離した後高台部貼り付け。その後周縁部にヨコナデ。	内面は磨耗している。
2	須恵器 碗	①②埋没土	口縁部下位～高台部 2/3 底・(7.1) 高・(1.5)	①粗砂・細砂 ②還元・軟質 ③にぶい橙	高台部は低い。右回転ロクロ成形。高台部貼り付け後周縁部にナデ調整。	欠損後著しく磨耗。
3	土師器 甕	①北東②床直	口縁部破片 口・(20.0) 高・(3.4)	①細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部はコの字状を呈する。ヨコナデを施す。	
4	土師器 小型甕	①②埋没土	口縁部～胴部 1/4 口・(10.0) 高・(8.3)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい褐	口縁部直線的に外傾弱く立ち上がり、先端が外方につままれたようにして終わる。口縁部はヨコナデ。胴部外面は上位がヨコ方向、中位がタテ方向のヘラケズリ。内面はヘラナデ。	
5	鉄製品 楔	①②掘り方	ほぼ完形 長・4.5 最大幅・1.7 厚・0.8 重・14.39g		表・裏面は下端に頂点を有する二等辺三角形、側面は板状を呈する。頭部辺の変形は敲打によるものか。	

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
6	石製品 砥石	①北西②床直	完形 長・12.0 幅・5.3 厚・3.1 重・249 g	石材 砥沢石	図、表面とした使用面は大きく反り返る。山形に屈曲した裏面も含め良く使用されている。上端は欠損面と考えられるが、多数の擦痕が認められることから欠損後も継続して使用されたことがわかる。	

## C区54号住居 (第365図 PL141)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 高台付椀	①北西②+3	口縁部下半～高台部2/3 底・7.1 高・(3.3)	①粗砂・細砂 ②還元 ③にぶい褐	高台部は低く、断面三角形を呈する。右回転ロクロ成形。高台部を貼付後周縁部をナデ調整。	器面の磨耗著しい。
2	須恵器 杯	①②埋没土・掘り方	2/3 口・(13.3) 底・6.2 高・3.7	①赤色粘土粒少量 ②還元 ③淡黄	口縁部は先端が外方につままれたように外反して立ち上がる。右回転ロクロ成形。底部は回転を伴う糸切り離し後未調整。	内外面とも磨耗著しい。
3	須恵器 杯	①②竈右袖前	3/4 口・15.2 底・6.0 高・6.1	①粗砂・赤色粘土粒 ②還元 ③淡黄	器高が高く深みを有する。口縁部は外傾して立ち上がり、先端にいたり弱く外反する。右回転ロクロ成形。底部は回転を伴う糸切り離し後未調整。	内外面とも磨耗が著しい。
4	須恵器 杯	①北東・埋没土 ②床直・埋没土	ほぼ完形 口・12.2 底・5.6 高・3.7	①白色鉱物粒・礫大のチャート ②還元 ③灰白	器肉は全体にやや厚い。口縁部はナメ上方に向けて立ち上がる。右回転ロクロ成形。底部は回転を伴う糸切り離し後未調整。	外面の口縁部最下位から底部周縁および内面全面は磨耗している。
5	須恵器 杯	①②埋没土	口縁部上半1/2 口・13.9 高・(2.6)	①赤色粘土粒 ②還元 ③灰黄	口縁部は外反して立ち上がる。右回転ロクロ成形。	内外面とも磨耗・剥離が著しい。
6	土師器 甕	①②埋没土	胴部最下位～底部1/3 底・(5.5) 高・(3.2)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	胴部・底部とも外面はヘラケズリ。内面はヘラナデ。	
7	灰釉陶器 瓶?	①②ピット1・埋没土	胴部破片	①黒色鉱物粒 ②還元 ③灰白	右回転ロクロ成形。外面全面に釉がかけてられている。	8・9と同一個体か
8	灰釉陶器 瓶?	①②ピット1	胴部破片	①黒色鉱物粒 ②還元 ③灰白	断面が強い弧状を呈する。右回転ロクロ成形。外面全面に釉がかかる。	7・9と同一個体か
9	灰釉陶器 瓶?	①②竈右袖前・掘り方	胴部破片	①黒色鉱物粒 ②還元 ③灰白	右回転ロクロ成形。残存部の中位から下位には回転を伴うヘラケズリが施される。	7・8と同一個体か

## C区61号住居 (第367図 PL141)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①東壁際②+4	ほぼ完形 口・11.8 高・3.5	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は底部から外傾弱く立ち上がるが、器形は不整形で歪みが著しい。口縁部は上半をヨコナデ。下半はナデ調整。底部外面はヘラケズリ。	外面の一部に炭素吸着。煤か。
2	須恵器 杯	①②埋没土	破片1/4 口・(14.1) 底・(7.8) 高・(2.8)	①粗砂少量 ②還元 ③灰白	口縁部は底部から屈曲して立ち上がり、下位で弱い変換点を経た後外傾強く延びる。右回転ロクロ成形。底部は回転を伴う糸切り離し後未調整。	

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
3	須恵器 杯	①南・掘り方 ②床直・掘り方	1/3 口・(13.3) 底・(7.8) 高・3.1	①黒色鉱物粒少量 ②還元 ③灰	口縁部は外傾著しく立ち上がる。右回転ロクロ成形と考えられ、底部にはヘラ調整が施される。	
4	須恵器 杯	①②埋没土	1/4 口・(12.8) 底・(7.8) 高・4.2	①黒色鉱物粒少量 ②還元 ③黄灰	口縁部は外傾弱く立ち上がる。右回転ロクロ成形と思われる。底部は回転を伴うヘラナデ調整を施す。	
5	須恵器 杯	①②掘り方	底部破片 底・6.2 高・(2.7)	①粗砂・赤色鉱物粒 ②還元・軟質 ③にぶい橙	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り離した後未調整。	
6	土師器 甕	①②掘り方	底部破片 底・(4.6) 高・(2.5)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③灰黄褐	底部は狭小な平底。胴部外面はヘラケズリ。内面はヘラナデ。	7と同一か。
7	土師器 甕	①②掘り方	口縁部破片 口・(18.0) 高・(6.3)	①細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は直立ぎみに立ち上がった後中位で変換、上半は弱く外傾ぎみに延びる。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヨコ方向のヘラケズリ。内面はヘラナデ。	6と同一か。
8	須恵器 甕	①南②+4	胴部破片	①白色鉱物粒 ②還元 ③灰	外面はタタキ目が残る。内面は丁寧になデている。	
9	鉄製品 棒状品	①②埋没土	一部残存 長・(3.0) 幅・0.4 厚・0.5 重・1.71 g		断面四角形の棒状品。上端の欠損は旧時か。下端がやや細くなることから釘の可能性が考えられる。	

C区66号住居 (第369図 PL142)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 甕	①②竈焚口部・埋没土	ほぼ完形 口・19.0 底・4.5 高・27.2	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は断面がコの字状を呈する。先端は弱い受け口状となり、外側に面をなす。口縁部は上半に強いヨコナデを施す。胴部外面は上位がナナメヨコ方向、中位以下はナナメタテ方向のヘラケズリ。一部にナデを重ねている。内面は丁寧なナデ調整を施す。	

C区68号住居 (第372図 PL142)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②埋没土	1/4 口・(12.0) 高・(3.1)	①細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は底部から丸味をおびながら屈曲、外反ぎみに延びる。口縁部はヨコナデ。底部外面は下半にヘラケズリ。内面はナデ。	
2	須恵器 杯	①②埋没土	1/4 口・(12.4) 底・(6.4) 高・3.2	①黒色鉱物粒少量 ②還元 ③灰白	口縁部はわずかに彎曲しながら外傾著しく立ち上がる。右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離した後未調整。	
3	須恵器 杯	①②埋没土	1/4 口・(12.1) 底・(6.0) 高・3.6	①黒色鉱物粒微量 ②還元 ③灰白	口縁部はナナメ上方に向かって立ち上がる。右回転ロクロ成形と考えられる。底部は回転糸切り離した後未調整。底部の切り離しは一度失敗しており、そのため器肉が厚くなっている。	

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
4	須恵器 杯	①②埋没土	1/4 底・(6.0) 高・(1.4)	①細砂 ②還元 ③灰白	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し。	口縁部の外面、底部外面に墨書あり。判読不明。
5	須恵器 蓋	①②埋没土	1/3 口・(18.0) 高・(2.2)	①黒色鉱物粒 ②還元 ③灰白	天井部は低くあまりふくらまない。裾部はほぼ直角に折れ端部となる。右回転ロクロ成形。上位は回転を伴うヘラケズリ。	
6	土師器 甕	①②竈燃焼部	口縁部～胴部上位 口・(21.0) 高・(6.5)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③明赤褐	口縁部は断面コの字状を呈する。口縁部はヨコナデ。底部外面はヨコ方向のヘラケズリ。内面はヨコ方向のナデ。	
7	土師器 甕	①②竈燃焼部・ 竈埋没土	胴部下位～底部 底・(4.2) 高・(3.5)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい褐	胴部外面はタテ方向のヘラケズリ。内面はヘラナデ。	
8	土師器 甕	①②竈燃焼部	胴部下位～底部 底・(4.2) 高・(4.1)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③褐	胴部外面はタテ方向のヘラケズリ。内面はヘラナデ。	

## C区70号住居 (第375・376図 PL142)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②竈埋没土	破片 口・(10.6) 底・(6.2) 高・(3.3)	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は平底の底部から屈曲、ナナメ上方に向かって立ち上がる。中位に変換点を有し、これより先は外傾の度合いを強める。口縁部は上半にヨコナデ。下半にナデ調整。	
2	土師器 杯	①②ビット7	1/2 口・(12.0) 底・(8.4) 高・3.5	①粗砂 ②酸化 ③にぶい赤褐	口縁部はナナメ上方に向かって立ち上がり、先端のみ強く外反する。口縁部は上半のみヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面はヨコナデ・ナデ。	
3	土師器 杯	①②埋没土	3/4 口・11.9 底・7.6 高・3.6	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部はナナメ上方に向かって立ち上がり、中位からその度合いを高める。成形はいわゆる型づくりによると考えられ外面にひび割れ状の箇所を多数残す。口縁部は上半にのみヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面はナデ。	
4	土師器 杯	①②埋没土	2/3 口・(11.7) 底・7.8 高・3.6	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部はナナメ上方に向けて立ち上がる。丁寧なナデ後上半のみヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面はヨコナデ・ナデ。	底部外面に墨書。判読不明。
5	須恵器 杯	①②埋没土	破片 口・(13.9) 高・(3.2)	①粗砂・細砂 ②還元・不良 ③にぶい黄橙	右回転ロクロ成形と考えられる。	内面黒色処理。外面も先端寄りに炭素吸着。
6	須恵器 杯	①②竈焚口部・ ビット7	1/3 口・(12.2) 底・(6.0) 高・3.9	①礫大の白色鉱物粒 ②還元 ③灰	口縁部は彎曲ぎみに立ち上がり、先端にいたり強く外反する。右回転ロクロ成形。底部外面はナデ調整か。外面にはロクロ目をよく残す。	
7	須恵器 高台付皿	①②竈燃焼部	ほぼ完形 口・13.7 底・8.0 高・2.8	①赤色粘土粒少量 ②還元・軟質 ③橙	口縁部は外傾著しく、ナナメヨコ方向に延びる。先端はさらに反り返る。高台部はやや高く、断面ハの字状、接地面の中央は小さく凹む。右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離した後高台部を貼り付け、周縁部をナデ調整。	
8	須恵器 高台付椀	①②埋没土	口縁部下位～底部 底・7.2 高・(2.5)	①粗砂少量 ②還元 ③灰黄	底部には低い高台部を付す。右回転ロクロ成形。高台部貼り付け後周縁部にナデ調整。	高台部端部は著しく磨耗する。

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P LNo	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
9	土師器 台付甕	①②竈燃焼部・ 竈埋没土・ピット7	胴部～脚台部 底・(9.3) 高・(11.3)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	脚台部は低く、裾部に向かって大きく外反する。胴部外面は下位にタテ方向のヘラケズリ後中位のヨコ方向のヘラケズリを施す。脚台部外面はヨコナデ。胴部内面はヘラナデ。	外面は剥離が著しい。
10	土師器 甕	①②竈焚口部	口縁部～胴部上位 口・(18.0) 高・(7.1)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は弱く内傾ぎみに立ち上がった後中位で屈曲、上半は外傾する。口縁部は一部に成形時の面を残しながらヨコナデを施す。胴部外面はヨコ方向のヘラケズリ。内面はヘラナデ。	
11	土師器 甕	①②竈埋没土	口縁部破片 口・(20.0) 高・(5.3)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は胴部から若干内傾ぎみに立ち上がるが、中位で屈曲、外傾して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヨコ方向のヘラケズリ。内面はヨコ方向のナデ。	
12	土師器 甕	①②竈埋没土・ 埋没土・掘り方 ピット10・掘り方	口縁部～胴部上位 口・(19.5) 高・(5.5)	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は断面口の字状を呈する。先端は丸味をおびる。口縁部は一部にナデを残すがほぼ全体にヨコナデ。胴部外面はヨコ方向のヘラケズリ。内面はヨコ方向のナデ。	
13	土師器 甕	①②竈掘り方燃 焼部・ピット9 ・埋没土	口縁部～胴部中位 口・18.5 高・(15.0)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は断面口の字状を呈する。先端は弱く尖り外側に面をもつ。口縁部はヨコナデ。下半には一部成形時の面を残す。胴部外面は上位がヨコ・ナナメヨコ方向、中位以下はナナメタテ方向のヘラケズリ。内面はヨコ方向のヘラナデ。	破砕後火熱を受けている。
14	土師器 甕	①②竈燃焼部・ 竈埋没土	1/4 口・(20.4) 高・(20.2)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は断面口の字状を呈する。先端は外面に面をもち、弱くそがれる。口縁部は中位に成形時の面を残してヨコナデ。胴部外面は上位はヨコ方向、中位以下はナナメタテ方向のヘラケズリ。内面はヨコ・ナナメ方向のヘラナデ。	
15	土師器 甕	①②竈埋没土・ ピット7	胴部下位～底部 底・4.2 高・(7.4)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③明赤褐	胴部外面はタテ方向のヘラケズリ。一部にナデを重ねる。内面はヘラナデ・ユビナデ。	
16	鉄製品 釘?	①東②+4	ほぼ完形か 長・5.8 幅・0.8 厚・0.7 重・12.30g		断面四角形の棒状品である。上端が変形している状況。下端がその幅をやや狭めることから釘の可能性を考えたい。	
17	須恵器 横瓶	①②ピット8	胴部破片	①白色鈳物粒 ②還元 ③灰	粘土紐の巻き上げあるいは輪積による成形と考えられる。外面はナナメ方向の平行タタキ後ヘラナデ、部分的にヘラケズリを施す。内面には深いアテ目をナデ消している。	天地不明。

C区72号住居 (第378図 PL143)

挿図番号 P LNo	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①貯蔵穴・掘り 方南東隅 ②貯蔵穴・掘り 方	2/3 口・11.9 底・8.2 高・3.4	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は底部から屈曲、外傾弱く立ち上がる。口縁部外面は上位のみヨコナデ。底部外面は弱いタッチのヘラケズリ・ナデ。内面にはヨコ方向の調整に使用した工具痕がハケメ状に残る。	内外面の一部に炭素吸着。
2	土師器 杯	①②埋没土・掘り 方	ほぼ完形 口・12.4 底・8.4 高・3.2	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	器形の歪みが著しい。口縁部は底部から屈曲、ナナメ上方に向けて立ち上がる。口縁部外面は上位のみヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	内外面に炭素吸着。

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
3	須恵器 杯	①②埋没土	破片 口・(9.2) 底・(7.0) 高・3.9	①白色・黒色鈳物粒 ②還元 ③灰白	口縁部は下位で屈曲、ほぼ直立ぎみに立ち上がり、先端で尖る。右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後未調整。	
4	須恵器 杯	①②埋没土	1/2 口・(13.1) 底・7.6 高・(3.7)	①赤色粘土粒・白色鈳物粒 ②還元 ③灰白	口縁部は曲線を描きながらナナメ上方に向かって立ち上がる。右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後未調整。	底部外面に墨書。「矢」か。
5	須恵器 杯	①②埋没土・掘り方	底部破片 底・6.8 高・(2.1)	①白色鈳物粒 ②還元 ③灰白	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後未調整。	底部内面に墨書。「真継」。口縁部欠損後も二次利用か。
6	須恵器 杯	①②掘り方	1/3 口・(13.0) 底・(6.0) 高・2.9	①粗砂 ②還元 ③灰白	口縁部は外傾著しく立ち上がり、先端にいたりさらに弱く外反する。右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後未調整。	
7	須恵器 杯	①②掘り方	3/4 口・13.5 底・6.7 高・3.8	①礫大のチャート・粗砂 ②還元 ③浅黄	口縁部は曲線を描きながらナナメ上方に向かって立ち上がり、先端にいたり弱く外反する。右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後未調整。	内面は磨耗著しい。
8	須恵器 高台付皿	①東②床直	1/2 口・(13.4) 底・6.1 高・2.5	①礫・粗砂多量 ②還元 ③灰白	口縁部はナナメヨコ方向に延びる。高台部は真下に延び内縁が接地する。右回転ロクロ成形と考えられる。底面は高台部貼付後ナデを加えている。口縁部は断面コの字状を呈する。口縁部外面は中位を除いてヨコナデを施す。	内面磨耗、および炭素吸着。割れ口の一部分も磨耗が著しい。
9	土師器 甕	①竈燃烧部・竈焚口部・竈焚口部周辺・貯蔵穴・中央埋没土 ②竈燃烧部・竈焚口部・竈焚口部周辺貯蔵穴・+7・埋没土	1/3 口・(20.7) 高・(21.5)	①粗砂 ②酸化 ③橙	胴部外面は上位はヨコ方向、中位以下はナメタテ方向のヘラケズリを施す。胴部内面はヨコ方向のナデ。	
10	須恵器 瓶	①②埋没土	胴部破片	①黒色鈳物粒 ②還元 ③灰黄	右回転ロクロ成形。外面には釉がかかる。	

## C区75号住居 (第380図 PL143)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②貯蔵穴・埋没土	完形 口・12.6 高・3.2	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	器形はやや変形。平面形は長円形を呈す。口縁部は底部から彎曲後ほぼ上方に向けて立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面はナデ。	底部外面に墨書。「足」。
2	土師器 杯	①②竈燃烧部	2/3 口・12.9 高・3.5	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙	口縁部はわずかな弧を描きながらナナメ上方に延びる。底部は浅い丸底。口縁部外面は下半にヘラケズリ後、上半にヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面は棒状工具によるミガキを口縁部には放射状に、底部には螺旋文状に施している。	
3	土師器 杯	①②埋没土	破片 口・(12.8) 高・(3.3)	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部はわずかに外傾して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は最下位のみヘラケズリ。	

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
4	土師器 杯	①②埋没土	破片 口・(14.3) 高・(3.2)	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部ヨコナデ。底部外面は下位のみヘラケズリ。	
5	須恵器 杯	①②埋没土	口縁部～底部破片 口・(12.8) 底・(7.6) 高・(3.3)	①白色・赤色鉱物粒 ②還元 ③灰	口縁部はナナメ上方に向かって立ち上がる。右回転ロクロ成形。口縁部外面の下位と底部外面に回転を伴うヘラケズリ調整を施す。	
6	須恵器 杯	①②埋没土	破片 口・(13.0) 高・(2.8)	①細砂 ②還元 ③灰	右回転ロクロ成形と考えられる。	
7	灰釉陶器? 杯	①②埋没土	破片 口・(15.5) 高・(3.3)	①細砂少量 ②還元 ③灰黄	ナナメ上方に向かって立ち上がる。右回転ロクロ成形。残存部最下位にヘラケズリが観察できる。	外面に釉が施される。
8	須恵器 杯	①②竈燃焼部	口縁部破片 口・(13.0) 高・(3.1)	①粗砂・細砂 ②還元 ③灰	先端はつままれたように外反して立ち上がる。器肉は全体に薄い。右回転ロクロ成形と考えられる。	
9	須恵器 高台付椀	①②竈燃焼部	1/2 口・(15.5) 底・6.8 高・5.1	①礫少量・粗砂 ②還元 ③灰白	口縁部は彎曲しながらナナメ上方に大きく立ち上がる。先端は弱く外反する。高台部は断面三角形。右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離した後高台部を貼付。周縁部にヨコナデを施す。	
10	石器 敲石	①②竈燃焼部	完形 長・10.7 幅・6.1 厚・2.2 重・235 g	石材 粗粒輝石安山岩	器面全体が平滑になっている。図、左側縁に敲打によると思われる痕跡がある。	
11	石製品 砥石	①②竈焚口部	完形 長・15.5 幅・4.5 厚・3.2 重・380 g	石材 細粒輝石安山岩	平面形は短冊状を呈し、表裏面には扁平な礫としての自然面を、両側面には割れ(割り)口を有している。表面を使用面としているが裏・両側面にも磨耗痕が認められる。	

C区76号住居 (第383・384図 PL143・144)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②竈焚口部前 ・竈焚口部・竈 燃焼部・竈埋没 土	2/3 口・12.2 底・9.1 高・4.6	①粗砂 ②酸化 ③橙	器肉が著しく厚い。口縁部はナナメ上方に向かって立ち上がり、上位で直立きみになり先端にいたる。口縁部は上位にヨコナデ。それ以下はわずかに間隔を開けて大きな単位でヨコ方向のヘラケズリ。底部外面はヘラケズリ。内面はヨコナデ。	破碎後火熱を受けている。
2	土師器 杯	①南東②床直	ほぼ完形 口・12.8 底・9.9 高・4.5	①粗砂 ②酸化 ③橙	器肉が厚く重量を有する。口縁部はナナメ上方に向けて立ち上がり、上位で変換、直立きみに先端にいたる。口縁部のヨコナデと、それ以下のヘラケズリの前後関係は不明瞭。底部外面もヘラケズリと思われるが、磨耗きみ。	口縁部の欠損は旧時か。器面は全体的に磨耗きみ。
3	土師器 杯	①②埋没土	1/3 口・(11.9) 高・3.6	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は外傾弱く立ち上がるが、中位は大きくへこむ。口縁部上半にのみヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。	内面の一部に炭化物付着。
4	土師器 杯	①南西隅②+8	完形 口・11.4 高・3.4	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は底部から丸味をもって立ち上がり、外方に弱く延びる。口縁部はヨコナデ。底部は中央寄りにヘラケズリを施す。	器面に炭素吸着。
5	土師器 杯	①南東隅②+9	3/4 口・11.8 高・3.3	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部は底部から彎曲後外傾弱く立ち上がる。口縁部は上半のみヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面はヨコナデ・ナデ。	内面の一部に炭化物付着。

挿図番号 P L.No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考		
6	須恵器 杯	①②掘り方	1/4 口・(12.6) 底・(6.8) 高・4.0	①細砂少量 ②還元・軟質 ③灰白	口縁部は底部から彎曲して立ち上がる。上半は直線的に延びる。右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後未調整。口縁部外面下位には回転を伴うヘラケズリが加えられている。			
7	須恵器 杯	①②埋没土	破片 口・(13.3) 底・(7.7) 高・3.7	①白色鈳物粒 ②還元 ③黄灰	右回転ロクロ成形。			
8	須恵器 碗	①②埋没土	口縁部破片 口・(18.0) 高・(4.8)	①黑色鈳物粒発泡 ②還元 ③灰白	口縁部は先端がわずかに外反する。右回転ロクロ成形。ロクロ目をよく残す。			
9	須恵器 高台付碗	①②竈焚口部 前・竈埋没土	1/4 口・(17.1) 底・(11.3) 高・7.7	①赤色鈳物粒 ②還元・軟質 ③灰白	口縁部は底部から丸味をおびて屈曲、その後は外傾弱く直線的に延びる。内外面にロクロ目をよく残す。高台部はハの字状を呈する。右回転ロクロ成形と思われる。底部は回転ヘラケズリ調整後高台部を貼付している。			
10	土師器 甕	①②竈焚口部 前・竈埋没土・ 埋没土	1/3 口・(21.2) 高・(24.4)	①細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は断面コの字状に近い形状。先端は弱い受け口状を呈する。口縁部はヨコナデ。胴部外面は上位をヨコ、あるいはナナメヨコ方向にヘラケズリ後胴部中位以下を上から下へナナメタテ方向にヘラケズリ。内面はヘラナデ。			
挿図番号 P L.No	種別 銭貨名	出土位置 ①平面②垂直	銭外径 (mm)	銭内径 (mm)	銭厚 (mm)	重さ (g)	初鑄年代 国名	備考
11	銅銭 神功開寶	①②北東埋没土	A (25.37) B 25.84	C 20.59 D 20.90	① 1.58 ② 1.56 ③ 1.78 ④ 1.61	2.48	765年 日本	左上部分一部欠損。
挿図番号 P L.No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考		
12	石製品 不明	①詳細不明 ②床直	完形 縦・2.5 横・2.4 厚・0.5 重・140g	石材 不明	板状の原石の各縁辺を調整。ボタン状に仕上げている。			
13	石製品 砥石	①南西隅 ②床直	ほぼ完形 長・9.0 幅・3.9 厚・2.7 重・139g	石材 砥沢石	長さは短い糸巻き状の形状を呈している。4面とも使用されているが表面を除く3面には長軸方向に深い擦痕がみられる。			

## C区78号住居 (第386図 PL144)

挿図番号 P L.No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 杯	①北西②+7	底部破片 底・(8.0) 高・(1.1)	①粗砂・赤色粘土粒 ②還元・不良 ③にぶい赤褐	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後未調整。	
2	須恵器 杯	①②埋没土	口縁部破片 口・(16.6) 高・(4.4)	①粗砂・赤色粘土粒 ②還元・不良 ③にぶい橙	口縁部は深みを有しナナメ上方に向けて立ち上がる。右回転ロクロ成形か。	碗の可能性も考えられる。
3	須恵器 高台付碗	①②掘り方	1/3 口・(13.6) 高・4.9	①粗砂・細砂少量 ②還元・軟質 ③にぶい黄橙	口縁部は曲線を描きながらナナメ上方に向けて立ち上がる。右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後高台部貼付。	高台部欠損後も杯として二次利用している。器面の磨耗著しい。

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
4	須恵器 高台付椀	①東・竈 ②竈・床直	1/3 口・(15.4) 底・6.8 高・4.8	①粗砂 ②還元・軟質 ③灰白	口縁部はナナメ上方に向けて立ち上がり、先端はさらに外反する。高台部は低く裾部は外反ぎみに延びる。右回転ロクロ成形。高台部貼り付け後周縁部をナデ調整。	器面は磨耗著しい。
5	石器 凹石	①北西②床直	完形 長・11.4 幅・8.5 厚・4.0 重・389 g	石材 粗粒輝石安山岩	図、表面は側縁に打ち欠いた痕跡がある。他は器面全体が磨面となっている。裏面には中央から下端寄りに敲打痕が集中する。右側面にも敲打痕がみられる。	

C区50号住居 (第388図)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②埋没土	破片 口・(13.2) 高・(2.6)	①粗砂 ②酸化 ③橙	口縁部はナナメ上方に向かって立ち上がる。先端は内側を向く。口縁部はヨコナデ。	
2	土師器 甕	①②埋没土	胴部下位～底部破片 底・(8.8) 高・(3.8)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	外面はヘラナデ。	内面の剥離が著しい。弥生土器の可能性もあるか。

C区3号掘立柱建物 (第392図)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 瓶?	①P 4 ②埋没土	胴部破片	①白色鉍物粒 ②還元 ③灰	ロクロ成形。外面にはヘラケズリを施す。	

C区4号掘立柱建物 (第393図)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 蓋	①P 6 ②埋没土	破片 口・(16.1) 高・(1.4)	①黒色鉍物粒 ②還元・軟質 ③灰白	先端は直角に折れ曲がる。右回転ロクロ成形と考えられる。	

奈良・平安時代の遺構外出土遺物 (第395図 PL144)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①B区45H-4 ②表土	1/2 口・(12.9) 高・(2.1)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は平底の底部から屈曲、外傾弱く直立ぎみに立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	
2	土師器 杯	①B区45D-15 ②表土	ほぼ完形 口・13.3 高・3.7	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部はあまり内彎することなく上方に立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上位の一部を除いてヘラケズリ。内面はヨコナデ・ナデ。	
3	土師器 杯	①B区1号溝 ②表土	1/3 口・(13.3) 高・(3.3)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は下半にヘラケズリ。内面はヨコナデ・ナデ。	器形は著しく歪んでいる。
4	土師器 杯	①A区22号溝 ②埋没土	1/4 口・(11.6) 高・(3.0)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい褐	口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は下半にヘラケズリ。	

## C区78号・50号住居、3号・4号掘立柱建物、奈良・平安時代の遺構外出土遺物

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
5	土師器 杯	①C区55K-19 ②埋没土	口縁部破片 高・(2.6)	①粗砂少量 ②酸化 ③橙	口縁部は外傾弱く立ち上がる。	口縁部外面に墨書。判読不明。
6	土師器 杯	①C区55A-11 ②埋没土	底部破片	①粗砂・細砂 ②酸化 ③にぶい橙		底部外面に墨書。判読不明。
7	須恵器 杯	①②C区表土	底部破片 底・(8.1) 高・(1.6)	①粗砂・細砂 ②還元 ③灰黄	右回転ロクロ成形。口縁部の最下位にはヘラケズリが施される。底部は回転糸切り離した後周縁部のみヘラ調整を加える。	
8	須恵器 杯	①B区44T-4 周辺 ②埋没土	1/4 口・(11.8) 高・3.0	①黒色鈹物粒少量 ②還元 ③灰白	右回転ロクロ成形。底部は回転を伴うヘラ切り離し。	
9	須恵器 杯	①②C区表土	底部破片 底・(7.2) 高・(0.9)	①白色鈹物粒 ②還元 ③灰	右回転ロクロ成形か。底部は切り離した後ナデ調整が施されている。	
10	須恵器 杯	①②C区表土	口縁部下位～底部破片 底・(7.0) 高・(1.7)	①白色・黒色鈹物粒 ②還元 ③黄灰	右回転ロクロ成形と考えられる。底部はヘラによる切り離し。	
11	須恵器 杯	①②C区表土	底部破片 底・(8.0) 高・(0.9)	①細砂・海面骨針 ②還元 ③黄灰	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離した後周縁部のみヘラケズリを施す。	
12	須恵器 高台付杯	①B区44T-3・44H-4 ②埋没土	2/3 口・(14.6) 底・11.3 高・3.6	①白色・黒色鈹物粒 ②還元 ③灰	口縁部は浅く、直線的に外傾して立ち上がる。高台部は低く断面四角形状を呈して外傾する。右回転ロクロ成形。底部は回転を伴うヘラケズリ調整。	
13	須恵器 高台付杯	①B区44T-4 周辺 ②埋没土	口縁部下位～底部破片 底・(10.0) 高・(2.0)	①白色鈹物粒 ②還元 ③浅黄	高台部は低く、先端は丸味をおびる。右回転ロクロ成形。底部は回転を伴うヘラケズリ調整後高台部を貼り付け。周縁部にナデ調整。	
14	須恵器 蓋	①②B区表土	天井部上半 摘径・(5.0) 高・(2.3)	①白色鈹物粒少量 ②還元 ③灰白	摘部はリング状を呈し、高さを有する。右回転ロクロ成形。	
15	須恵器 蓋	①B区44T-4 周辺 ②埋没土	天井部上半 摘径・4.1 高・(1.9)	①白色鈹物粒 ②還元 ③浅黄	摘部は扁平なボタン状を呈し、中央が凹む。右回転ロクロ成形。	磨耗が著しい。
16	須恵器 蓋	①②C区表土	摘部 摘径・1.3 高・(1.2)	①細砂 ②還元 ③黄灰	天井部にはボタン状の摘が付く。右回転ロクロ成形か。	
17	須恵器 壺	①②C区表土	底部破片 底・(5.3) 高・(4.4)	①細砂 ②還元 ③灰黄	細い頸部を有する形状か。高台部は低い、幅広く、安定している。右回転ロクロ成形。胴部下位にはヘラナデが加えられている。底部外面は丁寧なナデている。	内面に一部自然釉が付着。
18	須恵器 短頸壺?	①B区55F-4 ②埋没土	口縁部～胴部上位 口・(14.0) 高・(10.2)	①粗砂少量 ②還元 ③にぶい黄橙	口縁部は短く立ち上がる。胴部は内外面とも右回転ロクロによるヘラナデ調整を施す。	

## (5) 中・近世の遺構出土遺物

## A区2号井戸 (第406図 PL144)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	石製品 茶臼	①②埋没土	1/4 直径・(20.6) 高・11.6 重・4.176 g	石材 粗粒輝石安山 岩	下臼。磨り合わせ面の周囲にはんざり が大きく張り出す形状である。直径は 磨り合わせ面で20.6cm、はんざりで43.4 cm、下端で32.4cmを各々想定できる。磨 り合わせ面は平坦で、ふくみはほとん どない。中央に直径2.5cm以下の芯棒穴 があり、下端まで貫通している。分画 は8分画と考えられ、副溝の間隔は5 ・6mmである。面の磨耗はあまり顕著 ではない。底部は凸面状にくり込んで おり、芯棒部分での厚さは3.3cmである。 この部分には粗雑な工具痕が残されて いるが、その他の各面は丁寧な仕上げ で平滑に調整されている。	磨り合わせ 面の端部や はんざりの 外縁にみら れる破損部 は旧時のも のである。 はんざりに 黒色の付着 物が認めら れる。

## A区3号井戸 (第406図 PL144)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	石製品 石臼	①②埋没土	破片 直径・(31.0) 高・12.0 重・1.721 g	石材 粗粒輝石安山 岩	上臼。上縁部の立ち上がりは外縁側が 丸味をおびている。供給口は一部分の 残存であるが磨り合わせ面側の直径が 大きい。磨り合わせ面は著しく磨耗し ており、わずかに分画の溝が認められ るだけである。	

## A区6号井戸 (第407図 PL144)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	石製品 石臼	①②埋没土	破片 直径・(31.0) 高・(10.6) 重・760 g	石材 粗粒輝石安山 岩	下臼。上半の破片である。側面にはハ ツリ痕が認められる。磨り合わせ面は わずかにふくみを有し凸面状をなす。 副溝の間隔は3.0cm前後である。	直径はもっ と大きくな る可能性が ある。
2	須恵器 甕	①②埋没土	胴部破片	①黒色鈳物粒発泡 ②還元 ③黄灰	外面には平行タキ目が、内面には同 心円文状のアテ目がみられる。	3・4と同 一物体。
3	須恵器 甕	①②埋没土	胴部破片	①黒色鈳物粒発泡 ②還元 ③黄灰		2・4と同 一物体。
4	須恵器 甕	①②埋没土	胴部破片	①黒色鈳物粒発泡 ②還元 ③黄灰		2・3と同 一物体。

## B区1号井戸 (第407図 PL145)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	石製品 五輪塔	①②埋没土	完形 直径・24.6 高・15.1 重・10.310 g	石材 粗粒輝石安山 岩	水輪。上下両端を裁断した球体で、上 下両端面は凹面状を呈している。上面 の直径は18.3cm、下面の直径は16.9cmを 測る。側面の描く曲線は、そろばん玉 状で、最大径は中位よりも上にある。	

## B区2号井戸（第407図 PL145）

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 杯	①②埋没土	底部1/2 底・6.6 高・(1.5)	①黒色鉱物粒発泡 ②還元 ③灰	右回転ロクロ成形。底部は回転を伴うヘラケズリ調整を施す。口縁部最下位にもヘラケズリ。	
2	須恵器 杯	①②埋没土	口縁部下半～底部 底・7.7 高・(1.7)	①黒色鉱物粒 ②還元 ③灰	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離した後中央部分を除いてヘラケズリ調整。	
3	須恵器 蓋	①②埋没土	摘部欠損1/4 口・(19.0) 高・(3.0)	①白色鉱物粒 ②還元・やや軟質 ③灰	端部は屈曲、ほぼ直角に折れ曲がる。右回転ロクロ成形。摘部寄りの天井部外面にはヘラケズリが施される。	
4	土師器 甕	①②埋没土	底部 底・3.0 高・(1.8)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙	胴部は横に張り出すか。胴部外面はヘラケズリ。内面はヘラナデ。	
5	須恵器 甕	①②埋没土	口縁部～胴部上位 破片 高・(7.3)	①白色鉱物粒 ②還元 ③暗緑灰	口縁部外面の先端直下には沈線状の凹部を挟み断面M字状の小さな突帯がめぐる。胴部外面には平行タタキ目がみられる。	内外面の一部に自然釉が付着。
6	須恵器 長頸壺	①②埋没土	頸部 高・(6.6)	①白色・黒色鉱物粒 ②還元 ③灰	残存は口縁部の下半である。筒状を呈し、上端がわずかに外反をはじめている。下端は胴部との接合部分での欠損である。外面には右回転でカキ目状の調整が加えられている。	

## B区3号井戸（第408図 PL145）

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	軟質陶器 焙烙	①②埋没土	口縁部破片 口・(39.7) 高・(4.6)	①粗砂・細砂 ②還元 ③黒褐	口縁部の先端は平坦面をなすが内側の稜は面取りがなされている。口縁部の外面は中位までがヨコナデ。それより下位にはナデ・ヘラケズリが施されている。内面はヨコナデ。	在地系。 江戸。
2	軟質陶器 鍋	①②埋没土	口縁部破片 口・(42.0) 高・(5.4)	①粗砂・細砂 ②還元 ③黒	口縁部・胴部はナメ上方に向かって立ち上がる。先端は内側が明瞭に屈曲、水平方向に延びている。外面は口縁部にヨコナデを施すが他はナデ。内面は丁寧なナデ。	在地系。 江戸。
3	施釉陶器 甕	①②埋没土	胴部破片	①礫・粗砂大の長石 ②還元 ③灰	外面は粗雑なハケメと粗雑なナデが重なる。	内面は磨耗著しい。
4	施釉陶器 甕	①②埋没土	胴部破片	①白色鉱物粒 ②還元 ③灰褐	内面に自然釉。	常滑。 近世～近代。
5	石製品 砥石	①②埋没土	完形 長・4.0 幅・3.3 厚・1.4 重・7g	石材 軽石	小礫の一部を研磨に使用した結果、平坦面が形成されたと考えられる。器面は平滑で擦痕は全くみられない。	
6	石製品 砥石	①②埋没土	完形 長・5.3 幅・4.1 厚・2.4 重・42g	石材 軽石	平面台形状の板状品である。図、裏面を除く5面が磨面として使用されている。各面とも顕著な擦痕等はみられない。	

C区 1号井戸 (第408図 PL145)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	施釉陶器 丸皿	①②埋没土	口縁部破片 口・(12.4) 高・(2.1)	①粗砂大の長石 ②還元 ③浅黄	焼成不良である。	瀬戸・美濃。 17世紀か。
2	施釉陶器 皿	①②埋没土	底部 底・(4.0) 高・(2.2)	①黒色鉾物粒 ②還元 ③灰白	内面に花の文様。鉄絵具と呉須による 型紙摺。低い高台が付く。	瀬戸・美濃。 17~18世紀。
3	軟質陶器 コンロ?	①②埋没土	破片 高・(8.4)	①粗砂 ②還元・不良 ③橙	器面は内外面ともロクロ使用によるナ デ調整。外面の最下端にはヘラケズリ が加えられている。	江戸~現代。

C区 3号井戸 (第408・409図 PL145・146)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師質土器 皿	①②埋没土	1/2 口・(10.0) 底・(6.3) 高・1.8	①粗砂 ②還元 ③にぶい橙	右回転ロクロ成形。口縁部は内外面と もナデ調整を加えている。	器面は剥離 が著しい。 炭素吸着。
2	施釉陶器 碗	①②埋没土	2/3 口・(8.6) 底・3.4 高・4.8	①精選 ②還元 ③灰白	鉄絵灰釉。低い高台部が付く。	京・信楽系。 18世紀中~ 後。
3	施釉陶器 香炉	①②埋没土	底部破片 底・(11.4) 高・(4.0)	①精選 ②還元 ③灰白	高台部は低い足が3足つくか。鉛釉。	瀬戸・美濃。 江戸。
4	施釉陶器 鉢	①②埋没土	口縁部破片 口・(24.6) 高・(3.7)	①白色鉾物粒 ②還元 ③断面暗赤灰	内面に陰刻状の文様がめぐる。	肥前・三島 手。 江戸。
5	軟質陶器 鍋	①②埋没土	口縁部~胴部上位 破片 口・(32.0) 高・(5.9)	①粗砂・細砂 ②還元 ③黒褐	口縁部・胴部は外傾著しくナナメ上方 に向かって立ち上がる。先端にいたり 屈曲、水平方向に延びる。外面は口縁 部にヨコナデ。以下はナデを施す。内 面は丁寧なヘラナデ。	在地系。 江戸。 破碎後、火 熱を受けて いる。
6	軟質陶器 鍋	①②埋没土	口縁部~胴部上位 破片 口・(32.0) 高・(6.5)	①粗砂・細砂 ②還元 ③灰黄褐	口縁部・胴部はナナメ上方に向かって 立ち上がる。先端は短く屈曲する。先 端は内外面ともヨコナデ。以下は外面 が荒いナデ。内面が丁寧なナデ。	在地系。 江戸。
7	軟質陶器 焙烙	①②埋没土	口縁部破片 口・(37.3) 底・(34.0) 高・5.3	①粗砂・細砂 ②還元・不良・軟質 ③黒褐	口縁部は彎曲ぎみに立ち上がる。底部 との接合部分は屈曲する。内耳の下端 は底部内面に接着される。外面下半に 粗雑な仕上げの調整面を残すが、他は 内外面ともヨコナデ。	在地系。 江戸。
8	軟質陶器 焙烙	①②埋没土	口縁部1/4・底部 一部残存 口・(37.0) 底・(31.2) 高・5.2	①粗砂・細砂 ②還元・不良 ③灰	口縁部はナナメ上方に向かって内彎ぎ みに立ち上がる。口縁部外面はその大 半にヨコナデが施され、下位にナデ・ ヘラケズリが一部ずつみられる。	在地系。 江戸。
9	軟質陶器 焙烙	①②埋没土	口縁部1/3 口・(36.8) 底・(32.0) 高・5.0	①粗砂・細砂 ②還元・不良 ③灰	口縁部は外傾弱く立ち上がる。口縁部 は外面の最下位にヘラケズリを施す他 はヨコナデを施す。内耳を貼り付けた 状況がみられる。	在地系。 江戸。 口縁部の先 端寄りに直 径0.7cmの 焼成前穿孔 が1孔残存 する。

## C区4号井戸（第409図 PL146）

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②埋没土	破片 口・(12.0) 底・(8.0) 高・(3.0)	①粗砂少量 ②酸化 ③明赤褐	口縁部は外傾著しく立ち上がる。口縁部には外面にのみヨコナデを施し、以下には成形時の器面の状況を残す。	
2	土師器 杯	①②埋没土	1/2 口・(12.0) 底・(8.6) 高・(3.0)	①粗砂少量 ②酸化 ③明赤褐	口縁部は外傾著しく立ち上がる。口縁部には外面にのみヨコナデを施し、以下には成形時の器面を残す。	

## A区12号溝（第433・434図 PL146）

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	軟質陶器 鍋	①②埋没土	胴部破片	①細砂 ②還元・不良・軟質 ③灰	内面に弱い陵をなして屈曲、口縁部にいたる。内外面ともナデ・ヨコナデ。	在地系。 江戸。 外面に炭素吸着。
2	軟質陶器 鍋	①②埋没土	胴部破片	①細砂 ②還元・不良・軟質 ③黒灰	内面に弱い陵をなして屈曲、口縁部にいたる。内外面ともナデ・ヨコナデ。	在地系。 江戸。 外面に炭素吸着。
3	軟質陶器 火鉢?	①②埋没土	口縁部下半～底部 破片 高・(3.9)	①細砂 ②還元・不良・軟質 ③黒褐	外面、底面間近の位置に断面三角形の突帯がめぐる。外面は丁寧なナデを、内面はやや粗雑なナデを施す。	在地系。 江戸～近代。
4	石製品 砥石	①②埋没土	完形 長・9.8 幅・3.7 厚・2.3 重・83 g	石材 砥沢石	長軸の断面は菱形状を呈する。各面とも研磨に使用されており平滑な面をなしている。	
5	石製品 不明	①②埋没土	一部欠損 上縁径・9.0 残存部最大径・ 11.5 高・(12.4) 重・1,366 g	石材 粗粒輝石安山 岩	用途は不明である。上下両端で直径を異にする筒状製品である。成形後外面は磨かれている。	天地不明。
6	石製品 茶臼	①②埋没土	ほぼ完形 直径・19.8 高・11.7 重・5,550 g	石材 粗粒輝石安山 岩	上白。上端の大半は欠損している。磨り合わせ面の直径は19.5cmを測る。くぼみは皿状であるが、中央に向かってわずかに深みを増すだけである。芯棒の穴は供給口を兼ねており、その直径は2.9～3.1cmである。この穴は上下両方から穿穴を施して貫通させており、上位から3.0cmの位置で食い違っている。側面には成・整形時の工具によるハツリ痕が意識的に残され、小さな凹凸が多数みられる。挽手穴は側面の対向する位置の一つずつ合計2箇所があり、中心に向かって四角形の穴が穿たれている。 穴の周辺には特別の飾りはない。磨り合わせ面は0.4cmのふくみがある。分画は8分画で副溝の間隔は4～5mmである。	

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
7	石製品 茶臼	①②埋没土	3/4 直径・18.5 高・10.8 重・6,820 g	石材 粗粒輝石安山岩	下臼。磨り合わせ面の周囲にはんざりが大きく張り出す形状である。磨り合わせ面の直径は18.5cm、はんざりの直径は33.7cmを測る。磨り合わせ面は0.2cmのふくみを有する。中央に直径2.3cmの芯棒穴が有り、下端まで貫通している。分画は8分画で、副溝の間隔は4～6mmある。側面の仕上げは6同様、成・整形時の工具痕を残すものである。また、下端の一部には凹面状にえぐられた部分がある。ここは成形あるいは旧時に欠損した部分に再調整を加えた部分と考えられる。 石材、成・整形の状況が6の上臼と共通する点があり、出土位置の点からも上下一対の個体をなしていたものと考えられる。	
8	石製品 石臼	①②埋没土	1/3 直径・(35.1) 高・(23.8) 重・11,610 g	石材 粗粒輝石安山岩	上臼。上縁部は全て欠損している。引き手はつくりつけ式であるが大半が欠損して基部がわずかに残存するのみである。側面部には新たに四角形の引き手穴が設けられている。磨り合わせ面は磨耗が進んでいるが、6分画で4本の副溝が2.5cm間隔で刻まれている。	
9	石製品 石臼	①②埋没土	破片 直径・(32.4) 高・(9.2) 重・1,118 g	石材 粗粒輝石安山岩	上臼。上縁部はくぼみ側の立ち上がりが比較的直立きみであるのに対し、外縁側は丸味をおびている。下面に向かって直径を増す供給口の一部が残存する。磨り合わせ面は片減りが著しく、分画も副溝の刻みがわずかに残存するだけである。	

A区15号溝 (第434図 PL146・147)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	軟質陶器 焙烙	①②埋没土	口縁部破片 高・(5.5)	①粗砂・細砂 ②還元 ③黄灰	内耳部分は途中で欠損している。内外面ともヨコナデ。	在地系。
2	陶器 甕	①②埋没土	胴部破片	①細砂・粗砂 ②還元 ③にぶい褐	外面に自然釉が付着する。	常滑。 中世。
3	陶器 甕	①②埋没土	胴部破片	①粗砂多量 ②還元 ③褐灰	内外面ともロクロ目。	外面に線刻。 自然釉付着。
4	須恵器 播鉢	①②埋没土	口縁部～胴部下半 口・(15.1) 高・(10.8)	①粗砂多量 ②還元 ③灰	口縁部は深みを有し、曲線を描きながら外反弱く立ち上がる。先端は平坦面を上方に向ける。外面にはヨコナデ・ナデ。内面にはロクロ目。	内面に自然釉付着。
5	石製品 石臼	①②埋没土	破片 重・75 g	石材 粗粒輝石安山岩	下臼。上端の一部破片である。側面にはハツリ痕がみられる。磨り合わせ面はわずかにふくみを有する。副溝の間隔は3.2cmと広い。	16号溝出土。
6	石製品 板碑	①②埋没土	破片 長・(15.9) 幅・(6.6) 厚・(0.6) 重・108 g	石材 緑色片岩	頂角と塔身部の側縁が残存するのみで表面は剥離して残存しない。	

## A区18号溝 (第435図 PL147)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 杯	①②埋没土	口縁部～底部破片 底・7.4 高・(4.1)	①白色軽石粒少量 ②還元 ③黄灰	外面にはロクロ目をよく残す。右回転 ロクロ成形。底部は回転を伴うヘラ切 り離し後周縁部にヘラケズリを重ねる。	

## A区19号溝 (第435図 PL147)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	磁器染付 碗	①②埋没土	1/4 口・(11.5) 底・(4.3) 高・5.5	①精選 ②還元 ③灰白	内外面に文様。	製作地不明。 明治。

## A区20号溝 (第435図)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	施釉陶器 碗	①②埋没土	口縁部破片 口・(11.0) 高・(2.1)	①精選 ②還元 ③灰白	釉には貫入がみられる。	肥前? 江戸。

## A区22号溝 (第435図 PL147)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	軟質陶器 焙烙	①②埋没土	口縁部破片 高・(5.2)	①細砂 ②還元・不良 ③黄灰	内外面ともナデ・ヨコナデ。	在地系。
2	軟質陶器 置カマド	①②埋没土	口縁部破片 高・(5.1)	①粗砂 ②還元・軟質・不良 ③褐灰	先端は外側が水平方向に突出する。先 端から5cm底部寄りに形状不明の透孔 が配されている。内外面ともヨコナデ。	在地系。 近・現代。
3	鉄製品 鎌	①②埋没土	完形 刃部長・7.8 刃部幅・1.2～1.9 刃部背厚・0.3 茎部幅・0.5～1.6 重 ・14.85g		小型の刃部とこれから屈曲する茎部か らなる。刃部は背側の曲線の彎曲が強 い。	

## A区28号溝 (第435図 PL147)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	陶器 甕または壺	①②埋没土	胴部下半～底部破 片 高・(7.0)	①粗砂多量 ②還元 ③灰赤	平底の底部から外傾著しく立ち上がる。 内外面とも粗雑なナデ。	常滑。中世 ～近世。

## A区29号溝 (第435図)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②埋没土	破片 口・(12.0) 高・(3.3)	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙	口縁部は底部との間に弱い稜をなした 後外反して立ち上がる。先端近くにも 弱い段が認められる。	磨耗が著し い。
2	土師器 杯	①②埋没土	破片 口・(13.9) 高・(3.6)	①細砂少量 ②酸化 ③にぶい褐	口縁部は外傾弱く立ち上がる。	磨耗が著し い。

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
3	須恵器 高杯	①②埋没土	杯部下半 高・(2.8)	①白色・黒色鈹物粒 ②還元 ③灰白	杯部の破片。残存部最上位に沈線がめぐる。外面下半にはカキ目が施される。右回転ロクロ成形。	

B区1号溝 (第435・436図 PL147)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 高台付杯	①②埋没土	胴部下位～底部 1/4 底・(12.0) 高・(2.3)	①白色・黒色鈹物粒 ②還元 ③灰白	高台部は低く断面台形状を呈する。右回転ロクロ成形。底部は回転を伴うヘラケズリ調整。高台部を貼り付け後周縁部をナデている。	一部に釉付着。
2	須恵器 甕	①②埋没土	口縁部破片 高・(5.2)	①白色鈹物粒 ②還元 ③暗緑灰	外反して立ち上がる。先端は丸味をおびるが器肉は徐々に薄くなる。外面の先端直下に低い突帯がめぐる。内外面ともナデ調整を施す。	内面に自然釉付着。
3	陶器 甕または壺	①②埋没土	胴部破片	①粗砂大の長石・石英 ②還元 ③にぶい赤褐	タタキ締めた後、表・裏両面ともナデ調整を施している。外面に自然釉が付着する。	常滑。 中世～江戸。
4	須恵器 甕	①②埋没土	口縁部破片 高・(2.5)	①黒色鈹物粒発泡 ②還元 ③灰白	外反して立ち上がる。先端はつままれたように尖る。外面の先端直下には断面三角形の突帯がめぐる。内外面ともナデ調整。	
5	軟質陶器 火鉢	①②埋没土	口縁部下位～底部 破片	①粗砂 ②還元・軟質 ③灰	全体に器肉は厚く、台部を有する。	在地系。 江戸～近代。
6	土製品 不明	①②埋没土	1/2 上面径・(6.0) 下面径・(4.2) 厚・1.7 重・22.9 g	①細砂 ②酸化 ③にぶい橙	上・下両端面、側面とも平滑に整えられている。孔の周縁には使用のためか細かな欠損部分がみられる。軸孔の直径は1.0cmと推定される。	
7	須恵器 土製円板	①②埋没土	完形 長・2.7 幅・2.9 厚・1.0	①粗砂・細砂 ②還元 ③黄灰	甕の胴部破片を二次調整している。	

挿図番号 P L No.	種別 銭貨名	出土位置 ①平面②垂直	銭外径 (mm)	銭内径 (mm)	銭厚 (mm)	重さ (g)	初鑄年代 国名	備考
8	銅銭 洪武通寶	①②埋没土	A 22.42 B 22.50	C 18.11 D 17.60	① 1.33 ② 1.32 ③ 1.40 ④ 1.31	2.16	1368年 明	

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
9	石製品 砥石	①②埋没土	一部欠損 長・(10.0) 幅・3.5 厚・2.8 重・140 g	石材 流紋岩	図、上端は欠損している。表・左側面の使用は顕著であるが右側面はさほどでもない。裏面・小口面には原石時の面を残している。	
10	石器 磨石	①②埋没土	一部欠損 長・(10.2) 幅・(8.8) 厚・5.2 重・201 g	石材 軽石	にぎりこぶし大のやや扁平な礫で表・裏両面が磨耗により平坦面をなしている。周縁に刀傷状の擦痕がみられる。	
11	石器 磨石	①②埋没土	ほぼ完形 長・10.0 幅・6.5 厚・2.6 重・202 g	石材 粗粒輝石安山岩	扁平な礫の表面にわずかに研磨痕がみられる。	
12	石製品 石臼	①②埋没土	破片 高・(4.5) 重・223 g	石材 粗粒輝石安山岩	下臼。はんぎり部分の一部である。器面にはハツリ痕が認められる。	

## B区2号溝 (第436図 PL147)

挿図番号 P L.No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	陶器染付 小碗	①②埋没土	完形 口・6.4 底・3.0 高・4.0	①精選 ②還元 ③灰白	小径。猪口状を呈する。	瀬戸・美濃。 18世紀後～ 19世紀前。
2	施釉陶器 碗	①②埋没土	底部欠損 口・(9.0) 高・(5.4)	①精選 ②還元 ③灰白	釉には貫入がみられる。	瀬戸・美濃。 江戸。
3	磁器染付 碗	①②埋没土	口縁部破片 口・(9.0) 高・(2.4)	①精選 ②還元 ③白	山形あるいは格子目状の文様。	肥前。 18世紀。
4	施釉陶器 碗	①②埋没土	口縁部破片 口・(11.0) 高・(2.8)	①精選 ②還元 ③黒茶	鉄釉。一部に長石釉が認められる。い わゆる拳骨茶碗か。	瀬戸・美濃。 17～18世紀。
5	軟質陶器 焙烙	①②埋没土	口縁部～底部破片 口・(38.0) 底・(35.0) 高・5.2	①細砂 ②還元 ③灰	外面下位はヘラケズリ。他の器面はナ デ調整。	在地系。 江戸。
6	軟質陶器 鍋	①②埋没土	口縁部破片 高・(4.3)	①細砂 ②還元・軟質 ③にぶい黄橙	口縁部の先端は屈曲後水平方向に突出 する。外面上位はヨコナデ。以下はナ デ。内面はヨコナデ。	在地系。 江戸。
7	施釉陶器 甕	①②埋没土	口縁部破片 高・(4.0)	①精選 ②還元 ③暗褐	錆釉。	瀬戸・美濃。 18世紀中。
8	陶器 甕	①②埋没土	胴部破片	①粗砂少量 ②還元 ③灰褐	外面には荒いナデ調整。内面に釉附着。	常滑。 江戸～近・ 現代。

## B区3号溝 (第437図)

挿図番号 P L.No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 提瓶	①②埋没土	胴部破片	①白色鉱物粒少量 ②還元 ③黄灰	外面にはカキ目が施されている。内面 にはアテ目と粗雑なナデが認められる。	

## B区8号溝 (第437図 PL147)

挿図番号 P L.No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	磁器染付 不明	①②埋没土	口縁部破片 口・(9.3) 高・(2.3)	①精選 ②還元 ③白	小径。	肥前。 江戸。
2	陶器陶胎染 付 碗	①②埋没土	口縁部破片 高・(5.4)	①精選 ②還元 ③灰	外面に文様。	肥前。 江戸。
3	施釉陶器 德利	①②埋没土	胴部破片	①白色鉱物粒少量 ②還元 ③暗灰黄	外面に鉄釉。	瀬戸・美濃。 江戸。
4	施釉陶器 德利	①②埋没土	胴部破片	①鉱物粒少量 ②還元 ③明赤褐	外面に鉄釉。	瀬戸・美濃。 江戸。

## C区 1号溝 (第437図 PL147・148)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	陶器陶胎染付碗	①②埋没土	ほぼ完形 口・10.4 底・5.2 高・7.3	①精選 ②還元 ③明緑灰	外面に文様。	肥前。 18世紀。
2	施釉陶器碗	①②埋没土	口縁部破片 口・(12.0) 高・(3.6)	①白色鈳物粒 ②還元 ③灰		瀬戸・美濃。 江戸。
3	磁器染付筒形碗?	①②埋没土	底部破片 底・4.2 高・(1.3)	①精選 ②還元 ③明青灰	外面に染付。	肥前。 18世紀中～後。
4	磁器染付碗	①②埋没土	1/4 口・(9.3) 底・(3.3) 高・4.9	①精選 ②還元 ③灰白	内外面に染付。	肥前・波佐見系。 18世紀中～後。
5	磁器染付皿	①②埋没土道上 (1溝延長部か)	1/3 口・(13.1) 底・(6.8) 高・3.2	①精選 ②還元 ③灰白	内外面に染付。	肥前・波佐見系。17世紀末～18世紀中。
6	施釉陶器丸皿	①②埋没土	口縁部破片 口・(15.1) 高・(2.1)	①粗砂大の白色鈳物粒 ②還元 ③淡黄	外面の下半はヘラケズリ。	瀬戸・美濃。 江戸。
7	施釉陶器丸皿	①②埋没土	口縁部破片 口・(13.6) 高・(2.0)	①精選 ②還元 ③灰白	外面の下半はヘラケズリ。	瀬戸・美濃。 江戸。
8	施釉陶器香炉	①②埋没土	口縁部破片 口・(12.5) 高・(6.2)	①精選 ②還元 ③オリーブ褐	外面カキ目状にハケメがめぐる。鉛釉。	瀬戸・美濃。 18世紀中。
9	施釉陶器德利	①②埋没土	底部破片 底・(7.6) 高・(3.3)	①鈳物粒少量 ②還元 ③灰オリーブ	外面は鉛釉を拭っている。低いがしっかりした高台が付く。	瀬戸・美濃。 江戸。
10	施釉陶器德利	①②埋没土	底部破片 底・(12.0) 高・(4.3)	①精選 ②還元 ③にぶい赤褐	外面はヘラケズリ。	志戸呂。 江戸。
11	施釉陶器甕	①②埋没土	底部破片 底・(12.0) 高・(2.3)	①精選 ②還元 ③灰白	上部に鎔釉。	製作地不明。 時期不明。
12	施釉陶器德利	①②埋没土	底部破片 底・(12.0) 高・(3.4)	①精選 ②還元 ③明赤褐	外面の底部近くはヘラケズリ。鎔釉。	志戸呂。 江戸。
13	軟質陶器焙烙	①②埋没土	口縁部破片	①白色鈳物粒 ②還元 ③黒	口縁部は外傾して立ち上がる。	在地系。 江戸。
14	軟質陶器鍋	①②埋没土	口縁部破片	①白色鈳物粒 ②還元 ③黒	鉢状を呈していたか。	在地系。 江戸。

## C区 2号溝 (第437・438図 PL148)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	陶器染付碗	①②埋没土	底部破片 底・(4.3) 高・(3.9)	①精選 ②還元 ③にぶい黄	小径の高台部が付く。内面に鉄釉による文様。	肥前・京焼風。17世紀末～18世紀後。

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
2	陶器陶胎染付碗	①②埋没土	1/3 口・(10.5) 底・(5.0) 高・7.5	①精選 ②還元 ③明緑灰	外面に文様。	肥前。 18世紀。
3	施釉陶器碗	①②埋没土	底部破片 底・5.0 高・(2.0)	①白色鈳物粒 ②還元 ③灰白	高い高台部が付く。鉄釉。内面は鉄化粧。	瀬戸・美濃。 江戸。
4	施釉陶器皿あるいは鉢	①②埋没土	口縁部破片 口・(34.0) 高・(5.6)	①細砂 ②還元 ③暗灰黄	内面陰刻状の文様が配置される。	肥前・三島手。 江戸。
5	軟質陶器焙烙	①②埋没土	破片 高・5.3	①白色鈳物粒 ②還元 ③黄灰	口縁部は外傾弱く短く立ち上がる。	在地系。 江戸。
6	軟質陶器播鉢	①②埋没土	破片 高・(5.2)	①黒色・白色鈳物粒 ②還元 ③明赤褐	先端は外側が大きく肥厚する。内外面に錆釉。	瀬戸・美濃。 18世紀前～中。

## C区5号溝 (第438図 PL148)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	磁器染付碗	①②埋没土	破片 高・(4.8)	①精選 ②還元 ③明緑灰	外面に文様。	肥前・波佐見系。 江戸。
2	施釉陶器香炉または火入れ	①②埋没土	口縁部破片 口・(11.4) 高・(1.8)	①精選 ②還元 ③灰黄	口縁部の先端は内外面が打ちかかれる。	製作地不詳。 江戸。
3	軟質陶器香炉または火舎	①②埋没土	底部破片 底・(7.0) 高・(4.1)	①白色鈳物粒少量 ②還元 ③浅黄	底部は低い足が付く。	在地系。 江戸。

## C区6号溝 (第438図 PL148)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	施釉陶器香炉	①②埋没土	口縁部破片 口・(6.0) 高・(3.4)	①精選 ②還元 ③灰白	小径で、口縁部は内側が小さく肥厚する。灰釉。型紙摺。	瀬戸・美濃。 18世紀。
2	施釉陶器乗燭	①②埋没土	口縁部破片 口・(4.2) 高・(2.3)	①精選 ②還元 ③明赤褐	中位でくの字に屈曲。先端は短く直立する。	瀬戸・美濃。 江戸。

## C区7号溝 (第438図)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	施釉陶器碗	①②埋没土	口縁部破片 口・(11.0) 高・(2.0)	①精選 ②還元 ③オリーブ黄	外面の釉には貫入がみられる。	肥前？ 江戸。

## C区8号溝 (第438図 PL148)

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	施釉陶器香炉	①②埋没土	底部破片 底・(11.0) 高・(3.0)	①精選 ②還元 ③灰白	胎釉。底部は低い足が付く。3井戸-3と類似。	瀬戸・美濃。 江戸。

富田宮下遺跡台地部分

C区9号溝 (第438図)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	施釉陶器 香炉または 火入れ	①②埋没土	口縁部破片 高・(2.5)	①精選 ②還元 ③浅黄	口縁部の先端は打ちかかれたか。火熱を受けている。焼成不良。	製作地不詳。

C区12号溝 (第438図)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	軟質陶器 焙烙または 鍋	①②埋没土	破片	①白色鉱物粒少量 ②還元 ③黄灰	底部の小破片である。	在地系。 江戸。

B区3号土坑 (第450図 PL148)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考		
1	土師質土器 皿	①②埋没土	完形 口・12.6 底・7.4 高・3.1	①粗砂 ②酸化・不良 ③にぶい橙	口縁部はナナメ上方に向かって直線的に延びる。先端は器肉が薄くなり尖る。左回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離しと考えられるがその後中央部にヘラナデ。周縁部に回転を伴うヘラナデを加えている。			
挿図番号 P L No.	種別 銭貨名	出土位置 ①平面②垂直	銭外径 (mm)	銭内径 (mm)	銭厚 (mm)	重さ (g)	初鑄年代 国名	備考
2	銅銭 元豊通寶	①②埋没土	A 23.64 B 23.69	C 17.58 D 16.97	① 1.13 ② 1.05 ③ 1.01 ④ 1.05	2.76	1580年～ 日本	鑑銭。
3	銅銭 至和元寶	①②埋没土	A 23.85 B 23.03	C 18.93 D 18.52	① 1.32 ② 1.40 ③ 1.28 ④ 1.18	1.83	1054年 北宋	
4	銅銭 皇宋通寶	①②埋没土	A 24.43 B 25.01	C 17.58 D 17.48	① 1.06 ② 1.01 ③ 1.08 ④ 1.05	2.12	1038年 北宋	

B区8号土坑 (第450図 PL148・149)

挿図番号 P L No.	種別 銭貨名	出土位置 ①平面②垂直	銭外径 (mm)	銭内径 (mm)	銭厚 (mm)	重さ (g)	初鑄年代 国名	備考
1	銅銭 永樂通寶	①②埋没土	A 24.95 B 25.04	C 20.65 D 20.14	① 1.43 ② 1.27 ③ 1.36 ④ 1.56	2.80	1408年 明	
2	銅銭 熙寧元寶	①②埋没土	A 24.61 B 24.31	C 19.64 D 19.33	① 1.21 ② 1.22 ③ 1.24 ④ 1.19	2.88	1068年 北宋	
3	銅銭 皇宋通寶	①②埋没土	A 25.18 B 25.66	C 18.94 D 18.98	① 1.09 ② 1.06 ③ 1.08 ④ 1.03	3.09	1038年 北宋	
4	銅銭  不明	①②埋没土	A (23.35)  B (23.46)		① ② (0.72) (0.63) ③ ④ (0.64) (0.82)	1.29	不明	磨耗顕著。
5	銅銭 天符通寶	①②埋没土	A 25.58 B 25.83	C 19.91 D 19.89	① 1.15 ② 1.26 ③ 1.10 ④ 1.15	2.75	1580年～ 日本	鑑銭。
6	銅銭 宣和通寶	①②埋没土	A 26.62 B 26.77	C 20.44 D 20.12	① 1.72 ② 1.56 ③ 1.41 ④ 1.30	4.11	1119年 北宋	表面やや磨耗。
7	銅銭 元豊通寶	①②埋没土	A 25.08 B 24.92	C 20.36 D 19.70	① 1.33 ② 1.26 ③ 1.25 ④ 1.35	2.55	1580年 日本	鑑銭か。

C区道状遺構 (第451図 PL149)

挿図番号 P L No.	種別 銭貨名	出土位置 ①平面②垂直	銭外径 (mm)	銭内径 (mm)	銭厚 (mm)	重さ (g)	初鑄年代 国名	備考
1	銅銭 寛永通寶	①②埋没土	A 24.45 B 24.39	C 19.59 D 19.61	① 1.40 ② 1.33 ③ 1.41 ④ 1.48	2.65	1626年～ 日本	

## C区3号址(第453図)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	①②埋没土	破片 口・(13.8) 高・(3.8)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③明褐	口縁部は底部との間に明瞭な段をなした後外反弱く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ後複雑なミガキを重ねる。	
2	土師器 杯	①②埋没土	破片 口・(16.0) 高・(2.4)	①粗砂・細砂 ②酸化 ③橙	口縁部は底部から屈曲、外反著しく立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリか。	器面は荒れている。
3	須恵器 甕	①②埋没土	破片	①白色鈹物粒 ②還元 ③灰	外面には2種類のタタキ目が、内面には同心円状のアテ目が施される。	

## 中・近世の遺構外出土遺物(第454～459図 PL149～151)

挿図番号 P L No.	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	土師質土器 皿	①A区44-O12 ②埋没土	ほぼ完形 口・9.4 底・6.0 高・2.1	①粗砂・細砂 ②酸化・不良 ③黄橙	左回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後未調整。底部中央には焼成後直径1.3cmの孔が穿たれている。	灯皿として使用されており、口縁部先端に灯芯が接したために生じた煤が付着。底部外面にも煤付着。
2	土師質土器 皿	①②A区表土	1/2 口・(8.2) 底・5.2 高・2.2	①粗砂 ②酸化・不良 ③にぶい褐	左回転ロクロ成形。底部外面はやや磨耗が進んでいるが回転糸切り離しの上に板目が弱く重なっているのがみられる。	
3	土師質土器 皿	①C区57号住居 ②埋没土	口縁部破片 口・(8.0) 高・(2.2)	①細砂 ②酸化 ③橙	右回転ロクロ成形。	
4	土師質土器 皿	①②B区表土	底部破片	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい黄橙	右回転ロクロ成形。底部は回転糸切り離し後未調整。	
5	青磁 碗	①C区表採 ②埋没土	口縁部破片	①精選 ②還元 ③明緑灰	外面に狭い鎚蓮弁がみられる。	龍泉窯系。 13世紀。
6	陶器 香炉	①C区55号住居 ②攪乱	1/4 口・(15.6) 高・7.6	①長石少量 ②還元 ③浅黄	鉄釉。口縁部直下に2条、中位と下位に各1条沈線がめぐり、高台部は低い足が三足付くと考えられる。	瀬戸・美濃。 18世紀前。
7	軟質陶器 焙烙	①C区55号住居 ②攪乱	口縁部破片	①粗砂少量 ②還元・軟質 ③にぶい黄橙	外面は上半部のみヨコナデ。下半部には成形時の面を残す。	在地系。 16世紀後～ 17世紀前。
8	土製品 十能	①B区44K-18 ②埋没土	破片 高・(4.0)	①粗砂・細砂 ②還元 ③灰	先端底面の一部。	外面は剥離・磨耗が著しい。
9	軟質陶器 火鉢	①C区55号住居 ②攪乱	破片 高・(10.1)	①粗砂多量 ②還元・軟質 ③にぶい橙	口縁部は内彎して立ち上がる。先端は内側に突出、上端に平坦面を形成する。外面にはタテ方向に縞状の突帯が幅1.7cmのほぼ等間隔に垂下する。内面はナデ調整。	三河産？ 近・現代。 10・11と同一個体。
10	軟質陶器 火鉢	①C区55号住居 ②攪乱	台部？破片 高・(6.6)	①粗砂多量 ②還元・軟質 ③にぶい褐	外面は底面から4cmの高さの位置に沈線がめぐり、器形の変換点がみられる。内面には小さな受けがつくられている。中位に円形の透孔が配されている。	9・11と同一個体。

富田宮下遺跡台地部分

挿函番号 P LNo	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
11	軟質陶器 火鉢	①C区55号住居 ②攪乱	台部?破片 高・(6.3)	①礫・粗砂多量 ②還元・軟質 ③にぶい褐	本資料から、底面に接する半円形の透孔が存在することがわかる。	9・10と同一個体。
12	陶器 甕	①C区23号住居 ②埋没土	胴部破片	①粗砂多量 ②還元 ③にぶい赤褐	内外面にナデ。	常滑。 中世～江戸。
13	瓦 鬘斗瓦	①C区55号住居 ②攪乱	1/4 長・(6.9) 幅・8.3 厚・1.8	①赤色粘土粒少量 ②還元 ③にぶい黄橙	表・裏面は丁寧なナデが加えられており、成形時の状況はみられない。両側面はヘラで切り離したままであるが小口面は丁寧なナデが施され、平滑になっている。	
14	軟質陶器 播鉢	①②A区表土	1/2 口・(30.0) 底・(12.2) 高・14.2	①礫・粗砂 ②還元・軟質 ③灰	先端は内側に弱く折り返り、片口が付く。外面はヨコナデ、粗雑なナデを施す。内面には櫛目がない。左回転クロ口成形で、底部には回転を伴う糸切り離し痕がみられる。内面の下半は使用のため平滑になっている。片口の幅も狭くなる可能性がある。	在地系。 14世紀。
15	石製品 播鉢	①A区44K-13 ②埋没土	口縁部下位～底部 破片 底・(14.6) 高・(9.2) 重・710g	石材 粗粒輝石安山岩	鉢形を呈している。外面には器面を仕上げるために施された敲打痕がみられる。内面は使用により器面が平滑になっている。	
16	石製品 石臼	①C区55G-17 ②埋没土	1/4 直径・(33.0) 高・10.2 重・4,985g	石材 溶結凝灰岩	上臼。供給口と芯穴の一部が残存している。上縁部はくぼみ側の立ち上がりがかわめて緩やかである。磨り合わせ面は磨耗が著しく分画の判別は困難である。片減りがみられる。	
17	石製品 石臼	①②C区攪乱	1/2 直径・(38.5) 高・10.8 重・2,565g	石材 粗粒輝石安山岩	上臼。6分の1ほどの破片資料である。上縁部の断面形はくぼみ側の立ち上がりが直立に近い形状である。磨り合わせ面は粉碎により、磨耗が著しい。ふくみは1.0cm以上が推定できる。分画は確認できないが副溝の存在は比較的良好で、その間隔は2.4cm前後であった。側面には成・整形時に施された工具痕が明瞭である。	
18	石製品 石臼	①B区44K-18 近辺 ②埋没土	1/4 高・(10.0) 重・2,793g	石材 粗粒輝石安山岩	下臼。芯穴とその周辺部分が残存するだけで側面部分は全て剥落している。磨り合わせ面は6分画と考えられる。副溝は1.5cmと他に比してやや狭い間隔で刻まれている。	
19	石製品 石臼	①C区55D-16 ②攪乱	破片 直径・(35.0) 高・6.8 重・2,408g	石材 粗粒輝石安山岩	下臼。磨り合わせ面は磨耗が著しく、分画の判別ができない。磨り合わせ面の横断面は外縁から4cmほど内側で一部凹んでいる。底面は接地面が外縁よりやや内側に入り込んでいる。	
20	石製品 石臼	①C区25号土坑 ②埋没土	1/2 直径・(34.4) 高・15.7 重・13,800g	石材 粗粒輝石安山岩	下臼。器高は15.7cmと他に比して高く、底面が平坦で他の下臼のように中央の芯穴に向かってくりこまれていない点も他と異なる。磨り合わせ面は6分画で、副溝は一分画に5本、2.2～2.6cmの間隔で認められる。	
21	石製品 石臼	①C区26号土坑 南 ②攪乱	2/3 直径・37.1 高・11.5 重・13,750g	石材 粗粒輝石安山岩	下臼。中央の芯穴は現状ナメ方向に穿たれている。横断面の状況からは側面は垂直に立ち上がっていたり、底面のバランスも保たれているので、原形時の歪みの可能性が高い。磨り合わせ面の分画は4分画と考えられるが、副溝の刻みは粗雑で、間隔もまちまちである。	

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
22	石製品 石臼	①C区65G-17 ②埋没土	1/4 直径・(34.2) 高・11.0 重・3,883 g	石材 粗粒輝石安山 岩	下臼。磨り合わせ面は磨耗が著しく、 分面の判別ができない。側面も剥離が 進み、下端寄りの一部が存在してい ただけである。	
23	石製品 石臼	①C区55A-16 ②攪乱	1/2 直径・(38.4) 高・11.2 重・9,300 g	石材 粗粒輝石安山 岩	下臼。磨り合わせ面は磨耗が著しく、 分面の判別は全くできない。図示は できなかったが片減りが著しく、磨り 合わせ面は若干傾斜している。	
24	石製品 五輪塔	①②A区表採	完形 高・27.5 重・6,000g	石材 粗粒輝石安山 岩	空風輪。空輪の先端にボタン状の突起 が付く。下端に長さ4.8cmのほぞが ついている。空輪の高さは11.2cm、 風輪の高さは7.9cmで両者の比率は 1.42:1である。横断面の形状は空・ 風輪とも潰れた円形で、隅丸四角形 に近い形状である。空輪の最大径は 左右が15.5cm、前後で14.2cm である。成・整形は比較的丁寧であ るが空輪と風輪の境目の帯状のくり 込み部分はやや粗雑で、工具痕の 凹凸が器面に残っている。	
25	石製品 五輪塔	①②A区表採	ほぼ完形 高・28.7 重・6,600g	石材 粗粒輝石安山 岩	空風輪。空輪の先端を欠損する他は ほぼ完存する。下端に長さ5.5cmの ほぞがついている。空輪の高さは 12.2cm、風輪の高さは8.3cmで 両者の比率は1.47:1である。横断 面の形状は空・風輪とも円形で、 空輪の最大径は14.7cmである。 成・整形は比較的丁寧であるが空 輪と風輪の境目の帯状のくり込み部 分はやや粗雑で、工具痕の凹凸が 器面に残っている。	
26	石製品 五輪塔	①②A区表採	完形 直径・25.4~26.4 高・18.9 重・13,690 g	石材 粗粒輝石安山 岩	水輪。上下両端を裁断した球体で、 上下両面は比較的広い面を有してい る。断面形は凹面状を呈しており、 下面のそれがより著しい。横断面 形は円形を指向したようであるが、 直径が1.0cm以上前後している。 側面の描く曲線も相異が大きく、 全体的にやや歪みが生じている。 原形の時点で器面に大きな凹凸が 存在していたようである。上面の 直径は16.0~16.8cm、下面の 直径は15.0~17.2cmを測る。	
27	石製品 五輪塔	①C区55E-15 ②攪乱	完形 直径・33.3 高・21.0 重・22,940 g	石材 粗粒輝石安山 岩	水輪。上下両端を裁断した球体で 上下両面は比較的広い面を有してい る。断面形は両端面とも凹面状を 呈している。横断面形も正円では 無く、正面・背面の両方向から押 し潰されたように変形している。 原石の時点で器面に大きな凹凸 が存在していたようである。上面 の直径24.0cm、下面の直径24.5 cmを測る。	
28	石製品 不明	①B区44K-18 近辺 ②埋没土	破片 高・(10.0) 重・4,426 g	石材 粗粒輝石安山 岩	全体形状は不明である。厚さ7.0cm、 平面四角形の石製品の外縁はやや 外傾ぎみに立ち上がる。器面の調 整は外縁や底面と比較しくはみ側 に若干丁寧な敲打が行われている。	
29	石製品 不明	①A区44H-10 ②埋没土	1/3 長・(19.5) 幅・(23.3) 厚・(20.8) 重・6,500 g	石材 粗粒輝石安山 岩	自然面の一方から平面円形でほぞ 穴状のくりこみが穿たれている。孔 の立ち上がりはほぼ垂直である。	

富田宮下遺跡台地部分

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
30	石製品 砥石	①C区41号住居 ②埋没土	1/2 長・(6.5) 幅・3.2 厚・1.5 重・45 g	石材 砥沢石	図示した表面を最も使用している。左側面・裏面の一部にも使用面がみられるが大半に成形時の工具痕を残す。	
31	石製品 砥石	①C区41号住居 ②埋没土	1/2 長・(6.1) 幅・4.0 厚・2.7 重・98 g	石材 砥沢石	図示した表・裏両面に使用面が良く認められる。凸状の面をなし、若干使用されているにとどまる。	
32	石製品 砥石	①C区36号住居・南東 ②+9.5	ほぼ完形 長・(8.6) 幅・2.3 厚・1.6 重・47 g	石材 砥沢石	4面とも使用面としているが図、表面を除く3面には原石時の加工痕を残している。	
33	石製品 砥石	①C区64号住居 ②竈埋没土	1/2 長・(5.7) 幅・2.7 厚・2.8 重・54 g	石材 砥沢石	図、下半は欠損。研磨は主に図示した表面のみで横断面は弱い凸面状を呈する。他はほとんど使用されていない。	
34	石製品 砥石?	①B区44K-18 ②埋没土	ほぼ完形 長・7.9 幅・5.1 厚・4.3 重・218 g	石材 砂岩	長軸の断面形は楔形を呈する。4面とも使用されている。一部に長軸に対してナナメ方向に研磨した様子がみられる。	
35	石製品 砥石	①C区15号住居 ②埋没土	破片 長・(8.3) 幅・4.2 厚・2.9 重・129 g	石材 変質デイスサイト	欠損品である。表・裏両面に使用面が認められる。また、欠損面も若干研磨に使用されている。右側面には原形面を残す。	
36	石製品 砥石	①B区44K-18近辺 ②埋没土	破片 長・(10.9) 幅・9.7 厚・7.8 重・597 g	石材 粗粒輝石安山岩	礫の側縁部を打ち欠き短冊状に成形、表・裏両面を研面になっているがあまり使用はされていない。小口部分にも狭い使用面があり、こちらの方が良く磨耗している。	
37	石製品 砥石	①A区44L-40 ②埋没土	1/2 長・(6.5) 幅・(7.8) 厚・2.8 重・66 g	石材 軽石	扁平な礫であるが、研磨による平坦面や金属器による整形面、刀傷がみられる。	
38	石器 敲石	①C区55F-13 ②埋没土	完形 長・16.0 幅・5.6 厚・2.9 重・404 g	石材 雲母石英片岩	棒状礫の小口部を敲打に使用している。器面は発達した節理に沿って剥離・磨耗した自然面である。	
39	石器 敲石	①A区44L-10 ②埋没土	完形 長・8.6 幅・8.1 厚・4.0 重・341 g	石材 粗粒輝石安山岩	扁平な礫の周縁を中心に集中敲打痕がみられる。	
40	石器 磨石	①C区2号溝 ②埋没土	完形 長・9.8 幅・7.8 厚・5.2 重・559 g	石材 粗粒輝石安山岩	平面楕円形を呈している。器面の一部に強い磨耗痕の残る磨面がみられる。周縁の一部は敲打にも使用されているか。	
41	石製品 磨石	①②攪乱	完形 長・11.1 幅・6.3 厚・1.4 重・158 g	石材 砂岩	表面の大半と裏面の一部に磨耗痕が認められる。	

中・近世の遺構外出土遺物

挿図番号 P L No	種別 器種	出土位置 ①平面②垂直	残存状態 計測値 (cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考		
42	土製品 不明品	①②C区表土	完形 長・4.5 幅・4.2 厚・4.1	①細砂 ②酸化 ③橙	外形は上・下面の直径がほぼ同一の円柱状を呈する。中央に0.9cmの小孔が貫通している。各面とも丁寧なナデ調整が施されている。			
43	土製品 十能把手?	①C区21号住居・南東 ②床直	破片	①細砂・白色軽石粒 ②還元 ③にぶい黄橙	筒状を呈する。器面は丁寧に仕上げられている。			
44	鉄製品 棒状品	①B区21号溝 ②表採	一部残存 長・(2.7) 幅・(0.3) 厚・(0.3) 重・0.58 g		断面四角形の棒状品。下端に向けて尖る状況から釘の可能性が高い。			
45	金属製品 鉄砲玉?	①C区65C-3 ②埋没土	完形 直径・1.0 重・7.25 g		表面は風化し、白色味をおびている。			
46	金属製品 煙管	①C区51号住居 ②埋没土	吸口部分ほぼ完形 長・5.2 小口直径・1.0 重・9.23 g		口付はナナメに切り込まれている。欠損後二次調整を施したためか。表面には文様が刻まれている。			
挿図番号 P L No	種別 銭貨名	出土位置 ①平面②垂直	銭外径 (mm)	銭内径 (mm)	銭厚 (mm)	重さ (g)	初鑄年代 国名	備考
47	銅銭 熙寧元寶	①A区44-H10 ②表土	A 24.51 B 24.66	C 20.08 D 20.18	① 1.18 ② 1.14 ③ 1.12 ④ 1.23	2.10	1068年 北宋	
48	銅銭 寛永通寶	①A区44-K18 ②埋没土	A 23.60 B 23.42	C 18.24 D 18.31	① 1.00 ② 0.94 ③ 0.99 ④ 0.96	1.73	1626年～ 日本	
49	銅銭 寛永通寶	①C区31号住居 ②埋没土	A 24.35 B 24.25	C 19.08 D 19.40	① 1.29 ② 1.31 ③ 1.51 ④ 1.36	2.81	1626年～ 日本	
50	銅銭 寛永通寶	①C区31号住居 ②埋没土	A 24.85 B 24.92	C 19.32 D 19.09	① 1.58 ② 1.60 ③ 1.56 ④ 1.77	3.64	1626年～ 日本	
51	銅銭 寛永通寶	①C区49号住居 ②埋没土	A 21.85 B 21.92	C 15.95 D 16.39	① 1.27 ② 1.02 ③ 1.19 ④ 1.02	1.84	1626年～ 日本	
52	銅銭 皇宋通寶	①C区56号住居 ②埋没土	A 24.43 B 24.47	C 19.43 D 18.80	① 1.23 ② 1.04 ③ 1.01 ④ 1.20	3.16	1626年～ 日本	表面やや磨耗。





財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
調査報告書第384集

**富田細田遺跡/富田宮下遺跡**  
《遺物観察表編》

一般国道17号(上武道路)改築工事に  
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成18(2006)年12月21日 印刷

平成18(2006)年12月28日 刊行

編集・発行/国 土 交 通 省

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橋町下箱田784-2

T E L (0279) 52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷/株式会社開文社印刷所